

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	鬼怒川ゴム工業株式会社			
所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地			
事業者番号	0602			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,715	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	19 ゴム製品製造業			
分類番号 (中分類)	19			
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：自動車用ゴムホース製造		
	区分	企業		
	前年度	資本金	500	百万円
		従業員数	463	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035001	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部	2,715
合 計			2,715

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 埼玉ホース部品生産部 受付
		所在地 1 埼玉県入間市大字新光235番地
		閲覧可能時間 1 9:00~18:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ホース部品経営管理部	04-2932-1211	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境理念**  
 当社は、地球の環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりのある社会造りに貢献していきます。

**環境方針**  
 当社は、『きれいな環境 残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用していきます。

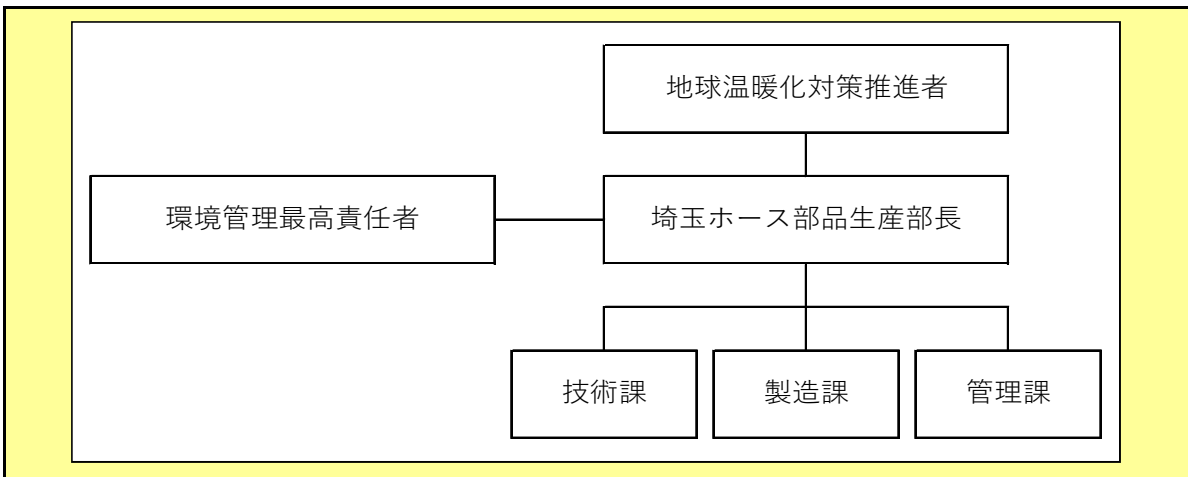
1) 当社の事業活動が地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、継続的な改善を進めながら地球環境の保全に努めます。

2) 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。

3) 関連する法規及び条令、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。

4) 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,078	5,329			
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,078	5,329			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0602	事業所番号	035001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	鬼怒川ゴム工業株式会社 埼玉ホース部品生産部		
事業所所在地	市区町村	入間市	
	字・地番	大字新光235番地	
産業分類名(中分類)	19 ゴム製品製造業		
分類番号(中分類)	19		
事業活動の概要	事業内容	自動車用ゴムホース製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,464	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,366	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				



## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,585	2,715			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,078	5,329			
前 年 度 比 ( % )	—	4.9			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,078	5,329			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.4753	1.4400			
前 年 度 比 ( % )	—	-2.4			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
ゴム使用量	t/年	3,442.00	3,700.64		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和1年に対して令和2年のCO <sub>2</sub> 排出量が減少した主な要因としては生産量の減少（半導体減産影響に伴う客先減産）
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和2年に対して令和3年のCO <sub>2</sub> 排出量が増加した主な要因としては客先半導体減産、新型コロナ影響が令和2年度より令和3年度が多少回復した事もあり生産量が増加（前年度比+8.7%）した影響による。又、CO <sub>2</sub> 排出量原単位が令和2年度に対し令和3年度が減少した主な要因については、各種の省エネ効果が出ている
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,366	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,366	7,366	7,366	7,366	7,366	36,830
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						29,464
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,366
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,078	5,329				10,407
	削減率 (F = (A - E) / A)	31.06%	27.65%				—
	排出削減量 (G = A - E)	2,288	2,037				4,325
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

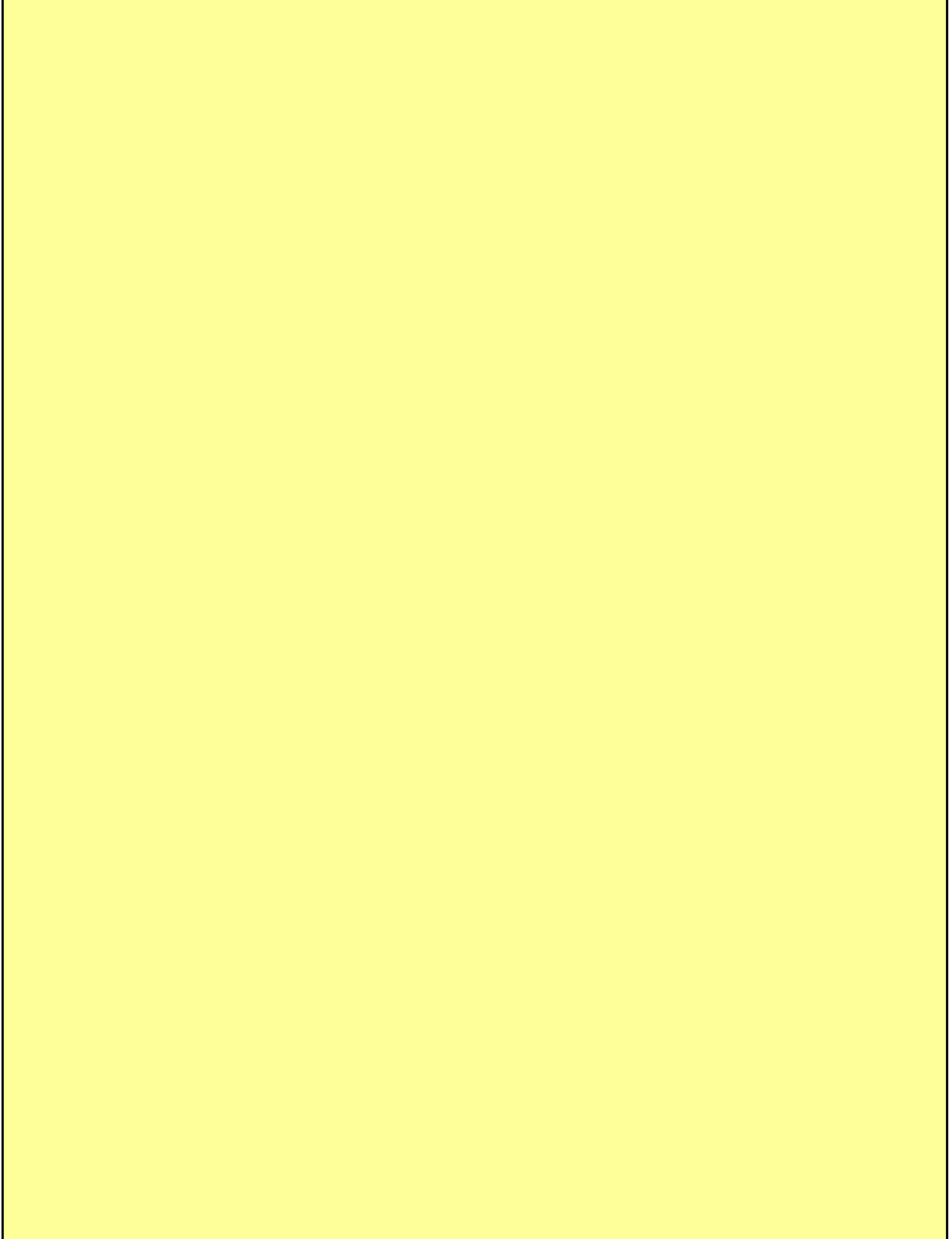
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R2	R2	
2	490200		その他 49_その他の削減対策	工場屋根の断熱塗装	R2	R2	
3	360700		ポンプ、ファン、プロワー、コンプレッサー等 36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアーコンプレッサーのインバーター化	R2	R2	
4	310500		一般管理事項 31_生産工程のエネルギー管理	生産工程歩留り向上、生産性向上改善活動(継続)	R2	R2	
5	490200		その他 49_その他の削減対策	老朽化設備更新(LPG気化装置)	R3	R3	
6	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明からLED照明への変更	R3	R3	
7	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化	R3	R3	
8	330200		空調設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化設備更新(冷却チラー、排気ファン)	R4		
9	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	押出機駆動モーターのインバーター化(R4計画分)	R4		
10	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内照明機器のLED化(第2期分)	R4		
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社カナオカグラフィア			
所在地	東京都台東区台東1丁目32-6			
事業者番号	0603			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 （前年度）	5,748	kL/年		
大規模小売店舗面積 （単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所）		㎡		
産業分類名 （中分類）	15 印刷・同関連業			
分類番号 （中分類）	15			
事業活動の 概要	事業内容	事業内容：プラスチックフィルム等のグラフィア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売 従業員：700名		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	700	人
商標又は商号 （連鎖化事業者のみ）				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060300	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	449
B、C事業所			
C	044501	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場	2,518
C	044502	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場	2,781
合 計			5,748

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1 埼玉第二工場
		所在地 1 埼玉県鴻巣市笠原854-1
		閲覧可能時間 1 営業時間8時15分～17時15分の間
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	埼玉第二工場 FSSC推進室	048-543-6211	
2			
3			

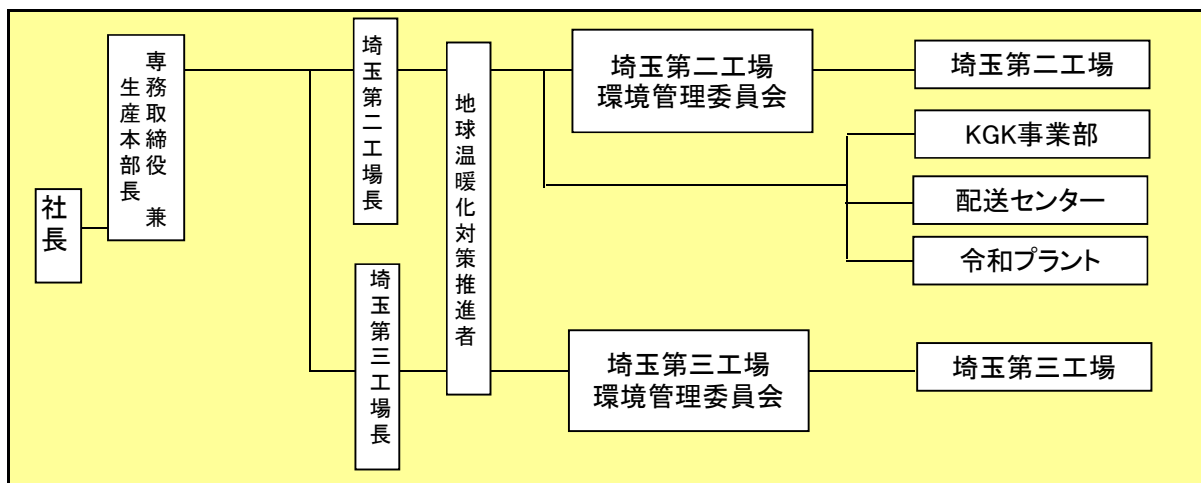
※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**環境方針**  
 株式会社カナオカグラビアは、地域及び地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、事業活動の各段階において環境に対してきめ細かな配慮をし、以下の活動を推進していきます。

1. 環境関連の法規制及び協定その他の合意事項を遵守します。
2. 以下の環境への負荷低減に務め、継続的に改善します。
  - (1) 地球温暖化を防止する為の省エネルギー活動
  - (2) 省資源化、並びにリサイクルに取組み廃棄物の削減
  - (3) 揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出削減
3. 本方針を達成するために、環境目標を具体的に定めて実行し、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	10,821	11,560			
その他ガス					
温室効果ガスの計	10,821	11,560			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり



令和 4 年度

事業者番号	0603	事業所番号	060300
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	前年度における事業所数	3
代表事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	上谷2115-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製造品：別工場で仕上がったプラスチック加工フィルムの更なる加工。各工場 で仕上がった製品の保管、出荷、配送。 従業員：KGK事業部75名、 配送センター47名、令和プラント21名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	866	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	その他ガス	2拠点の合計での管理となりますが、一方は製造、もう一方は別拠点を含めた保管・出荷・配送となる。KGK事業部は機械や空調での電気使用。配送センターは照明と空調。パレット洗浄機があるのでガスの使用がある。基準排出量は2019年の数値(866t-CO <sub>2</sub> )とし、これより増えないよう管理する。				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場 KGK事業部	鴻巣市上谷2115-5
2	株式会社カナオカグラビア 配送センター	埼玉県鴻巣市上谷2129-1
3	株式会社カナオカグラビア 令和プラント	埼玉県北本市中丸10-194-1
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	411	449			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	866	810	884			
前年度比（％）		—	9.1			
基準となる排出量に対する削減率（％）		6.5	-2.1			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		810	884			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比（％）		—				
基準となる原単位に対する削減率（％）						
活動規模の指標	単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	埼玉第二工場、第三工場の売上増に伴い、配送センターの電気使用量は増えたが、排出量の8割以上を占めるK G K事業部の生産数が減った為、2019年度よりも排出量は減った。
令和3年度 (2021年度)	令和プラントが出来て11月から電気使用量が発生した事で単純に増えた。 K G K事業部は前年度とあまり変わらず。 配送センターでは、一部の製品が委託先へ移行した事でラック倉庫のクレーン稼働が減ったのと空調の温度設定管理を行った事で電気の使用量が減った。 ガスの使用量に関してはパレット洗浄機の稼働が増えた事で使用量が増えた。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	KGK事業部2棟ある内の古い棟が全てラ ビットタイプの蛍光灯だった為、LED化。		R1以前	
2	350600	受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気 の損失の防止に関す る措置	KGK事業部ではH31年2月に事務所にデマ ンド計を設置。これにより夏場の電気使用 量を管理する。		R1以前	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	H27年度にLED化行ったKGK事業部古い棟は新しい 棟を建てた事で、使用してはなく、もう1棟が一部LED 化していない為、そのLED化を予定		R6	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

弊社埼玉エリアで製造した製品の配送業と弊社製品の一部の特殊製品を加工する工場、更に2022年1月に埼玉第一工場の跡地に令和プラントが竣工し、これらの3つの事業所が対象。KGK事業部は加工賃払いの工場。一方で配送センターは埼玉第二工場、第三工場、KGK事業部、令和プラントで仕上がった製品の保管、出荷、配送業務を行う事業所です。KGKは工場なので配送センターの7倍位、電気を使用しており、それに見合った両事業所が共通する原単位がない為、3の(3)の「計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況」は設定出来ません。今後、新しい工場の令和プラントの生産が順調に進めば電気使用量が増えます。更に機械を入れるスペースはまだある為、生産機も増えて行く方向です。その為、基準となる排出量は今後見直します。

令和 4 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	笠原854番地1	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	24,104	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	6,026	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,318	2,518			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,540	4,936			
前 年 度 比 ( % )	—	8.7			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,540	4,936			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.1253	1.1387			
前 年 度 比 ( % )	—	1.2			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
売上	百万円/年	4,034.42	4,334.75		



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>メインの生産機への投入量は前年比103%でした。電気の使用量は対前年97%、ガスの使用量は対前年107%と言う結果でした。            ガスは11月、12月とこの3月が昨対約130%だった為、この3カ月の使用量が足を引っ張った形です。            電気についてはコロナの影響で前半稼働が少し減り、休日出勤をしていた部署が休日出勤を行わなくなった事もあり使用量が減った。            2020年4月頃印刷機導入（2021年12月末移動）</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>6月から生産増の対応の為にラミネートの2班体制が3班制になり、1階の印刷・ラミネート室でも土日稼働が始まった（1階の大型生産機は8台あり、その中の2台だけが土日稼働し始めた）。1階では動力として空調と印刷機、ラミネート機の乾燥設備にガスを使用している。当工場では印刷機、ラミネート機が稼働するとそこで発生するVOCを燃やしてその熱源で廃熱ボイラーが稼働する設備がある為、この廃熱ボイラーが稼働するとガス炊きボイラーの使用量が減るのだが、ラミネート機2台だけの稼働では、廃熱ボイラーを動かす程のVOCの燃焼能力がない事で廃熱ボイラーは土日動かしていない。この状況が輪を掛けてガスの使用量を増やしてしまっている。</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,026	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,026	6,026	6,026	6,026	6,026	30,130
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						24,104
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						6,026
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,540	4,936				9,476
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	24.66%	18.09%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,486	1,090				2,576
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

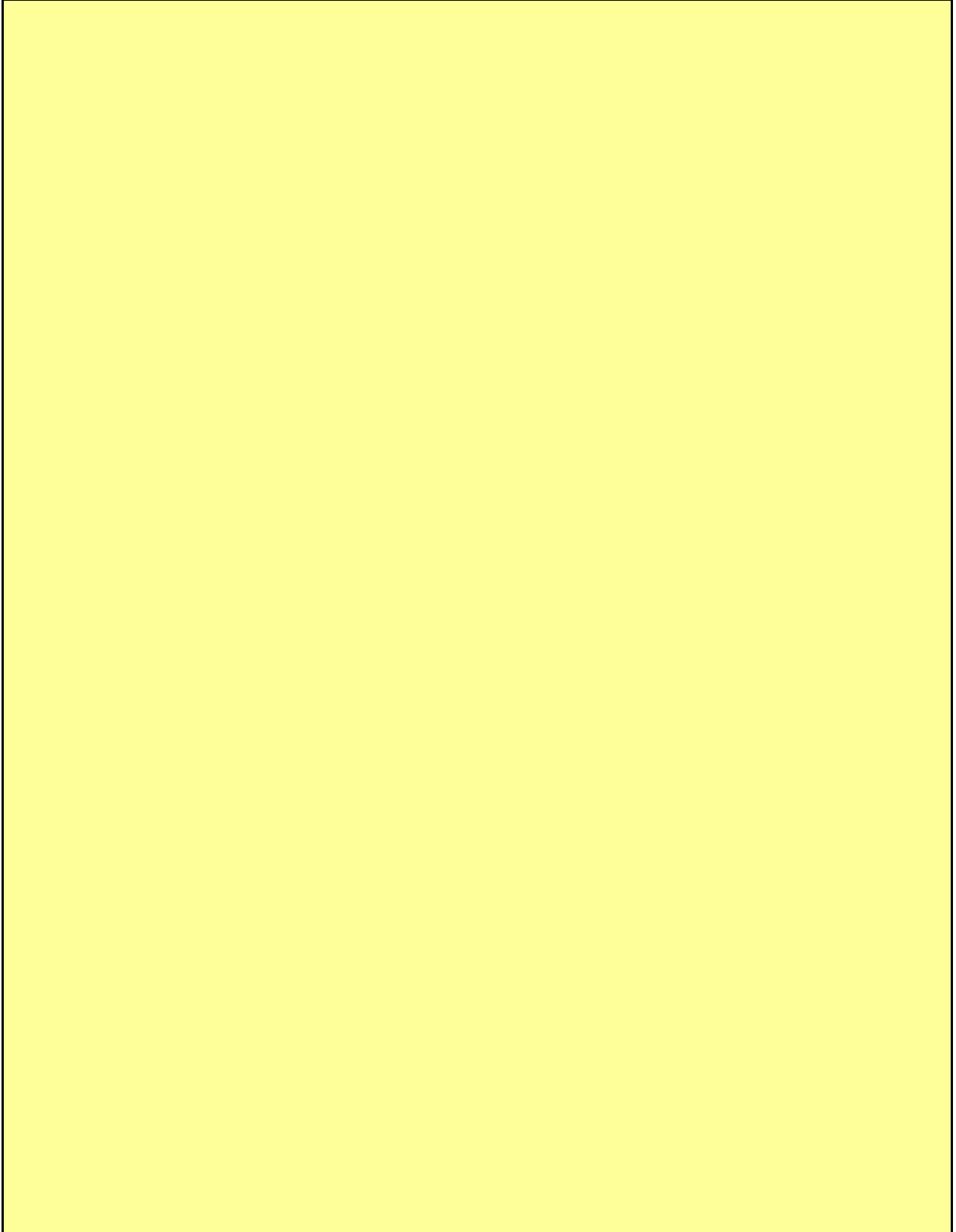
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	グラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
6	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製袋機エリアの古い大型パッケージエアコンを最新の高効率エアコンに入れ替え	R2	R2	
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	3階の製版エリアでまだ古いパッケージエアコンが2台ある為、高効率のものへ変更予定	R6		
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0603	事業所番号	044502
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場		
事業所所在地	市区町村	羽生市	
	字・地番	川崎一丁目371番地15	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	プラスチックフィルム等のグラビア印刷、ラミネート、仕上げ加工及び販売	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,692	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,423	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,630	2,781			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,471	5,740			
前年度比 (%)	—	4.9			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,471	5,740			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.5448	1.5134			
前年度比 (%)	—	-2.0			
活動規模の指標	単位				
売上	百万円/年	3,541.49	3,792.79		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無	印刷・ラミネートの大型機械が入る1階は空調はボイラーが熱源となるが、2019年度までは暖房から冷房に切り替わる季節において効率の悪い使用を行っていた。2020年度から季節の切り替え方法を見直しを行いガスの使用量が4月、5月はかなり減った。 VOC処理装置を熱源とする廃熱ボイラー設備が老朽化してきた事もあり、12月に修理を行った事で、この設備の稼働が良くなり、2月以降もガスの使用量が多く減った。 2021年2月に「新テント 600㎡」増加した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和2年度12月に行った廃熱ボイラー関連の設備の修理による設備の効率が復帰した事で廃熱ボイラーの稼働が増え、更には増築による基準排出量の変更協議も受理され基準排出量の変更があった事もあり、生産増による電気の使用量は増えたが、基準排出量の20%以上の削減が出来た。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,423	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,423	7,423	7,423	7,423	7,423	37,115	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							29,692
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							7,423
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,471	5,740				11,211	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	26.30%	22.67%				—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,952	1,683				3,635	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					



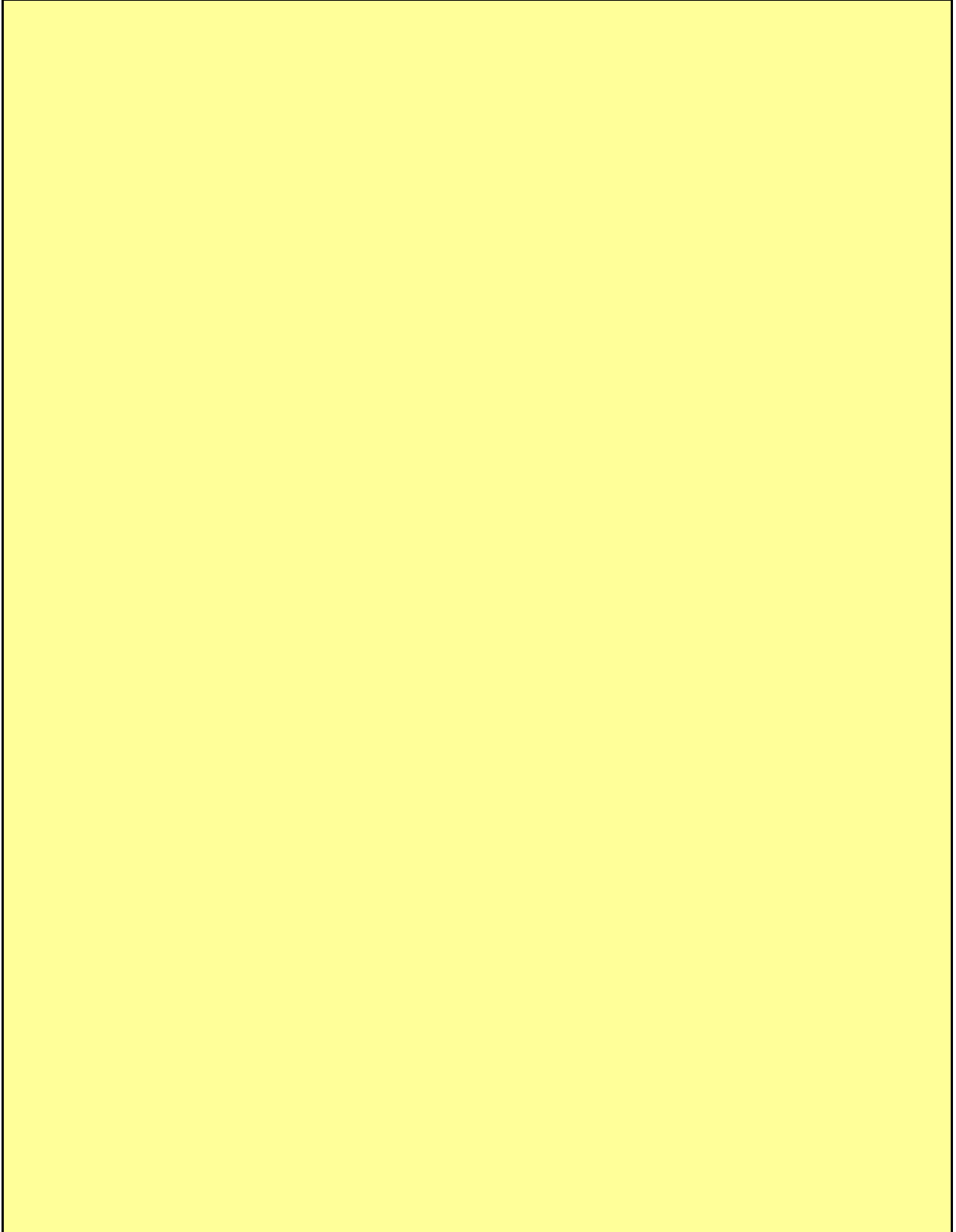
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	設立からグラビア印刷で大気に排出されていた、有機溶剤を濃縮し自己燃焼させ、蒸気として熱回収する、環境を配慮した装置の導入により、ガスの使用量を削減		R1以前	
2	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	上記VOC処理装置の効率的運転によりエネルギー削減効果を出す。		R1以前	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の加工設備側には窓は無いが、事務所側にあるの窓に遮光フィルムを貼り、断熱効果に一役		R1以前	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	防爆照明以外の照明をLED化		R1以前	
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	全熱交換機を導入し、溶剤使用室内のクリーンな空気だけを内循環出来る省エネ設備を導入		R1以前	
6	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	VOC処理装置から廃熱ボイラーに繋がる一連の設備の老朽化の部品を交換し、効率改善を行う予定	R2	R2	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 湖池屋			
所在地	東京都板橋区成増5丁目9-7			
事業者番号	0604			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	9,104	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	スナック菓子（主にポテトチップス）製造・販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	2,269	百万円
		従業員数	858	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	013801	株式会社湖池屋 関東工場	9,104
合 計			9,104

## (4) 公表方法

<input type="radio"/>	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="https://koike-ya.com/csr/index.html">https://koike-ya.com/csr/index.html</a>
<input type="radio"/>	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	株式会社湖池屋 マーケティング部 広報課
		所 在 地 1	東京都板橋区成増5-9-7
		閲 覧 可 能 時 間 1	9:00~16:00 (土日祝日除く)
		閲 覧 場 所 2	株式会社湖池屋 関東工場 総務課
		所 在 地 2	埼玉県加須市久下1615
		閲 覧 可 能 時 間 2	9:00~16:00 (土日祝日除く)
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社マーケティング部広報課	080-3582-2708	
2	関東工場総務課	0480-65-1064	
3			

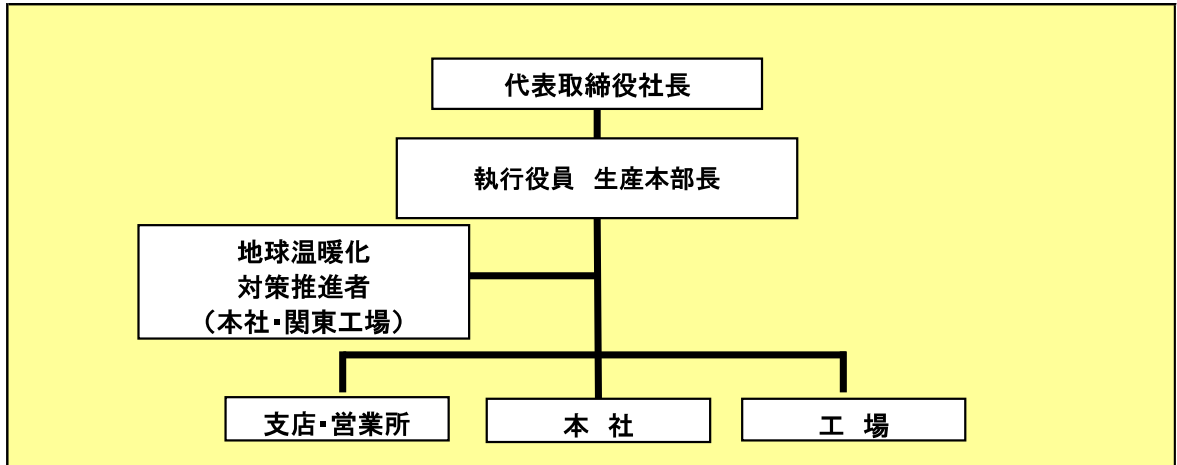
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

グループ環境行動指針

1. 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設定し、事業活動に取り組みます。
  2. 事業活動による廃棄物の削減及び再資源化、省資源、省エネルギーを推進するとともに、地球環境に負荷を与える物質の削減に取り組みます。
  3. 環境に配慮した原料・資材調達、商品開発、生産に努めます。
  4. 環境保全のための社会貢献活動に取り組みます。
  5. 環境教育を通じ、環境保全に対する意識向上を図るとともに、全社員が環境意識を持って行動します。
- 環境行動指針に準拠し、民生部門の削減行動、産業部門の設備投資により省エネルギーに取り組み、温室効果ガス排出量の削減に結びつけます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	18,601	17,716			
その他ガス					
温室効果ガスの計	18,601	17,716			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0604	事業所番号	013801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社湖池屋 関東工場		
事業所所在地	市区町村	加須市	
	字・地番	久下1615番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容: スナック菓子(主にポテトチップス)製造・販売 従業員数: 720名(平成31年6月末現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し削減計画期間の平均削減率目標を25%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	81,324	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	20,331	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	9,559	9,104			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	18,601	17,716			
前年度比 (%)	—	-4.8			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	18,601	17,716			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.0875	1.1380			
前年度比 (%)	—	4.7			
活動規模の指標					
生産量	t/年	17,105.00	15,567.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三工場稼働開始による床面積、生産ラインの増加</li> <li>・対昨年で生産出来高12%増、稼働時間6.6%増</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対昨年で生産出来高9%減、稼働時間2.2%減によるエネルギー消費量の減少（対昨年で電気1.7%減、都市ガス5%減）</li> </ul>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	



3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	20,331	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 ( t-CO <sub>2</sub> /年 )
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	20,331	20,331	20,331	20,331	20,331	101,655	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							81,324
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							20,331
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	18,601	17,716				36,317	
	削減率 (F = (A - E) / A)	8.51%	12.86%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	1,730	2,615				4,345	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	人感センサー等による在室検知制御の導入	R4		5.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明器具のLED化	R4		50.0
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空気調和設備の更新(効率の向上)	R4		20.0
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋上屋根への断熱塗料の塗布	R4		10.0
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	日照調整フィルムの貼り付け	R4		5.0
6	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	コンテナ殺菌機表面の断熱強化	R4		10.0
7	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	スチームトラップの点検・清掃及び更新	R4		10.0
8	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	ガスコージェネレーションシステム導入による消費エネルギー削減	R1以前	R1以前	
9	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	L2-Tech認証設備の導入	R1以前	R1以前	
10	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	効率の良い設備の導入もしくは更新	R4		65.0
11	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラーブローの排熱の有効活用	R4		2.7
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 

4
---

 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 プレナスフーズ			
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町大字深輪398-12			
事業者番号	0605			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,802	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	食料品の加工・販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50	百万円
		従業員数	420	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	060501	株式会社プレナスフーズ CENTOS	2,802
合 計			2,802

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	株式会社 プレナスフーズ
		所在地 1	埼玉県北葛飾郡杉戸町大字深輪398-12
		閲覧可能時間 1	午前9:00～午後4:30、月～金（祝日を除く）
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	設備技術部	0480-36-7228	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**(1) 目的**

- ・循環型社会推進における環境法令に対応することで企業責任を果たす
- ・企業全体の環境負荷や取り組みを把握し、企業価値向上に向けてステークホルダーに発信する

**(2) 対象課題**

- ①CO<sub>2</sub> 排出量削減対策
- ②プラスチック対策（レジ袋、プラスチック容器関連）
- ③食品ロス削減・食品リサイクル対策

**(3) 対象範囲**

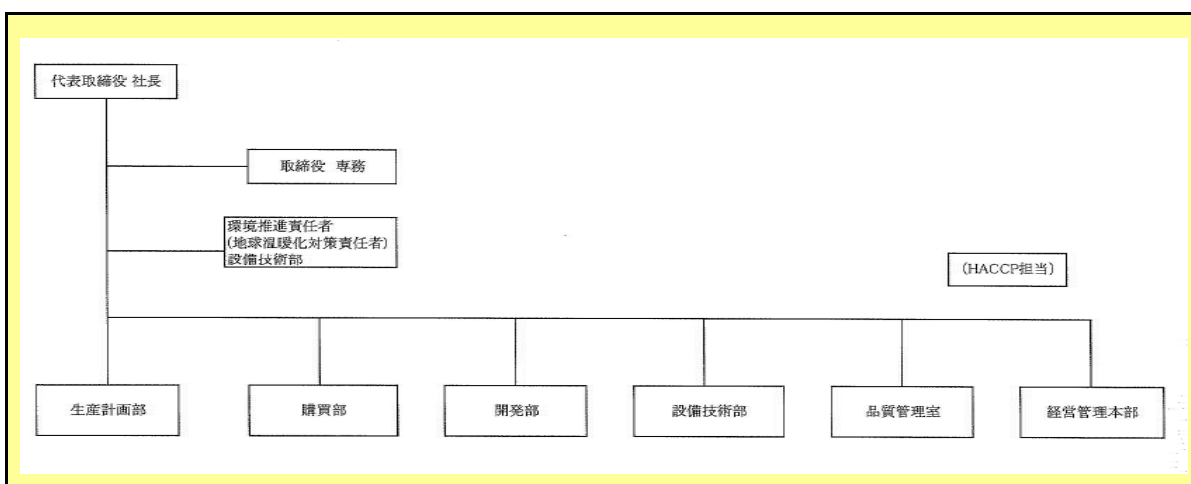
プレナス及びプレナスグループ会社

※まずは国内で取り組み、国外の取り組み是非については確認必要

**(4) 取り組み概要**

- ①全社環境負荷数値の把握、自社環境法令対応の状況確認
- ②対象課題への取り組み
- ③取り組みの開示（持続可能な社会への貢献、企業価値の向上）

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,383	5,752			
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,383	5,752			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0605	事業所番号	060501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社プレナスフーズ CENTOS		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡杉戸町	
	字・地番	大字深輪398-12	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業所内容 冷凍調理食品製造業 精米	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和元年度のCO <sub>2</sub> 排出量4,809 t-CO <sub>2</sub> を基準として、令和2及び3年度の排出量を2%以上削減します。令和4年度からは、C事業所になるため、令和4~6年度の排出量を基準排出量の8%以上削減します。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,619	2,802			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,383	5,752			
前 年 度 比 ( % )	—	6.9			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,383	5,752			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1855	0.1820			
前 年 度 比 ( % )	—	-1.9			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t/年	29,022.00	31,600.00		



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	調温庫設備の増設、生産量の増加、生産時間の延長
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	調温庫設備の増設による電力使用量の増加、生産量の増加、生産時間の延長
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

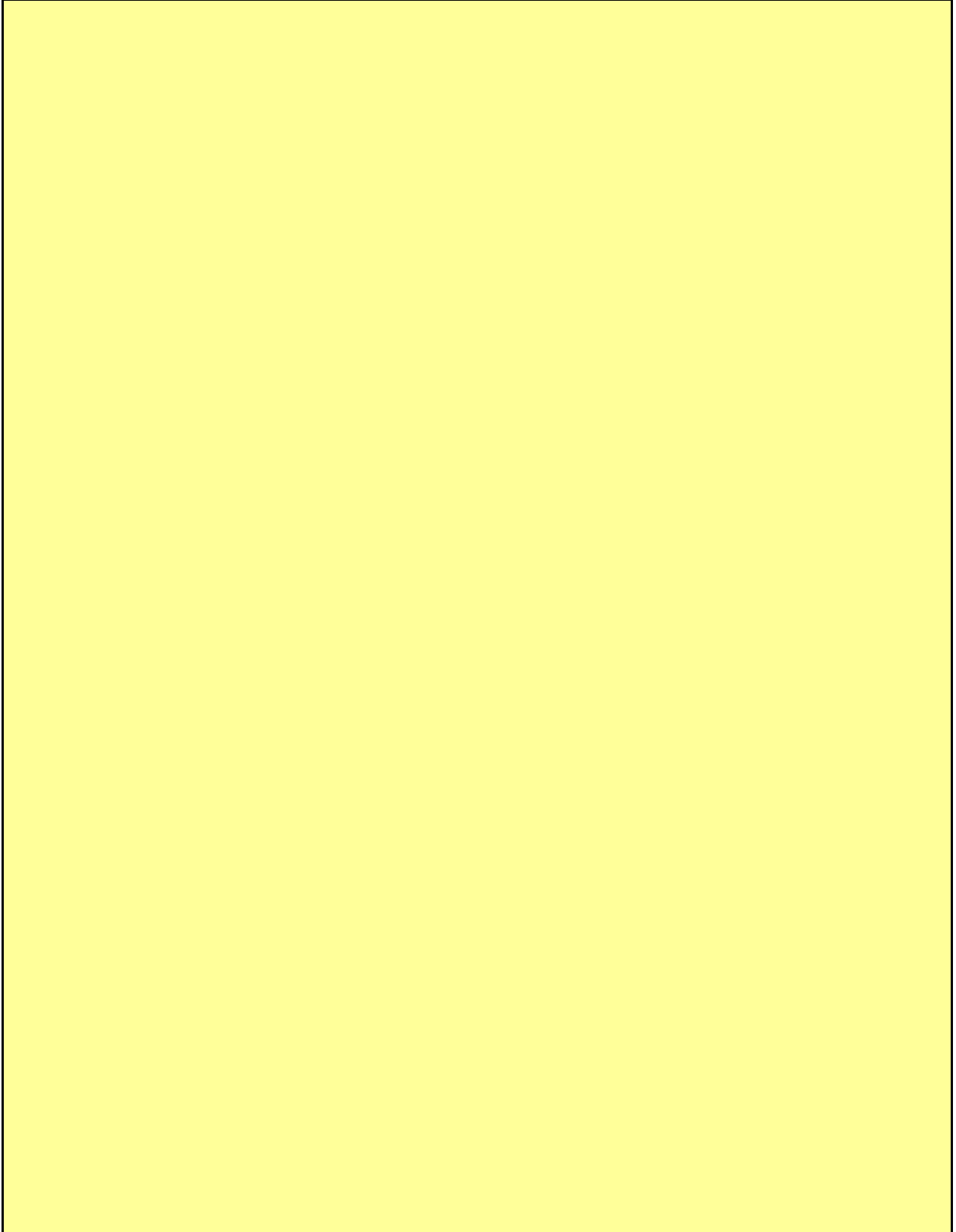
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関わる推進組織の整備	R3	R3	
2	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラー2台稼働から1台稼働に変更	R3	R3	20.0
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	生産停止日のボイラー稼働停止	R3	R3	20.0
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気バルブに保温材の設置	R4		10.0
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	外調機のデマンド制御	R3	R3	40.0
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	佐川印刷株式会社			
所在地	京都府向日市森本町戊亥5番地の3			
事業者番号	0607			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,220	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	商品カタログ・パンフレット等商業印刷物の 総合企画制作、印刷・製本加工・組版・製版 等		
	区分	企業		
	前年度	資本金	100	百万円
		従業員数	1,750	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	060700	佐川印刷株式会社 越谷工場	50
B、C事業所			
C	052301	佐川印刷株式会社 松伏工場	1,170
合 計			1,220

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	松伏工場 総務課	048-991-4520	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

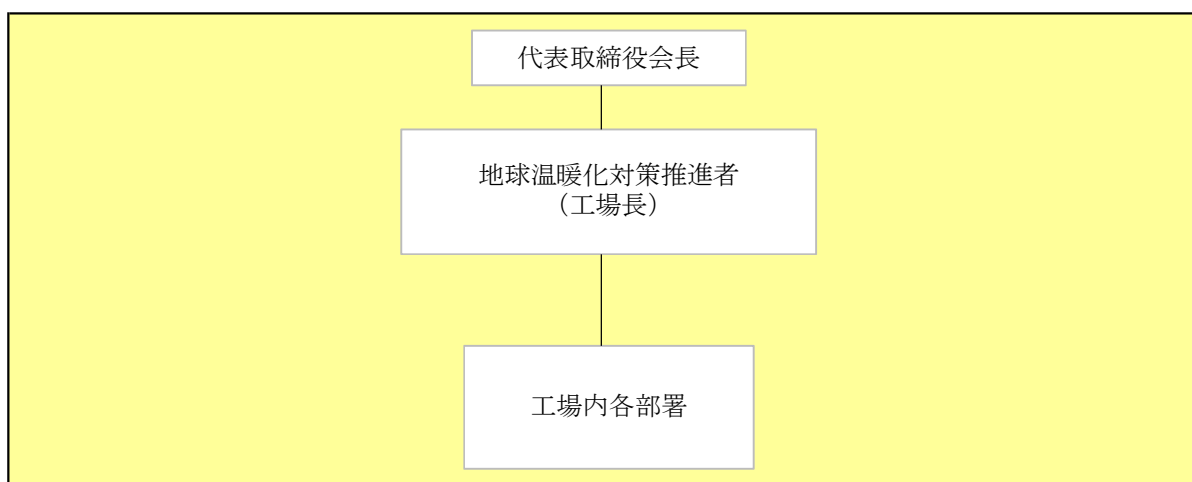
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

佐川印刷は、地球温暖化防止・環境改善に力を入れており、再生紙の使用、CTP導入によるフィルムレス（資源保護）など、さまざまな活動に取り組んでいます。

【資源使用量の低減と廃棄物低減の継続】

私たちは、生産活動において生じる環境汚染要因、資源の使用量、再資源化されない、排出物の排出量の低減を図るため、目的・目標を定め継続的に環境保全活動を展開します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,364	2,398			
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,364	2,398			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0607	事業所番号	060700
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	佐川印刷株式会社 越谷工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	越谷市	
	字・地番	西方2639-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	製本加工・アッセンブリー業務 主な設備：製本設備、立体倉庫		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	827	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	第2計画期間に引き続き可能な限りの対策を講じ、平成26年度の排出量(827t-CO <sub>2</sub> )を基準として、令和6年度末までに15%の削減努力を継続します					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	佐川印刷株式会社 越谷工場	越谷市西方2639-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。



## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	107	50			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	827	211	98			
前年度比 (%)		—	-53.6			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		74.5	88.1			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		211	98			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		3.8364	6.1250			
前年度比 (%)		—	59.7			
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単 位					
出荷額	百万円/年	55.00	16.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	生産ラインの縮小により、CO <sub>2</sub> 排出量が大幅に減少したと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	生産ラインを廃止し、出荷業務メインとなったためCO <sub>2</sub> 排出量が大幅に減少したと考えられる。
令和4年度 (2022年度)	※2022年5月より、工場建て替えのため建物解体。(2年後を目途に立替え予定)
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

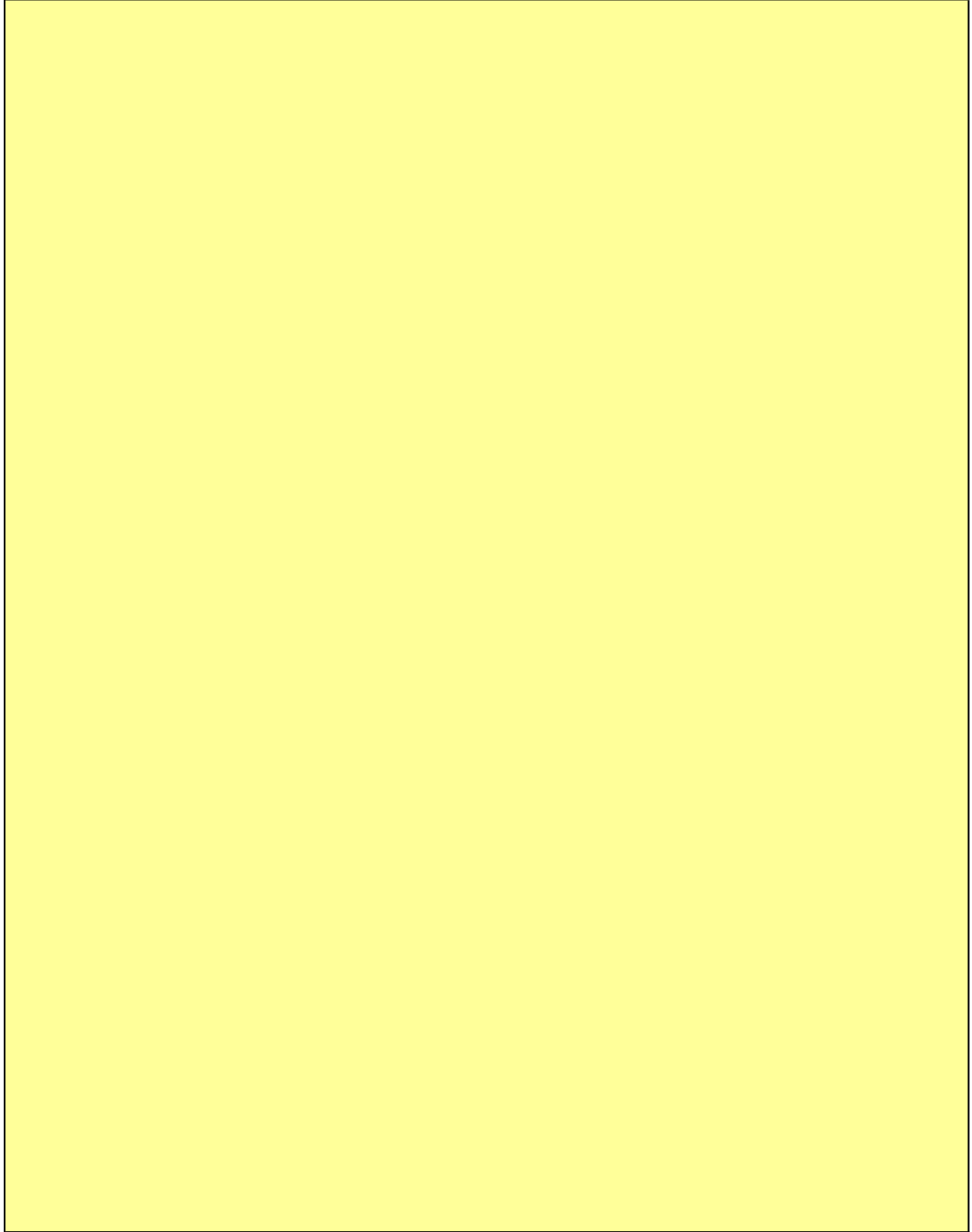
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画も継続>		R1以前	80.0
2	330200	空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調温度管理および機器点検 <第3計画も継続>		R1以前	40.0
3	310200	一般管理事 項	31_主要設備等の保 全管理	設備の保守管理 <第3計画も継続>		R2	60.0
4	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	生産ライン縮小による電気動力の抑制		R3	80.0
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0607	事業所番号	052301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	佐川印刷株式会社 松伏工場		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡松伏町	
	字・地番	大字田島東3番地2	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	紙媒体の印刷及び製本 主な設備：オフセット輪転印刷機(両面4色刷機) 製本加工設備(中綴機、折加工機) 巻取自動立体倉庫等	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減対象期間の平均削減率を20%とします。 (必要に応じて排出量取引を活用します)				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,652	t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,095	1,170			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,153	2,300			
前 年 度 比 ( % )	—	6.8			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,153	2,300			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	5.6958	5.2874			
前 年 度 比 ( % )	—	-7.2			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	百万円/年	378.00	435.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により印刷受注量が減少。</li> <li>・オフリン1号機の更新による、電力使用量削減とCO<sub>2</sub>排出量の減少。</li> <li>・2階共有スペース・事務室等を蛍光灯からLEDに交換。</li> </ul>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>前年より生産量が増加したため、CO<sub>2</sub>排出量は6.8%増加したが、オフリン3号機更新・4号機撤去などにより、基準排出量4,913t-CO<sub>2</sub>に対し53.19%の削減率となった。</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,913	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,913	4,913	4,913	4,913	4,913	24,565	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							19,652
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,153	2,300				4,453	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	56.18%	53.19%				—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,760	2,613				5,373	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					



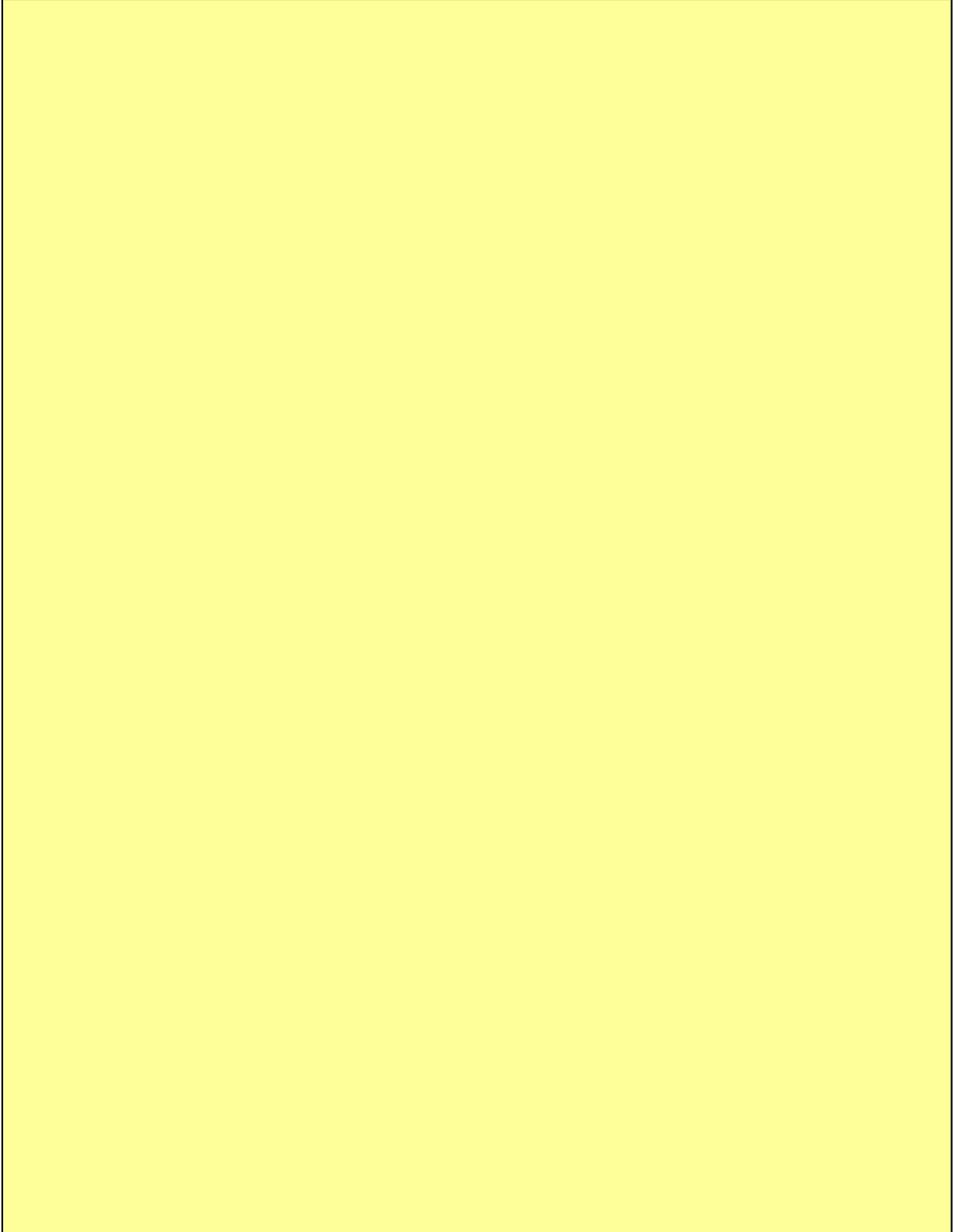
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	未使用場所の消灯 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0	
2	350600		受変電設備、 配電設備	35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する 措置	デマンド装置によるピーク電力管理 昼休みシフトによるピーク電力抑制 <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0	
3	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による合理化 (A輪1台) <第3計画期間も継続>	R1以前	80.0	
4	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転印刷機更新による エネルギー使用量削減	R2	150.0	
5	330200		空調和設備・ 換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調設備更新後の効率的な運用 <第3計画期間も継続>	R1以前	50.0	
6	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転課コンプレッサーの効率的運用 ・インバーター機能の活用/咄嗟圧力 調整<第3計画期間も継続>	R1以前	70.0	
7	360700		ポンプ、ファン、 ブロワー、 コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	チラー更新による合理化	R1以前	70.0	
8	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新(非常灯) <第3計画期間も継続>	R1以前	120.0	
9	490200		その他	49_その他の削減対 策	外壁補修・塗装による断熱効果 天窓補修による換気改善 <第3計画期間も継続>	R1以前	100.0	
10	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	生産体制の管理強化と効率的な機械稼 働	R2	200.0	
11	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転1号機更新によるエネルギー使用量 削減	R2	80.0	
12	370700		電動力応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	輪転3号機更新・4号機廃止によるエネ ルギー使用量削減	R3	R3	148.0
13	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	駐車場水銀灯・製本室・刷版室の LED照明への更新	R4	23.0	
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社			
所在地	大阪府大阪市西淀川区歌島4-6 5			
事業者番号	0608			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	4,334	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	2011年1月11日 関東グリコ株式会社として創立 2020年7月1日 グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社に吸収合併され、同北本工場となる 事業内容：菓子（ポッキー、プリッツ等）の製造 その他：見学者施設を併設		
	区分	企業		
	前年度	資本金	80	百万円
		従業員数	600	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	051401	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場	4,334
合 計			4,334

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	弊社応接室
		所在地 1	埼玉県北本市中丸9丁目55番地
		閲覧可能時間 1	9:00~17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ファクトリーイノベーション推進課	048-593-8209	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

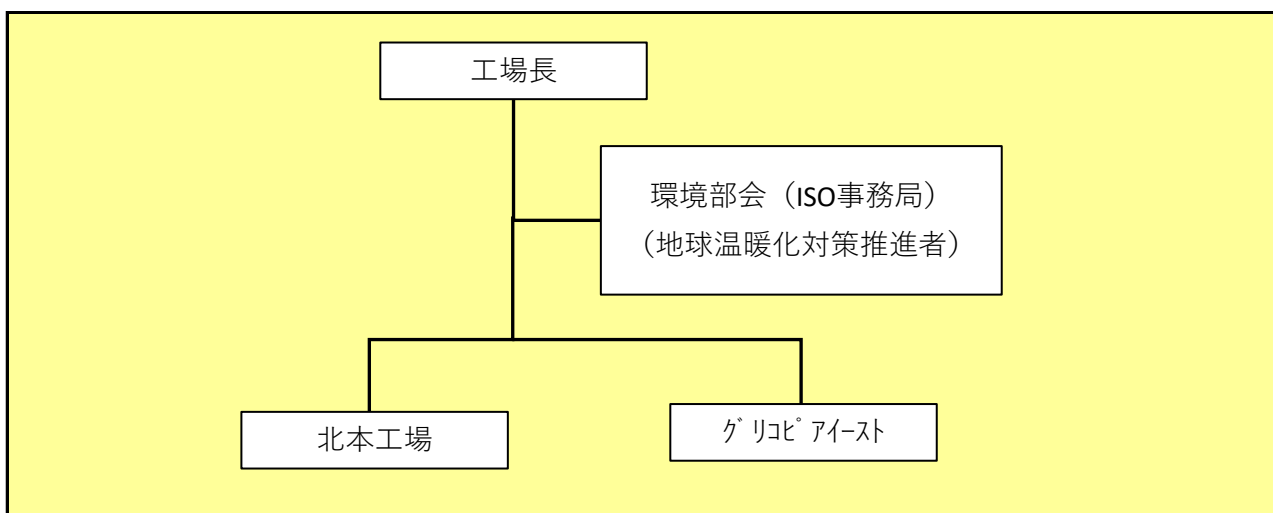
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

グリコグループ環境方針  
 地球規模での自然保護や豊かな人間性の回復へと向かう現代において、わたしたちは、グリコグループの企業理念である「おいしさと健康」のもと、環境にやさしい企業活動を推進していきます。

1. わたしたちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。

2. わたしたちは、環境汚染や地球温暖化の防止に取り組み、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	8,732	8,513			
その他ガス					
温室効果ガスの計	8,732	8,513			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0608	事業所番号	051401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 北本工場		
事業所所在地	市区町村	北本市	
	字・地番	中丸9丁目55番地	
産業分類名(中分類)			
分類番号(中分類)			
事業活動の概要	事業内容	創立：2020年7月1日(関東グリコを吸収合併) 工場稼働：2011年10月 事業内容：菓子製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、2～5年度の平均削減率をトップレベル認定後の6.5%以上、6年度は10%以上とする。必要に応じて排出量取引を利用する。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	44,047	t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)	5,893	t-CO <sub>2</sub>			
				事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,444	4,334			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	8,732	8,513			
前年度比 (%)	—	-2.5			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	8,732	8,513			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.5332	0.5003			
前年度比 (%)	—	-6.2			
活動規模の指標単位					
生産量	t	16,377.80	17,014.20		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 666台 外灯のLED化 51台 照度過剰による間引き 139台 照度過剰による出力低下(50001m⇒25001m) 22台 人感センサによる点けっぱなし防止 105台 アンローダ式コンプレッサー75kwをインバータ式75kwへ更新 4台計99.5kwのモーターをトップランナー品に更新 遮熱フィルム(iQUE)の施工 計216㎡					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	蛍光灯をLEDへ更新 551台 照度過剰による間引き 32台 照度過剰による出力低下(50001m⇒25001m) 172台 人感センサによる点けっぱなし防止 45台 アンローダ式コンプレッサー75kwをインバータ式75kwへ更新 4台計99.5kwのモーターをトップランナー品に更新 遮熱フィルム(iQUE)の施工 計208㎡ 令和2年度と比較して、令和3年度は排出量が減少した					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	



3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,988	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	9,988	9,988	9,988	9,988	9,988	49,940
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定	トップレベル	トップレベル				
	目標削減率 (B)	6.50%	6.50%	13.00%	13.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						44,047
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						5,893
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	8,732	8,513				17,245
	削減率 (F = (A - E) / A)	12.58%	14.77%				—
	排出削減量 (G = A - E)	1,256	1,475				2,731
各年度の排出量の検証		実施済	実施済				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
								大 区 分
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R2	R2	72.4
2	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更新	R2	R2	10.0
3	490200		その他	49_その他の削減対策	遮熱フィルムによる見学施設空調負荷低減	R2	R2	2.0
4	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	ポンプモーターのトップランナーへの更新	R3	R3	5.0
5	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R3	R3	51.0
6	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーター式コンプレッサーへの更新	R3	R3	10.0
7	490200		その他	49_その他の削減対策	遮熱フィルムによる空調負荷低減	R3	R3	2.0
8	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	ポンプモーターのトップランナーへの更新	R3	R3	5.0
9	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアコン室外機への冷媒凝縮促進装置(のび太くん)の設置	R3	R3	18.0
10	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	人感センサによる点けっぱなし防止	R3	R3	10.0
11	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	蛍光灯のLEDへの更新	R4		35.0
12	320400		熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	コンプレッサー排熱の温水余熱利用	R4		3.0
13	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアコン室外機への冷媒凝縮促進装置(のび太くん)の設置	R4		6.0
14	360700		ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	各フロアへのエア流量計設置と電磁開閉弁設置によるエア漏洩防止	R4		20.0
15	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	人感センサによる点けっぱなし防止	R4		8.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	双日株式会社			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号			
事業者番号	0609			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 （前年度）	1,585	kL/年		
大規模小売店舗面積 （単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所）		㎡		
産業分類名 （中分類）	69 不動産賃貸業・管理業（テナントビルを含む）			
分類番号 （中分類）	69			
事業活動の概要	事業内容	【事業内容】総合商社として、自動車やプラント、航空、医療インフラ、エネルギー、金属資源、化学品、食料、農林資源、消費財、工業団地などの各分野において、物品の販売及び貿易業をはじめとして、国内および海外における各種製品の製造・販売やサービスの提供、各種プロジェクトの企画・調整、投資、ならびに金融活動などグローバルに多角的な事業を実施。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	160,339	百万円
		従業員数	2,628	人
商標又は商号 （連鎖化事業者のみ）				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	040601	ニッソーモール	1,585
合 計			1,585

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	ニッソーモール
		所在地 1	熊谷市銀座2-245
		閲覧可能時間 1	午前11時から午後5時
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

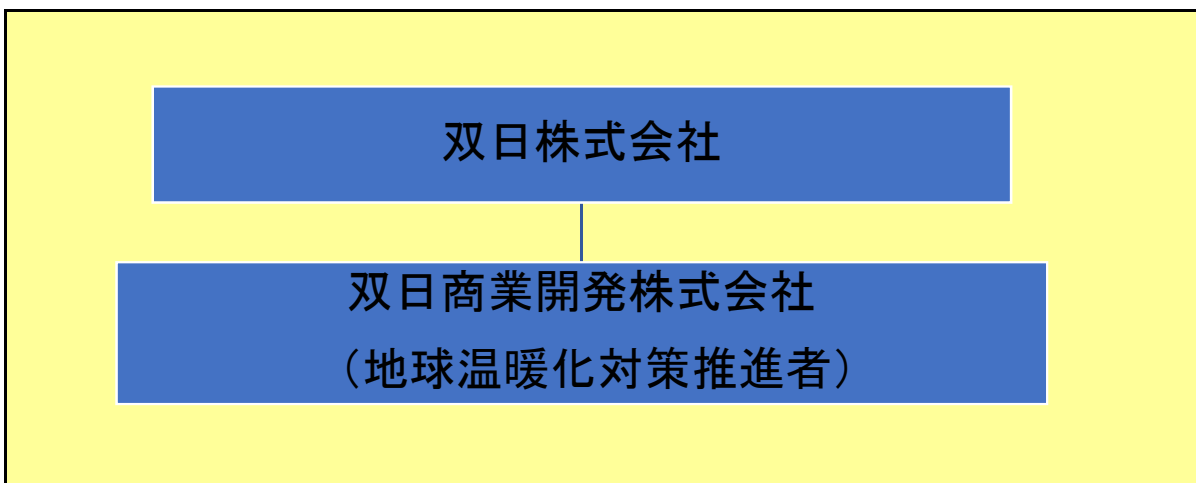
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	ニッソーモール管理事務所	048-522-4011	kumagaya-staff@sojitz-sc.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策がグローバルな進展を見せるなか、地域社会においても、消費、物流、ライフスタイル等に多大な影響を与える重大な問題としてとらえ、環境に優しい施設運営を目指し、環境負荷の低減を図り豊かな社会の創造に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,179	3,113			
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,179	3,113			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0609	事業所番号	040601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ニッソーモール		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	銀座二丁目245番地	
産業分類名(中分類)	56 各種商品小売業		
分類番号(中分類)	56		
事業活動の概要	事業内容	各種商品小売業。従業員数約800名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	削減計画期間の平均削減率を基準排出量の22%以上とします。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	25,556	t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)	7,209	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,619	1,585			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,179	3,113			
前年度比 (%)	—	-2.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,179	3,113			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0641	0.0627			
前年度比 (%)	—	-2.1			
活動規模の指標単位					
床面積	49,624.55	49,624.55			
	m <sup>2</sup>				



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	緊急事態宣言等による、休業・時短営業により、CO2排出量が減少した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	緊急事態宣言等による、休業・時短営業により、CO2排出量が減少した。 テナント退店により、CO2排出量が減少した。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,553	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,553	6,553	6,553	6,553	6,553	32,765	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%	22.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							25,556
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,209
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,179	3,113				6,292	
	削減率 (F = (A - E) / A)	51.49%	52.50%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	3,374	3,440				6,814	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エネルギー使用量の数値の把握 (第3計画期間継続中)		R1以前	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	専門店従業員に対する省エネ教育の実施 (第3計画期間継続中)		R1以前	
3	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化に関する推進組織の整備 (第3計画期間継続中)		R1以前	
4	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調設定温度の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
5	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調外気取り入れ量の適正化 (第3計画期間継続中)		R1以前	
6	130200	空調設備・換気設備	13_空調設備の効率管理	外気冷房の導入と冷温水発生器の台数制御 (第3計画期間継続中)		R1以前	
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	適性照度の管理 (間引き含む) (第3計画期間継続中)		R1以前	
8	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	共用部照明LED化		R1以前	
9	130100	空調設備・換気設備	13_空調設備の運転管理	空調機給気ファンモーターインバーター制御導入		R1以前	
10	120100	熱源設備・熱搬送設備	12_燃焼設備の管理	熱源設備の更新検討	R3	R4	
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社王将フードサービス			
所在地	京都市山科区西野山射庭ノ上町294-1			
事業者番号	0610			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,904	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	76 飲食店			
分類番号 (中分類)	76			
事業活動の 概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開		
	区分	企業		
	前年度	資本金	8,166	百万円
		従業員数	2,292	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)	餃子の王将			

## （3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061000	餃子の王将 今羽駅前店	1,044
B、C事業所			
C	061001	株式会社王将フードサービス 東松山工場	1,860
合 計			2,904

## （4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	東松山工場
		所在地 1	東松山市大字新郷404番地
		閲覧可能時間 1	9:00~17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## （5）公表の担当部署

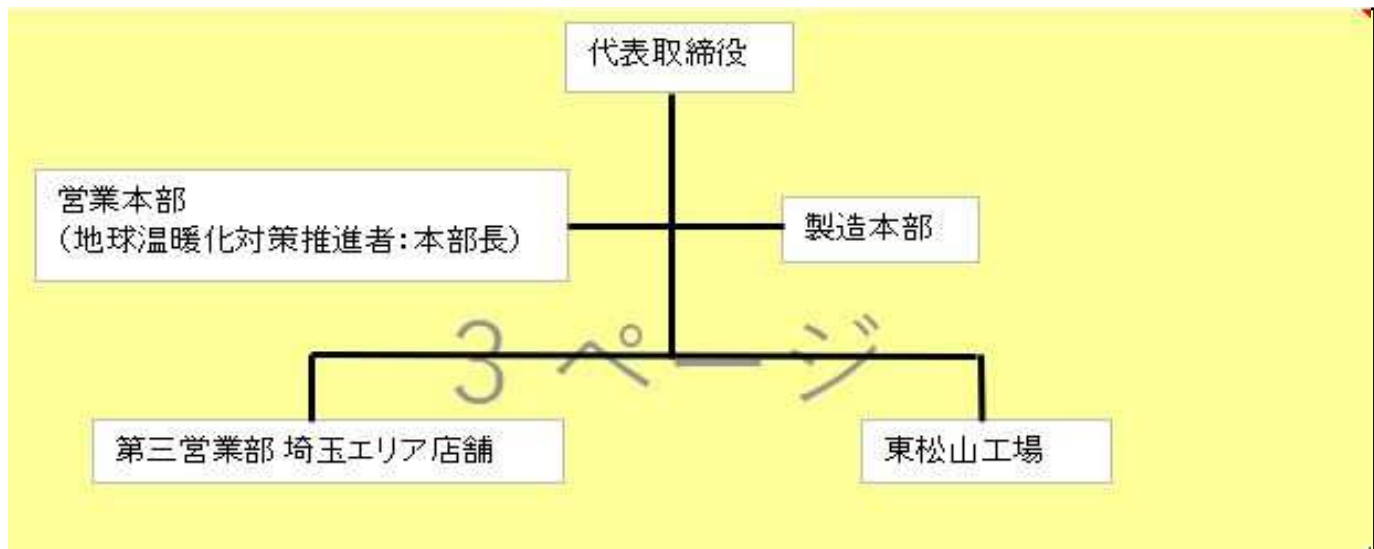
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境問題対策課	075-592-1411	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境問題全般に対して積極的に対応していく。温暖化防止対策としては消費電力の少ない高効率機器や省電力化に寄与する設備の導入を積極的に推し進める。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,097	5,738			
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,097	5,738			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号 0610 事業所番号 061000

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	餃子の王将 今羽駅前店	前年度における事業所数	32
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市北区	
	字・地番	吉野町1-17-5	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	76 飲食店		
分類番号(中分類)	76		
事業活動の概要	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	1.2789 t-CO <sub>2</sub> /席
	令和1年度排出量原単位を基準として毎年1%ずつ改善していきます。				
削減目標	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
削減目標	その他ガス				



事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	餃子の王将 今羽駅前店	さいたま市北区吉野町1-17-5
2	その他別添参照	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

	店舗名	市	区町番地
1	今羽駅前	さいたま市	北区吉野町1-17-5
2	東大成	さいたま市	北区東大成町2-488-6
3	大宮駅西口	さいたま市	大宮区桜木町2-5-7
4	大宮三橋	さいたま市	大宮区三橋4-15-1
5	与野本町	さいたま市	中央区鈴谷9-6-15
6	南浦和	さいたま市	南区南浦和3-8-1
7	武蔵浦和駅前	さいたま市	南区別所7-6-33
8	大宮南中野	さいたま市	見沼区南中野92-5
9	17号さいたま町谷	さいたま市	桜区町谷1丁目6番7号
10	春日部ユリノキ通り	春日部市	豊町4-1-9
11	本川越	川越市	新富町1-1-12
12	熊谷駅東口	熊谷市	筑波3-153-4
13	アリオ川口フードコート	川口市	並木元町1-79
14	アリオ川口レストラン	川口市	並木元町1-79
15	東川口戸塚	川口市	戸塚5-15-10
16	三郷西インター	三郷市	天神1丁目503-5
17	小手指	所沢市	小手指町1丁目8
18	所沢プロペ通り	所沢市	日吉町8-5 フジノビル1階
19	463号バイパス所沢林	所沢市	林3丁目552-1
20	ヤオコー東松山	東松山市	新宿町17-1
21	ふじみ野	ふじみ野市	うれし野1丁目3-8
22	アリオ上尾	上尾市	大字壺丁目367番地
23	草加	草加市	花栗3-20-40
24	北越谷駅西口	越谷市	北越谷4丁目21-4
25	越谷駅東口	越谷市	弥生町16-1 越谷ツインシティ Bシティ1階
26	南越谷ラクーン	越谷市	南越谷1丁目15-1
27	蕨駅東口	蕨市	塚越1-3-2
28	戸田公園五差路	戸田市	上戸田3-10-8
29	北朝霞	朝霞市	浜崎1-12-1
30	和光	和光市	丸山台1-9-3
31	新座駅前	新座市	野火止5-3-11

32	県道377号吉川栄	吉川市	栄町1504-2
----	-----------	-----	----------

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	793	1,044			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	基準	1,575	2,091			
前年度比 (%)		—	32.8			
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		1,575	2,091			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	1.2069	1.0647			
前年度比 (%)		—	-11.8			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		5.6	16.8			
活動規模の指標	単 位	1,305.00	1,964.00			
客席数	席					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	新型コロナウイルス蔓延で営業時間短縮などが影響し排出量の減少につながった。
令和3年度 (2021年度)	引き続きコロナ禍における時短営業などの影響があったものの、新店舗の開店等、集客は回復傾向にあり、それに伴い排出量は増加した。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	空調設備の更新	R3	R3	
2	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	L E D照明の設置	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

事業所番号

061000

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告（A、Bテナント等事業所用）

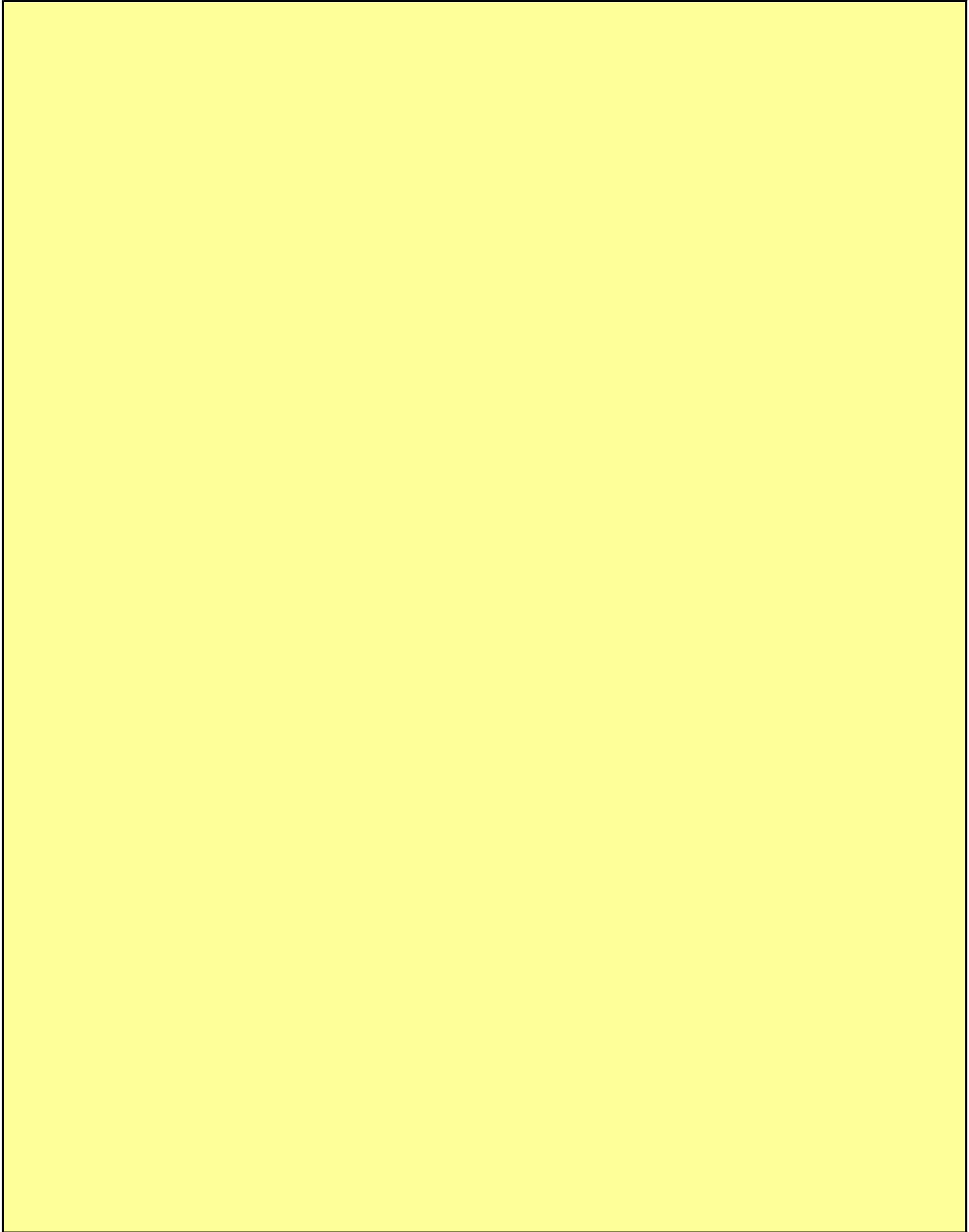
A事業所(5)

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0610	事業所番号	061001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社王将フードサービス 東松山工場		
事業所所在地	市区町村	東松山市	
	字・地番	大字新郷404番地	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	中華料理レストランチェーン「餃子の王将」を展開	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を令和2年度~4年度は6%、令和5年度~6年度は13%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	19,895	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	1,920	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				



3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,797	1,860			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,522	3,647			
前年度比 (%)	—	3.5			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,522	3,647			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	0.8078	1.0187			
前年度比 (%)	—	26.1			
活動規模の指標					
餃子生産量	t	4,360.00	3,580.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	コロナ禍ではあったが、中食需要の高まりにより工場の減産はなかったため排出量は微増した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	引き続きコロナ禍における蔓延防止等重点措置などの影響は受けたものの、餃子以外の商品が増産になったことにより排出量は増加したと考えられる。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,363	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,363	4,363	4,363	4,363	4,363	21,815
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						19,895
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						1,920
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,522	3,647				7,169
	削減率 (F = (A - E) / A)	19.28%	16.41%				—
	排出削減量 (G = A - E)	841	716				1,557
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	空調用の地中熱利用設備の導入	R3	R3	
2	490200	その他	49_その他の削減対策	自家消費用太陽光発電システム	R3	R3	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明の設置	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	日立Astemo株式会社			
所在地	茨城県ひたちなか市高場2520番地			
事業者番号	0611			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	6,653	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	31 輸送用機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	31			
事業活動の 概要	事業内容	自動車部分品及び輸送用並びに産業用機械器具・システムの 開発、製造、販売及びサービス		
	区分	企業		
	前年度	資本金	51,500	百万円
		従業員数	90,000	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
Bテナント等	061101	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場	1,558
B、C事業所			
C	023301	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場	5,095
合 計			6,653

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 日立Astemo(株) 埼玉第一工場
		所在地 1 埼玉県行田市藤原町一丁目14番地1
		閲覧可能時間 1 9:00~16:00(土、日、祝日を除く)
		閲覧場所 2 日立Astemo(株) 埼玉第二工場
		所在地 2 埼玉県比企郡滑川町都25-10
		閲覧可能時間 2 9:00~16:00(休日を除く)
	その他	

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	保全課	048-554-1151	
2	人事総務部	0493-53-4211	
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

別紙Aを参照下さい。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙B、別紙Cを参照下さい。

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

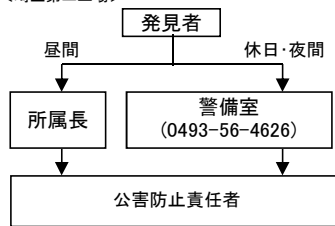
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	13,700	13,178			
その他ガス					
温室効果ガスの計	13,700	13,178			

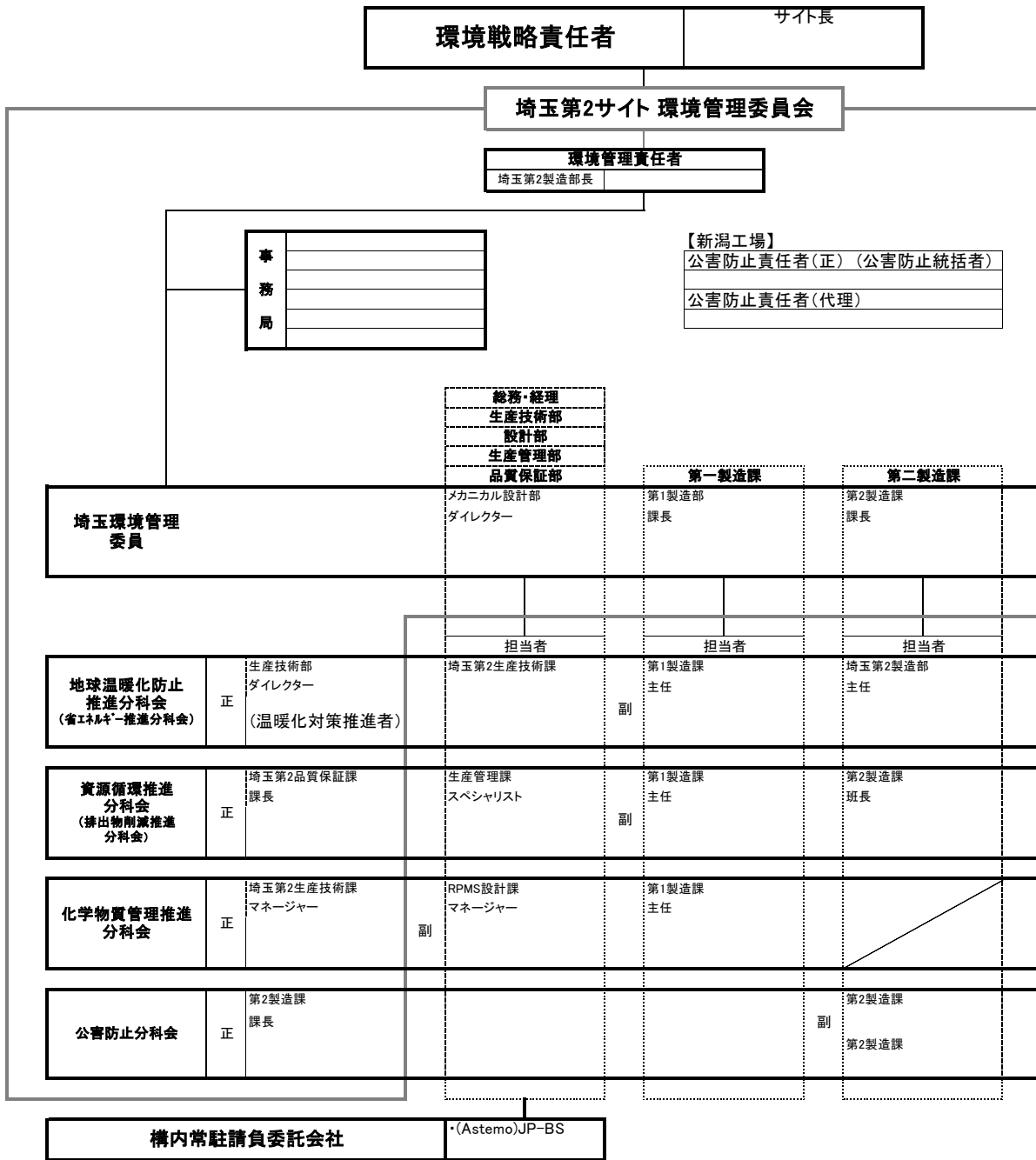
5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

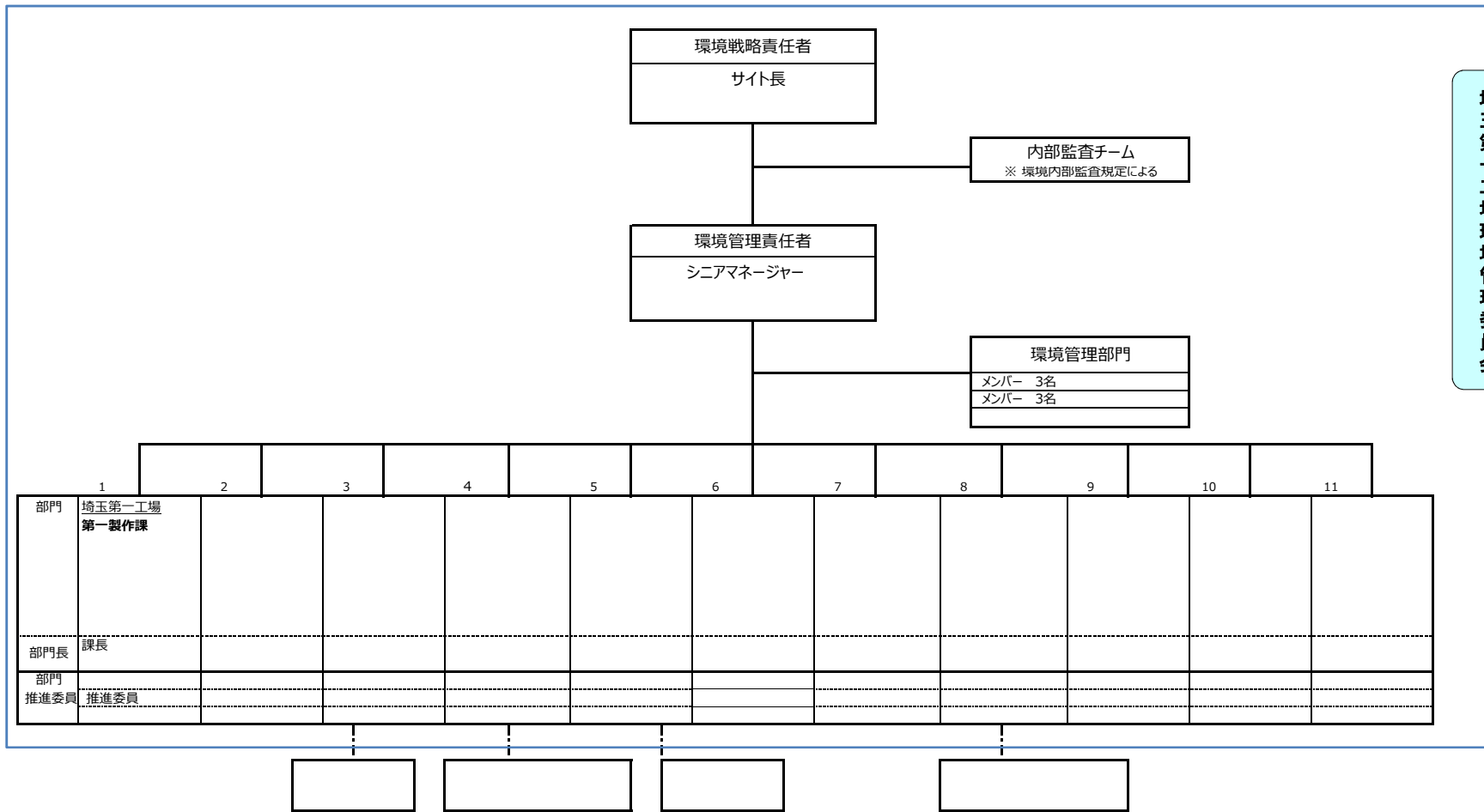


<p><b>日立Astemoグループ 環境方針</b></p> <p><b>環境理念</b></p> <p>「私たちは、世界をリードする先進的なモビリティソリューションの提供を通じて、持続可能な社会人々の豊かな生活の実現に貢献します」というambitionのもと、私たちの事業、活動を始め、生み出す製品及びサービスが、地球環境に深く係ることを認識し、その保護を積極的に推進します。</p> <p><b>スローガン</b></p> <p><b>私たちの地球環境保護への行動で、環境と調和した持続可能な社会の実現に貢献します。</b></p> <p><b>環境行動指針</b></p> <p><b>1. 環境関連法令の順守と汚染の予防</b></p> <p>1) 環境側面に対する該当法令を順守する。 このため、必要に応じて自主基準を設定する。</p> <p>2) グローバルなモノづくりに際しては、当該地域の環境に与える影響に配慮し、地域社会の要請に応えられる対策を実施するよう努める。</p> <p>3) 受け入れを決めた環境に関する顧客などからの要求事項を順守する。</p> <p>4) 環境問題の可能性を評価し、汚染予防に努める。万一、環境問題が生じた場合には、環境負荷を最小化するよう適切な措置を講ずる。</p>	<p><b>2. 環境管理機能の整備と継続的改善</b></p> <p>1) ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを用い、環境関連規定、並びに推進体制を整備し、環境負荷削減目標を定め活動する。</p> <p>2) 継続的改善による環境パフォーマンスの向上を図る。</p> <p>3) これらの取組みにより経営のマネジメントシステム発展に寄与する。</p> <p><b>3. 製品のライフサイクルにわたるグローバルなモノづくり推進</b></p> <p>製品の研究開発・設計、資材調達、生産、流通・販売、使用、廃棄などの各段階における環境負荷の低減をめざしたグローバルなモノづくりを推進する。</p> <p>1) 環境配慮型製品の開発・設計</p> <p>2) 地球温暖化防止のための省エネルギー推進</p> <p>3) 化学物質管理の徹底と排出量削減</p> <p>4) 循環型社会に対応した省資源、資源循環推進</p> <p><b>4. 生態系の保全</b></p> <p>自然と共生する社会を実現するため、事業活動と地域に根ざした自然保護に関する社会貢献活動の両面から、生態系保全の取り組みを推進する。</p> <p><b>5. 教育訓練、意識の向上</b></p> <p>この方針を日立Astemoグループで働く人及び日立Astemoグループのために働く人に周知し、環境に関する法令順守、環境への意識向上、広く社会に目を向け、幅広い観点からの地球環境保護について教育する。</p>	<p><b>6. 情報の開示</b></p> <p>環境保護活動についてステークホルダーへの情報開示と積極的なコミュニケーションに努め、相互理解と協力関係の強化に努める。</p> <p>《緊急時の連絡ルート》</p> <p>＜埼玉第二工場＞</p>  <pre> graph TD     A[発見者] -- 昼間 --&gt; B[所属長]     A -- 休日・夜間 --&gt; C[警備室 (0493-56-4626)]     B --&gt; D[公害防止責任者]     C --&gt; D     </pre> <p>* 緊急時とは、油、薬品、汚水等が雨水側溝に流入した時、及び通常と違う騒音、振動、臭い、煙が発生した時をいう。</p> <p>* 報告内容…いつ、どこで、何がどうして、どうなったかを報告する。</p> <p>* 処置…被害が拡大しない様に応急処置をとること。(応急処置用器材の活用)</p>	<p><b>【自分の業務(仕事)と環境との関連】</b> (認識を持とう！)</p> <p>1. 自部門(自分)の本来業務は何ですか？</p> <p>2. 自分の業務が環境に与える悪い影響は何ですか？</p> <p>3. 環境を良くするために実行している業務や努力は何ですか？</p> <p>4. 順守義務(法令や客先の要求)や社内ルールを守らないとどうなりますか？</p> <p>2021年4月 埼玉第二サイト環境管理委員会</p>
---	--	--	---

埼玉第2サイト 環境管理組織図



付表-1



埼玉第一工場環境管理委員会

環境マネジメント組織の役割・責任・権限

役割	環境戦略責任者	環境管理責任者	部門長又は部署長	推進委員																									
業務内容及び責任と権限	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステムの有効性に説明責任を負う。</li> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステム実施、維持のために必要な資源を利用可能とする。</li> <li>埼玉第一工場環境管理委員会を主催し、議長として議題を議決する。</li> <li>埼玉第一工場の環境マネジメントシステムをレビューし、継続的改善を促進する。</li> <li>埼玉第一工場環境管理責任者を任命する。</li> <li>埼玉第一工場の環境管理実行計画を承認する。</li> <li>効果的な環境マネジメント、環境マネジメントシステム要求事項への適合の重要性を伝達する。</li> <li>環境マネジメントシステムの効果的運用に寄与するよう人々を指揮し、支援する。</li> <li>他の管理層の役割におけるリダーシップを支援・醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステムがその意図した成果を達成するために、埼玉第一工場の環境に関する活動の取り纏めを担う。</li> <li>埼玉第一工場の環境目標及び環境管理実行計画を確立する。</li> <li>埼玉第一工場の環境月次報告を承認する。</li> <li>埼玉第一工場環境戦略責任者へ環境パフォーマンスを含む環境マネジメントシステムのパフォーマンス（活動実績）を報告する。</li> <li>埼玉第一工場の著しい環境側面を承認する。</li> <li>埼玉第一工場環境管理部門で定める文書類を承認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場環境管理委員会での決定事項（環境実行計画）を実施、フォローする。</li> <li>※計画において割付けされた項目の実施</li> <li>自部門又は自部署内で働く人々に環境マネジメントシステムの確立、実施、維持、改善に必要な力量及び認識を持たせる。</li> <li>※ISO/TS16949力量と同様</li> <li>環境に関する内部、外部のコミュニケーションを確実に行う。</li> <li>※緊急時連絡のほか、本来業務の環境に関する伝達</li> <li>外部委託契約部署は委託業者に「環境方針」の伝達を行う。</li> <li>※廃棄、中間収集運搬処理業者などの業者への伝達</li> <li>環境マネジメントシステムで必要な環境に関する文章化した情報を維持又は保持し管理する。</li> <li>※部門内の文書の管理</li> <li>自部門又は自部署の本来業務についての環境側面を抽出し、管理下で働く人々に認識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉第一工場環境管理委員会での決定事項（環境実行計画）について、自部門に関する実績の取り纏め及び進捗管理を行う。</li> <li>自事業所の教育訓練計画・実績を作成する。</li> <li>環境マネジメントシステムで必要な環境に関する文章化した情報を維持又は保持し管理する。</li> <li>自部門又は自部署の本来業務についての環境側面の取り纏めを行う。</li> </ul>																									
				<table border="1"> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>No.</td> <td>改訂年月日</td> <td>改訂理由</td> <td>承認</td> <td>作成</td> </tr> </table>	3					2					1					0					No.	改訂年月日	改訂理由	承認	作成
3																													
2																													
1																													
0																													
No.	改訂年月日	改訂理由	承認	作成																									

令和 4 年度

事業者番号	0611	事業所番号	061101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場		
事業所所在地	市区町村	比企郡滑川町	
	字・地番	都25-10	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	クノールブレムゼステアリングシステムジャパン株式会社		
産業分類名（中分類）	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号（中分類）	31		
事業活動の概要	埼玉第二工場は乗用車用パワーステアリング、及びマニュアルステアリングの開発・設計・製造を行っている。 令和3年6月時点の従業員数：179名		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	3,740	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	1.3760	t-CO <sub>2</sub> /MWh/年
	令和元年度(2019年度)実績(エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量3740t-CO <sub>2</sub> ) に対し年平均6.0%削減						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

Bテナント等事業所の場合は本ページは入力不要です。

番号	事業所名	所在地
1	日立Astemo株式会社 埼玉第二工場	比企郡滑川町都25-10
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,666	1,558			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,740	3,277	3,070			
前年度比 (%)		—	-6.3			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		12.4	17.9			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		3,277	3,070			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.3760	1.4840	1.4855			
前年度比 (%)		—	0.1			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		-7.9	-8.0			
活動規模の指標	単 位					
内製付加価値額	MY/年	2,208.15	2,066.64			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	上期新型コロナウイルスの感染拡大により受注減のため、工場は操業するがライン稼働の低下による非効率発生
令和3年度 (2021年度)	埼玉第二工場の御殿場へ生産ライン移管のための前倒し生産による非効率な勤務態様によるロスの発生
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

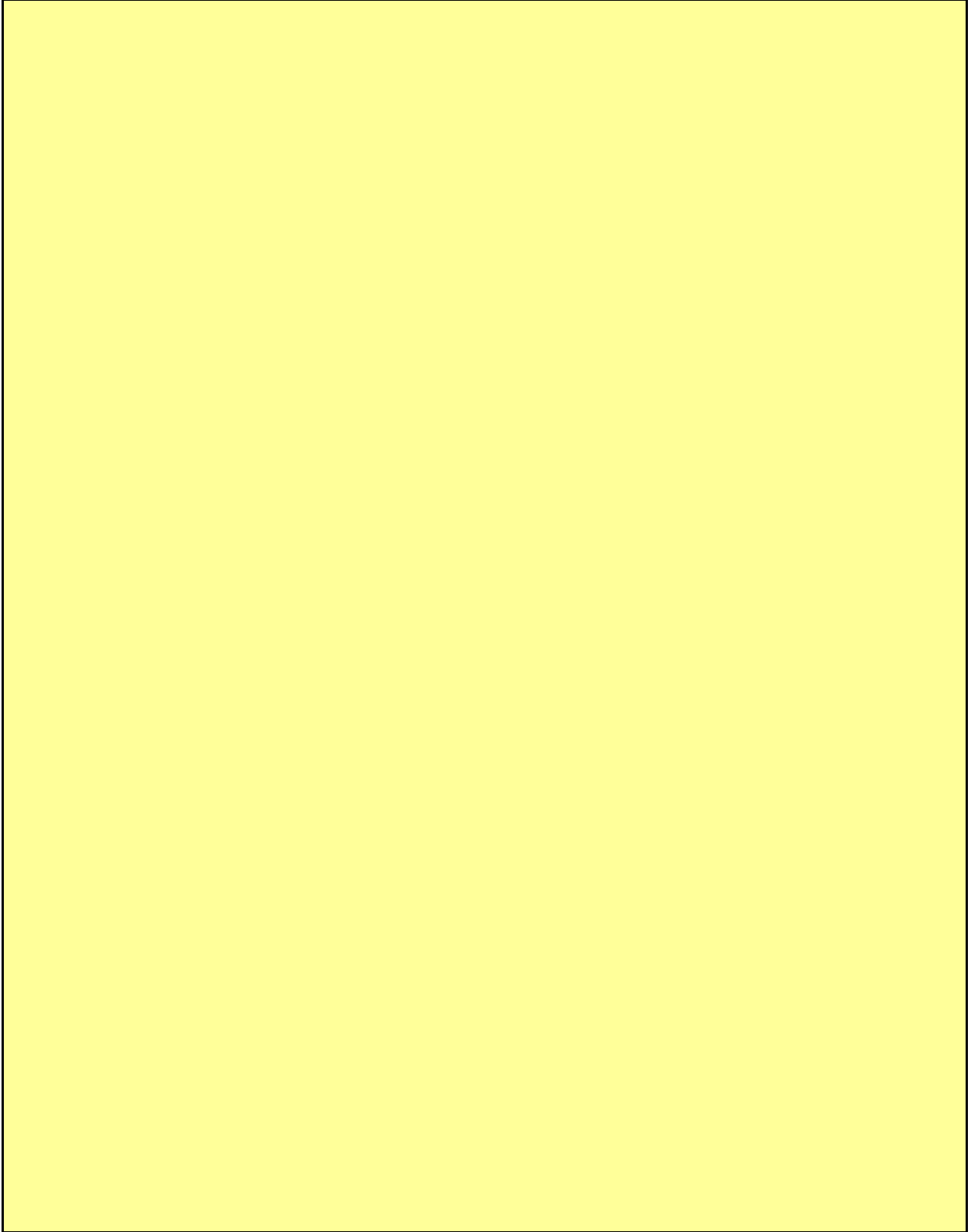
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	エアリー漏れ対策の実施	R2	R2	1.0
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機の稼働時間管理	R2	R2	1.0
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	大家(KBSJ)と電気系統別の按分量の見直しを実施	R3	R3	106.8
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0611	事業所番号	023301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立Astemo株式会社 埼玉第一工場		
事業所所在地	市区町村	行田市	
	字・地番	藤原町一丁目14番地1	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	4 輪車用ショックアブソーバー 従業員数: 855名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】基準排出量 13,885t-CO <sub>2</sub> に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	55,540	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	13,885	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,249	5,095			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	10,423	10,108			
前 年 度 比 ( % )	—	-3.0			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	10,423	10,108			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前 年 度 比 ( % )	—				
活 動 規 模 の 指 標 単 位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが、令和元年度に比べ令和2年度は、コロナ影響により生産数が減産(▲12.4%)した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲9.7%)した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備の増減は無いが、令和2年度に比べ令和3年度は、コロナ影響により生産数が減産(▲9.0%)した事により、CO <sub>2</sub> 排出量が減少(▲3.0%)した。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	13,885	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	13,885	13,885	13,885	13,885	13,885	69,425
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						55,540
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						13,885
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,423	10,108				20,531
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	24.93%	27.20%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	3,462	3,777				7,239
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

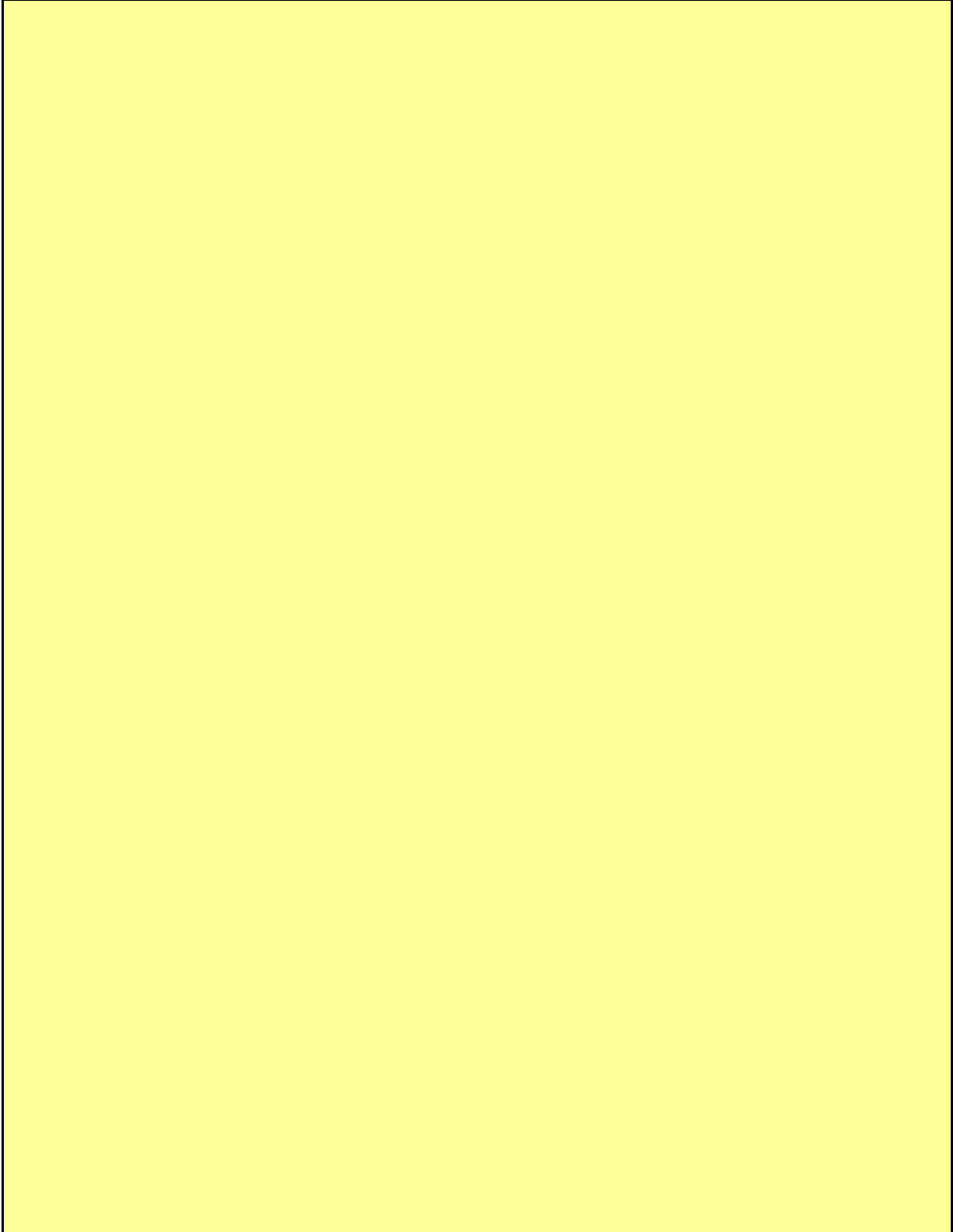
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	省エネ分科会開催 6回/年	R1以前	R1以前	
2	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	塗装用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	177
3	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	A重油焚き吸収式冷温水発生器の熱源変更と全体冷房改修	R1以前	R1以前	93
4	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	33
5	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	400V動力トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	5
6	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯照明のLED化	R1以前	R1以前	8
7	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	メッキ用蒸気ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	22
8	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	温水ボイラーの高効率タイプへの更新と燃料変更 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	75
9	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し月報を作成	R1以前	R1以前	
10	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	建屋別エア供給と生産工程別エア集中配管化による供給ロス削減	R1以前	R1以前	36
11	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	空調トランストップランナータイプへの更新	R1以前	R1以前	10
12	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	塗装設備の更新による燃料(都市ガス)の削減	R1以前	R1以前	3
13	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	開発棟トランストップランナータイプへの変更	R1以前	R1以前	5
14	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場照明のLED化	R3	R3	39
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	地方独立行政法人埼玉県立病院機構		
所在地	さいたま市浦和区高砂三丁目13番3号		
事業者番号	0612		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	12,737	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	83 医療業		
分類番号 (中分類)	83		
事業活動の 概要	事業内容	埼玉県の医療対策として必要とされる高度専門医療等を提供するとともに、地域との連携により本件の医療水準の向上に貢献し、県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的としている。	
	区分	その他	
	前年度	資本金	百万円
		従業員数	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			



## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	035101	埼玉県立がんセンター・精神医療センター	5,350
C	035102	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	3,142
C	035104	埼玉県立小児医療センター	4,245
合 計			12,737

## (4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/c1401/byouinkyoku-ondannkataisaku.html">http://www.pref.saitama.lg.jp/c1401/byouinkyoku-ondannkataisaku.html</a>
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	
		所 在 地 1	
		閲 覧 可 能 時 間 1	
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
		閲 覧 可 能 時 間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

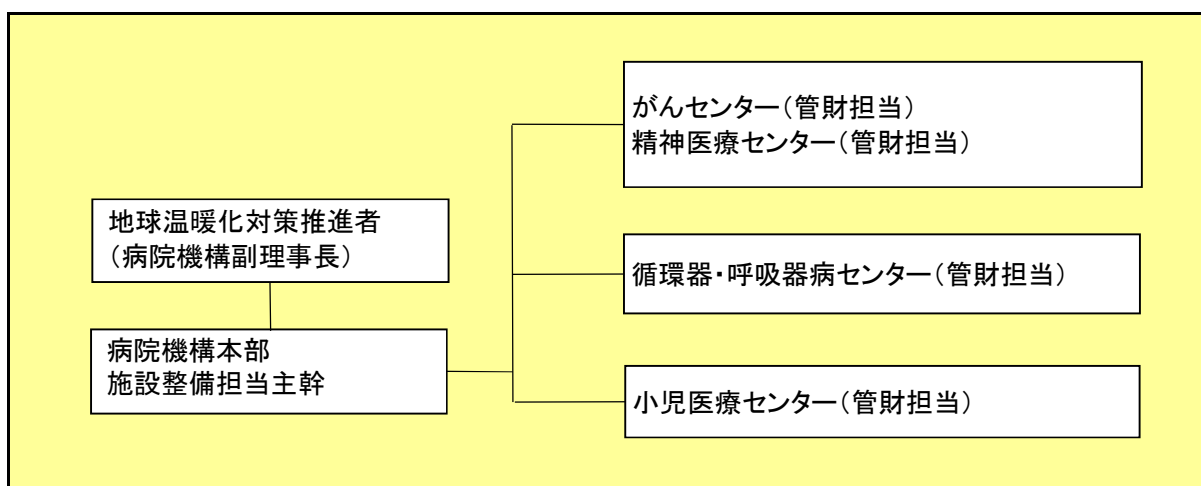
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本部 施設整備担当	048(830)5979	a5970-12@saitama-pho.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

- 環境の保全と創造のための目標を定めます。目標達成のための取組の後、それを点検・評価し、取組の継続的な改善を進めます。
- 事務・事業が環境に与える影響を認識し、自らの役割と責任を自覚して業務を遂行します。
- 県民・事業者と協働して省エネルギー・省資源活動を行い、循環型社会を築きます。
- 環境に関する法令等を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
- 環境の保全と創造のための取組を積極的に公表します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	25,558	25,082			
その他ガス					
温室効果ガスの計	25,558	25,082			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立がんセンター・精神医療センター		
事業所所在地	市区町村	北足立郡伊奈町	
	字・地番	大字小室780番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	がん治療専門医療機関 精神医療専門医療機関 病床数 がん(503床) 精神(183床)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間においては、基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とし、省エネルギー活動を継続させていく。			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	70,956	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	17,739	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,582	5,350			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	10,985	10,532			
前年度比 (%)	—	-4.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	10,985	10,532			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1237	0.1186			
前年度比 (%)	—	-4.1			
活動規模の指標	単位				
延床面積	m <sup>2</sup>	88,832.69	88,832.69		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和2年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量に大きな変化は無かった。  (前年度比: -117t-CO<sub>2</sub> -1.1%減少)  新型コロナウイルス感染予防のため、病院内の換気対策等の環境改善を実施したが、感染予防のための来院者(面会者等)に制限をかけたこと、外気環境変動の要因により大きな変化が無かったと考えられる。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>令和3年度は前年度と比較すると年間のCO<sub>2</sub>排出量が減少した。  (前年度比: -464t-CO<sub>2</sub> -4.2%減少)  新型コロナウイルス感染予防のため、病院内の換気対策等の環境改善を実施したが、感染予防のための来院者(面会者等)に制限をかけたこと、外気環境変動の要因によりCO<sub>2</sub>排出量が減少したと考えられる。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	17,739	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	17,739	17,739	17,739	17,739	17,739	88,695
	目標削減率の 緩和措置	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						70,956
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						17,739
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,985	10,532				21,517
	削減率 (F = (A - E) / A)	38.07%	40.63%				—
	排出削減量 (G = A - E)	6,754	7,207				13,961
各年度の排出量の検証		実施済	未実施				

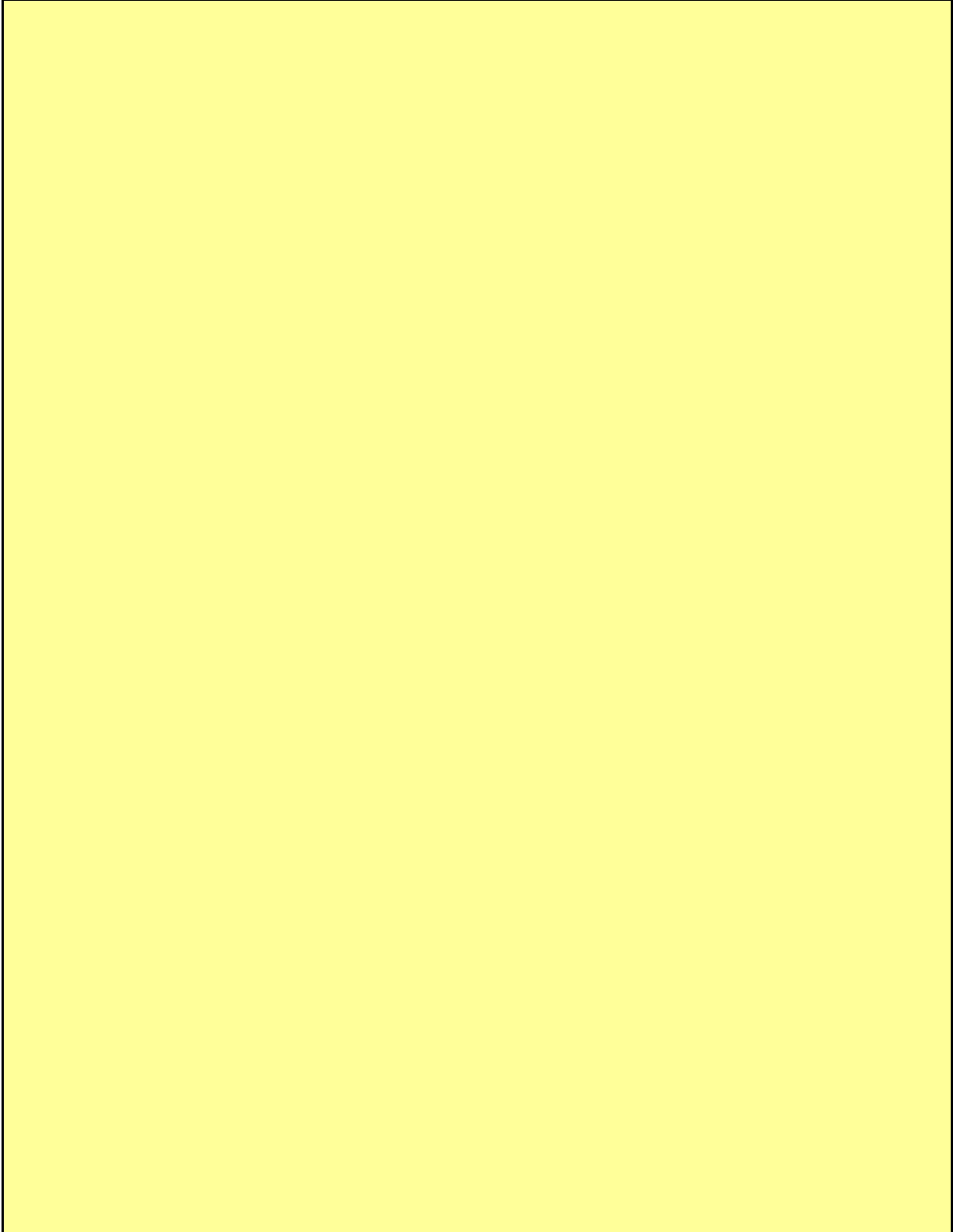
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	省エネルギー運営委員会の実施 <第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	管理設備台帳の整備 <第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
4	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	センター内の空調温度設定値を出来るだけ管理する<第3計画期間も継続>	R1以前	R1以前	
5	120700	熱源設備・熱搬送設備	12_蒸気漏えい及び保温の管理	蒸気配管断熱ジャケットの導入	R1以前	R1以前	9.0
6	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導入	R1以前	R1以前	8.0
7	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	13.0
8	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	温水2次ポンプ熱搬送効率の向上対策	R1以前	R1以前	1.0
9	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R3		40.0
10	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	温水2次ポンプ末端差圧制御の導入	R3		22.0
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 4 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035102
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立循環器・呼吸器病センター		
事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	板井1696番地	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 循環器・呼吸器病治療専門医療機関 病床数 343床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする(必要に応じて排出量取引を活用する。)			
	その他ガス	なし			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	34,248	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	8,562	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,165	3,142			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,517	6,472			
前年度比 (%)	—	-0.7			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	6,517	6,472			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1533	0.1522			
前年度比 (%)	—	-0.7			
活動規模の指標	単位				
床面積	m <sup>2</sup>	42,523.00	42,523.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和2年度は感染症の流行により来院者が減り、厨房などで使うプロパンガスの使用量は減少した。平成31年度が夏季の気温上昇が例年に比べ緩やかであったのに対し令和2年度は例年並であったため、都市ガスの空調使用量は前年より増加する結果となった。トータルでは排出量は増加した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和3年度は感染症の流行により来院者が減り、厨房などで使うプロパンガスの使用量は減少した。令和2年度が夏季の気温上昇が例年並みだったのに対し令和3年度は例年に比べ緩やかであったため、電気の空調使用量は前年より減少する結果となった。トータルでは排出量は昨年度よりもやや少なかった。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	8,562	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,562	8,562	8,562	8,562	8,562	42,810
	目標削減率の 緩和措置	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	医療施設	
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						34,248
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						8,562
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	6,517	6,472				12,989
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	23.88%	24.41%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,045	2,090				4,135
各年度の排出量の検証		実施済	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	170200	負荷平準化	17_コージェネレーション	コージェネレーションシステム導入による発電機の高効率運転	R1以前	R1以前	
2	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	照明設備のLED化	R2	R2	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 4 年度

事業者番号	0612	事業所番号	035104
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県立小児医療センター		
事業所所在地	市区町村	さいたま市中央区	
	字・地番	新都心1番地2	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 小児治療専門医療機関 病床数 316床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、平均削減率を令和2~5年度は8%以上、令和6年度は15%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	47,347	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	4,913	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第1区分-(1)

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,227	4,245			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	8,056	8,078			
前 年 度 比 ( % )	—	0.3			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	8,056	8,078			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1231	0.1234			
前 年 度 比 ( % )	—	0.3			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
床面積	m <sup>2</sup>	65,447.69	65,447.69		



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	感染症対策のため、外気の導入量を増加させています。そのため、冬期の暖房負荷と加湿負荷が増加し、CO <sub>2</sub> 排出量が前年度より増加しました。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	感染症対策のため、外気の導入量を増加させる運用を継続しています。また、R3年度は夏期の外気環境はR2年度と比べると比較的穏やかな状況であったため、建物としてのエネルギー量は減少していましたが、一方で冬期については、外気環境がR2年度より厳しかったため暖房負荷・加湿負荷が増加しています。結果、CO <sub>2</sub> 排出量がR2年度より微増しました。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	10,452	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	10,452	10,452	10,452	10,452	10,452	52,260
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	8.00%	8.00%	8.00%	8.00%	15.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						47,347
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						4,913
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	8,056	8,078				16,134
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	22.92%	22.71%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,396	2,374				4,770
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

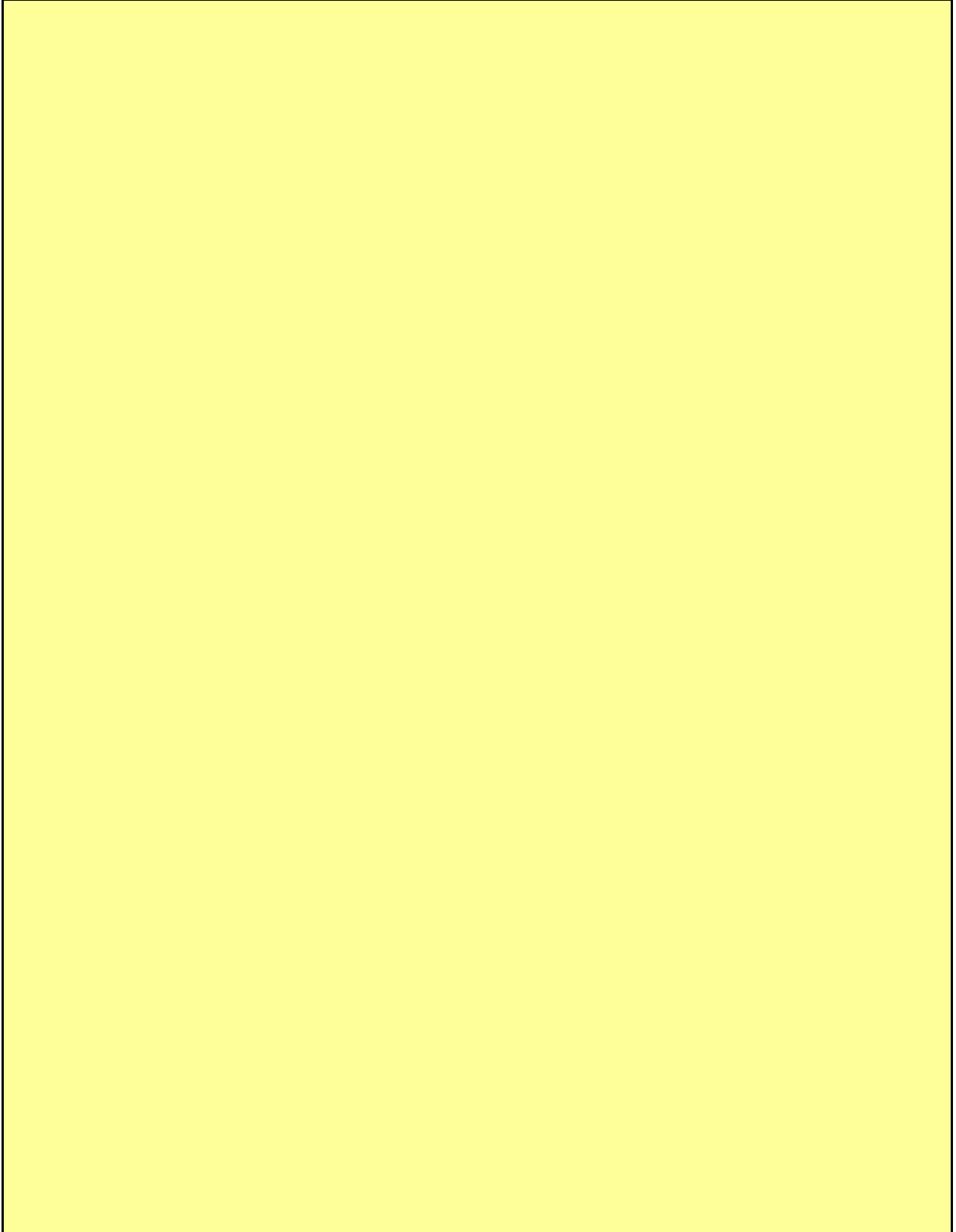
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	管理設備台帳の整備	R1以前	R1以前	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	エネルギーフロー図の作成	R1以前	R1以前	
3	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	センター内の空調温度及び湿度設定値の管理	R1以前	R1以前	
4	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷水及び温水2次ポンプの末端差圧設定の適正化	R2	R2	8.7
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	電気室PAC/給排気ファン連携制御の導入	R1以前	R1以前	5.0
6	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	駐車場排気ファン夜間間欠運転の導入	R1以前	R1以前	2.0
7	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	蛍光灯の間引き	R3	R3	2.0
8	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	空調機・送排風機への省エネルギーの採用	R3	R3	20.0
9	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	共用部空調機への不感帯導入	R4		7.7
10	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	一般空調機への不感帯導入	R4		21.4
11	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調スケジュール設定値制御の導入	R4		28.4
12	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	蛍光灯のLED化 (予定: 400本)	R4		8.2
13	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	通路等の間引き消灯(DL100灯取外し)	R4		1.4
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 神戸屋			
所在地	大阪府大阪市東淀川区豊新2-16-14			
事業者番号	0613			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,494	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	パン・洋菓子・冷凍生地・デリカ食品の製造販売、並びに ベーカリーレストランなど各種業態直営店舗の企画開発・運営		
	区分	企業		
	前年度	資本金	1,197	百万円
		従業員数	1,198	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	045701	株式会社 神戸屋 東京事業所	2,494
合 計			2,494

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1 関東事業本部 製造第1部 東京生産技術課
		所在地 1 埼玉県戸田市川岸1-2-36
		閲覧可能時間 1 9時～17時（土日除く）
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	東京生産技術課	048-442-2971	tk-koumu@kobeya.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

「地域社会への貢献」を企業の使命と考え、環境への負荷の少ない企業活動を推進し、環境保全に努めます。①企業活動による環境への影響を考慮し、廃棄物等の極少化、資源・エネルギーの有効活用およびリサイクル活動に積極的に努めます。②関連する環境法規制を遵守すると共に、独自に目標を定め自主的な活動に取り組みます。③従業員へ環境に対する教育を実施し、ひとりひとりの理解を深め環境保全活動を励行します。④地域社会へ貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙参照

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

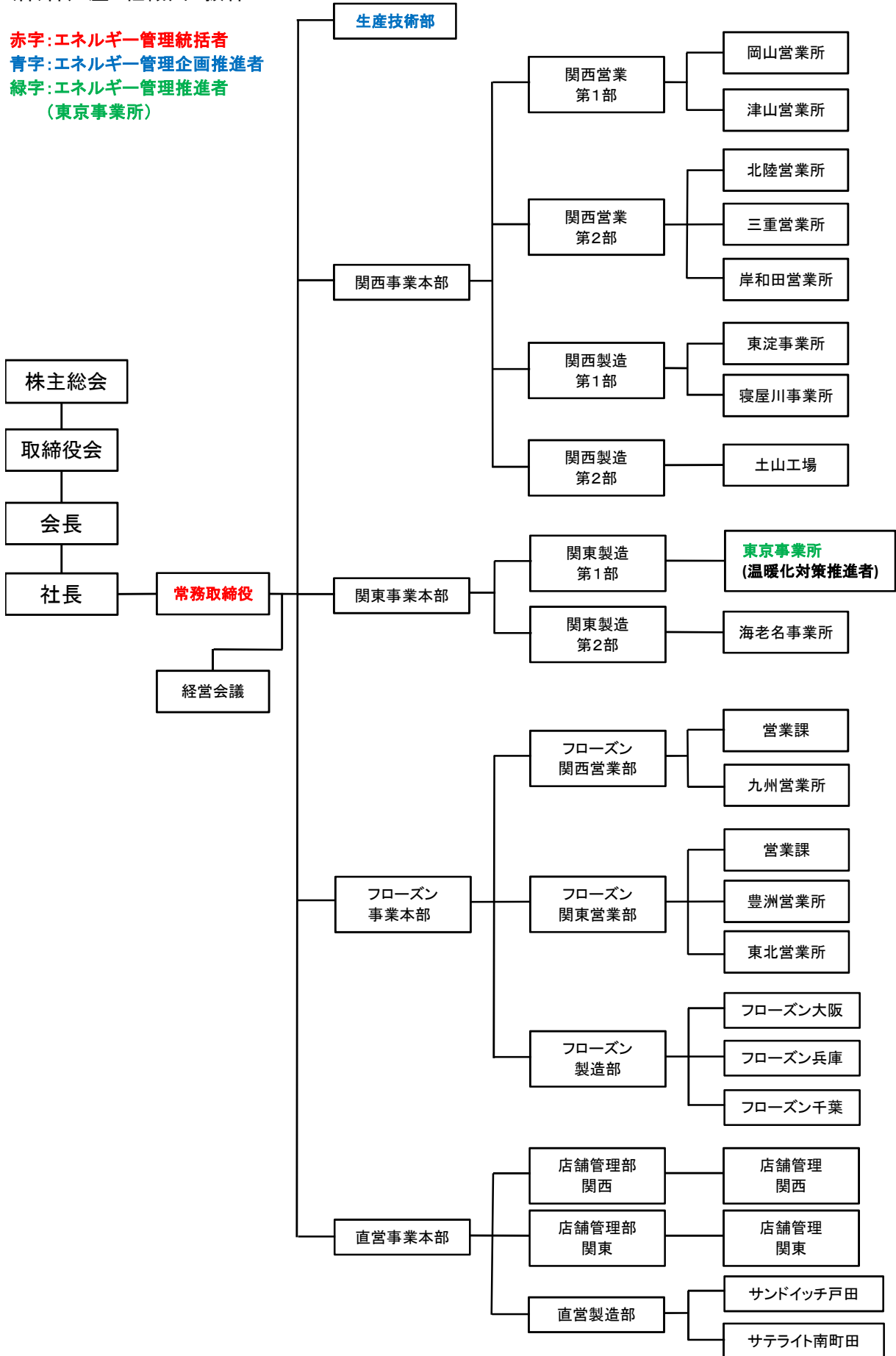
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,908	4,905			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,908	4,905			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

(株)神戸屋 組織図 抜粋

赤字:エネルギー管理統括者  
 青字:エネルギー管理企画推進者  
 緑字:エネルギー管理推進者  
 (東京事業所)





令和 4 年度

事業者番号	0613	事業所番号	045701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 神戸屋 東京事業所		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	川岸1-2-36	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	パン製造 営業拠点 製品仕分け・配送拠点 従業員数：約300人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	・基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	29,316	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	7,329	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,494	2,494			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,908	4,905			
前 年 度 比 ( % )	—	-0.1			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,908	4,905			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.8474	0.7874			
前 年 度 比 ( % )	—	-7.1			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産高	百万円/年	5,792.08	6,229.72		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比104.4%  活動規模の指標(生産高)は前年度比104.8%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増加比率と生産高の増加比率では若干ではありますが生産高の方が上昇していることからエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は0.4%の改善となっています。要因としては生産効率の向上や省エネ活動によるエネルギー使用の改善が考えられます。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比100.0%  活動規模の指標(生産高)は前年度比107.6%  エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度と同等に対して生産高の増加が大きいことからエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量原単位は前年度比7.1%の改善となっています。要因としては東京事業所での生産集約や生産効率の向上、また省エネ活動によるエネルギー使用の改善が考えられます。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,329	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,329	7,329	7,329	7,329	7,329	36,645	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							29,316
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,329
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,908	4,905				9,813	
	削減率 (F = (A - E) / A)	33.03%	33.07%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	2,421	2,424				4,845	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

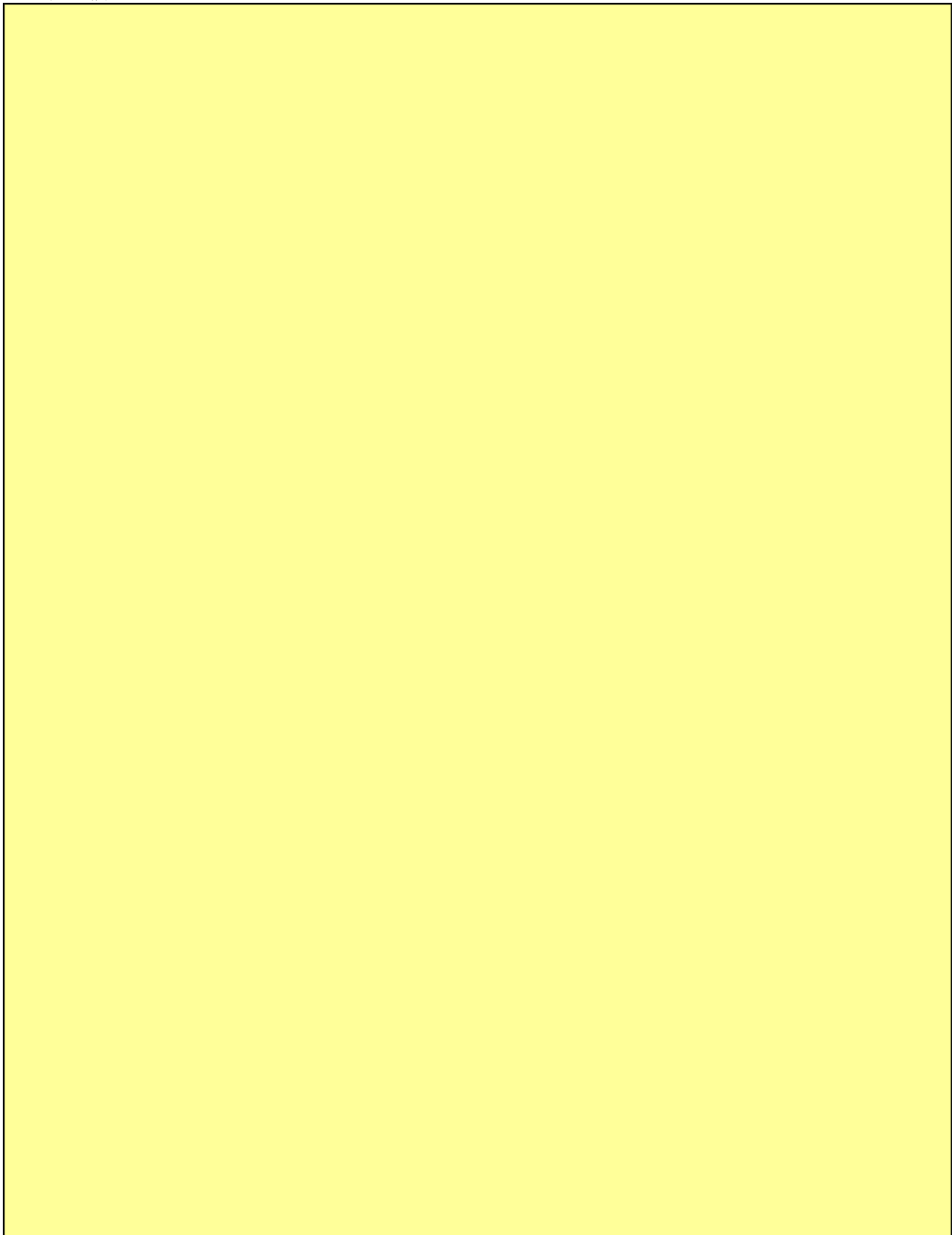
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	360700		36_電気の動力・熱等 ポンプ、ファン、ブロー ン、ブロー、コンプレッ サー等 への変換の合理化に 関する措置	エアコンプレッサー更新 (22kWから15kWインバーター付に更 新)	R4		30.0
2	380700		38_電気の動力・熱等 照明設備 への変換の合理化に 関する措置	蛍光灯器具をLED照明器具へやりかえ実 施。61台。	R3	R3	25.6
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社JR東日本クロスステーション		
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目33-8		
事業者番号	0614		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	6,990	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	58 飲食料品小売業		
分類番号 (中分類)	58		
事業活動の概要	事業内容	小売業 卸売業 製造・加工業 飲食店業 商業施設の開発・管理・運営 不動産の貸借・管理 自動販売機の運営管理業務 湧水の販売等活用事業 広告事業・宣伝の請負および代理業 貸しロッカー業 高齢者福祉に関する業務 清掃事業 土木・建築に関する企画・設計・監理・施工業務に付帯または関連事業等 資本金；41億1百万円、従業員数；2,753名（2022年4月1日現在）※契約社員等を除く	
	区分	企業	
	前年度	資本金	4,100
	従業員数	2,753	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061400	いろり庵きらく川口店	5,531
B、C事業所			
C	035301	株式会社J R東日本クロスステーションフーズカンパニー食品製造事業部戸田工場	1,459
合 計			6,990

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	J R東日本クロスステーション フーズカンパニー 食品製造事業部 戸田工場玄関前に掲示
		所在地 1	埼玉県戸田市美女木東1丁目6-1
		閲覧可能時間 1	9時～18時
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	フーズカンパニー食品製造事業部生産管理グループ	048-422-2881	
2			
3			

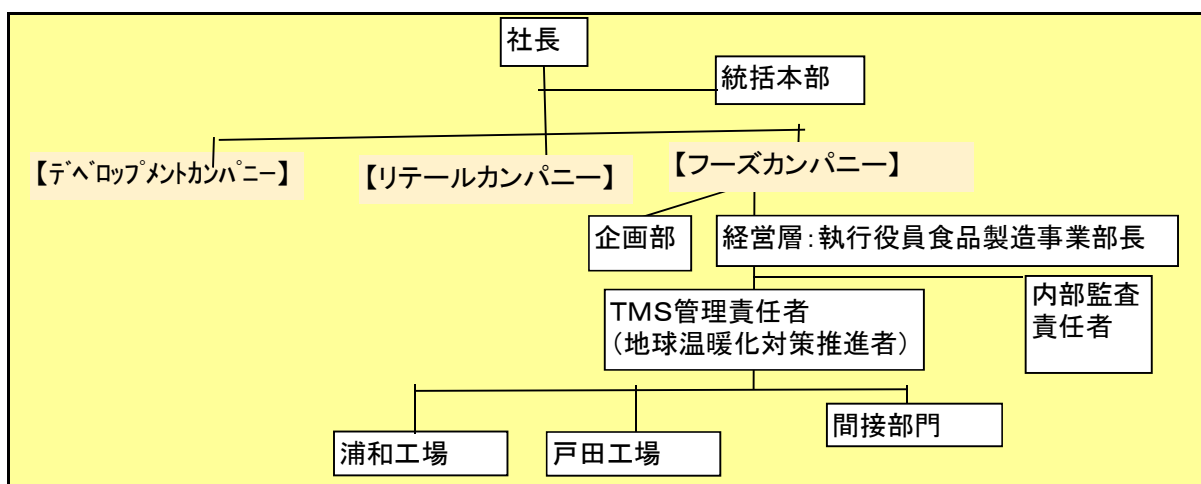
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)



2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

＜ 食品製造事業部の経営方針 ＞  
 株式会社J R東日本クロスステーション食品製造事業部は、「お客さま第一主義」を掲げ、仕入・製造・仕分・配送を通じて安心・安全を提供し、未永くお客さまに喜ばれる商品創りに専念します。  
 この、経営方針を達成するため下記の活動に努めます。  
 1. お客さま第一主義に徹し、顧客の信頼と満足を得る製品、サービスを提供します。  
 2. 「食とサービス」の提供にかかわる関連法規、規制及びその他の合意事項を遵守します。  
 3. 働く従業員に対して職場環境の整備、向上に努めます。  
 4. 環境に配慮した企業活動を通じて、汚染の防止を推進します。  
 5. 環境と品質のマネジメントシステムを構築、実施、維持し、有効性の継続的改善に取り組みます。  
 その実現のため、以下を重点項目として推進します。  
 ①製品の信頼と安全の確保      ③廃棄物の発生抑制と適正管理  
 ②省エネルギー化の推進      ④環境に配慮した製品・サービスの提供

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	7,374	13,504			
その他ガス					
温室効果ガスの計	7,374	13,504			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0614	事業所番号	061400
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	いろいろ庵きらく川口店	前年度における事業所数	167
代表事業所所在地	市区町村	川口市	
	字・地番	栄町3-1-24	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	76 飲食店		
分類番号(中分類)	76		
事業活動の概要	・そば、カフェ、弁当、ベーカリー等の飲食店事業、小売業 卸売業 製造・加工業 飲食店業 商業施設の開発に付帯または関連事業等		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	8,654	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.3548	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	その他ガス	・浦和工場以外 令和3(2021)年度に合併した為、令和3年度の原単位を基準とし、今後プラス1%以内に抑えます。 ・浦和工場 工場単体原油換算1500KLを超えないようにする。					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	8,654	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.3548	t-CO <sub>2</sub> /百万円/年
	その他ガス	・浦和工場以外 令和3(2021)年度に合併した為、令和3年度の原単位を基準とし、今後プラス1%以内に抑えます。 ・浦和工場 工場単体原油換算1500KLを超えないようにする。					

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	いろり庵きらく川口店	川口市栄町3-1-24
2	そば処中山道ecute大宮ノース店	さいたま市大宮区錦町630
3	そば処中山道大宮8・9番線店	さいたま市大宮区錦町630
4	鉄道博物館 トレインレストラン日本食堂	さいたま市大宮区大成3-47
5	いろり庵きらく浦和店	さいたま市浦和区高砂1
6	いろり庵きらく蕨店	蕨市中央1-23
7	いろり庵きらく上尾店	上尾市柏座1-1-18
8	いろり庵きらく南浦和店	さいたま市南区南浦和2-37-3
9	いろり庵きらく南越谷店	越谷市南越谷1-21-1
10	いろり庵きらく川越店	川越市脇田本町39-19
11	いろり庵きらく熊谷改札内店	熊谷市筑波2-112
12	そば処中山道鴻巣店	鴻巣市本町1-1-1
13	いろり庵きらく西川口店	川口市並木2-20-1
14	TOKYO豚骨BASE北浦和店	さいたま市浦和区北浦和3-3-5
15	いろり庵きらく北浦和店	さいたま市浦和区北浦和3-5-5
16	TOKYO豚骨BASE MADE by 博多一風堂 大宮店	さいたま市大宮区錦町630
17	いろり庵きらく大宮店	さいたま市大宮区錦町630
18	駅弁屋大宮新幹線ホーム南店	さいたま市大宮区錦町630
19	駅弁屋大宮新幹線ホーム北店	さいたま市大宮区錦町630
20	大宮4号売店	さいたま市大宮区錦町630
21	ベックス蕨店	埼玉県蕨市中央1-23-1
22	ベックス川口店	埼玉県川口市栄町3-1-24
23	ベックス北本店	埼玉県北本市北本1-12
24	ベックス大宮新幹線店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
25	ベックスさいたま新都心店	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,077	5,531			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	8,654	4,180	10,649			
前年度比 (%)		—	154.8			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		51.7	-23.1			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		4,180	10,649			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3548	0.6658	0.3879			
前年度比 (%)		—	-41.7			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		-87.7	-9.3			
活動規模の指標	単 位					
売上高	百万円/年	6,278.26	27,455.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	<p>(浦和工場以外の店舗) 令和2年度の㈱日本レストランエンタプライズとジェイアール東日本フードビジネス(株)との合併により対象店舗数が2倍以上となったが、エネルギー効率の高い店舗が加わったこともありCO2排出量は前年比144%に留まっている。売上高を指標とするCO2排出量原単位では、【0.873⇒0.711t-CO2】前年比81%となった。</p> <p>(浦和工場) 受注数量が前年比4割減になり、生産量が減少し、設備稼働時間が短くなった。</p>
令和3年度 (2021年度)	<p>(浦和工場以外の店舗) 令和2年度の㈱日本レストランエンタプライズとジェイアール東日本フードビジネス(株)との合併に続き、令和3年度の㈱ジェイアール東日本フーズと㈱JR東日本リテールネット、㈱JR東日本ウォータービジネス、㈱鉄道会館の4社合併実施。前年の㈱ジェイアール東日本フーズの店舗数の52から今年の㈱JR東日本クロスステーションの166に増加。業態も多様化した。</p> <p>(浦和工場) 受注・出荷数量のうち、おにぎり製品は前年度比114%の微増に対し、炊飯米での出荷は大幅減になり、生産設備中エネルギー使用量の多い機器の6月から9月にかけて稼働時間が短くなった。このため電気使用量前年度比96.6%、蒸気購入前年度比98.5%</p>
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

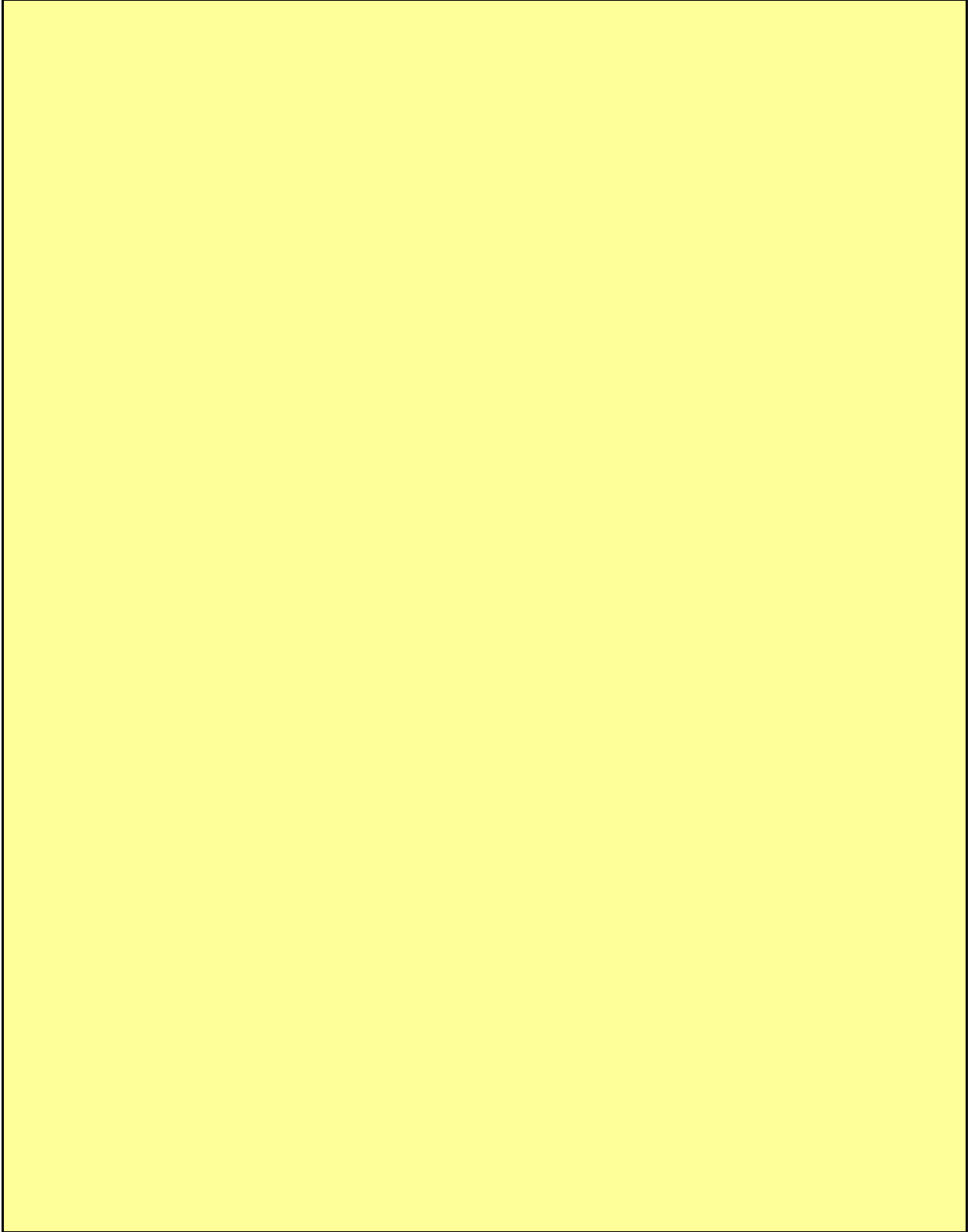
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ディベロッパーとの連携によるエネルギー 使用量管理体制の推進	R1以前	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ディベロッパーとの連携によるエネルギー 使用量管理体制の推進	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0614	事業所番号	035301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 J R 東日本クロスステーションフーズカンパニー食品製造事業部戸田工場		
事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	美女木東1丁目6の1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容：弁当、惣菜、パン、麺等の製造及び食材・資材の供給</li> <li>・従業員数：658名(2016年6月現在)</li> </ul>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	28,504	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	7,126	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				



## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,632	1,459			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,194	2,855			
前年度比 (%)	—	-10.6			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,194	2,855			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3126	3.0072			
前年度比 (%)	—	30.0			
活動規模の指標	単位				
出荷額	百万円/年	1,381.13	949.39		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	出荷数量が前年比4割以上減。生産数量抑制に伴うエネルギー使用量減。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	設備入れ替え工事の実施は令和4年度からになったが、令和3年度に3階生産エリアの生産設備の使用停止だけを行った。これに伴い使用していないエリアの空調停止も実施。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	7,126	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	7,126	7,126	7,126	7,126	7,126	35,630	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							28,504
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							7,126
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,194	2,855				6,049	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	55.18%	59.94%				—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	3,932	4,271				8,203	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	照明器具のLED化	R1以前	R1以前	
2	370700		電動力応用 設備、電気加熱 設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	加熱連続フライヤーを最新タイプに更 新し、加熱時間短縮により、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
3	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	個別空調機の省エネタイプへの更新	R1以前	R1以前	
4	310100		一般管理事 項	31_推進体制の整備	停止した冷凍食品製造用冷凍機と蒸気 炊飯ラインを撤去	R1以前	R1以前	
5	370700		電動力応用 設備、電気加熱 設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	更新期になった冷凍庫・冷蔵庫の冷凍 機をを最新タイプに更新し、電力消費 抑制	R1以前	R1以前	
6	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	仕分けエリアの冷蔵室を撤去してロッ カー室を設置	R2	R2	
7	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R2	R2	
8	330200		空気調和設 備・換気設備	33_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	空調室外機入替	R3	R3	
9	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	倉庫機能の外部委託	R3	R3	
10	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	東京都にある工場から製造ライン移管 受入	R4		
11								
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

令和4年度に実施する工事に備えて令和3年度に停止した施設が多いので、実質2年間は工事期間と捉えるべきかと考えられる。

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ベックス川越店	埼玉県川越市脇田本町39-19
2	ベックス熊谷店	埼玉県熊谷市筑波2-112
3	ベックス久喜店	埼玉県久喜市久喜中央2-1-1
4	ベックス浦和店	埼玉県さいたま市浦和区高砂1-16-12
5	ベックス北浦和店	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-3-5
6	ベックスステーションラウンジさいたま新都心店	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4-57-3
7	ベッカーズ大宮新幹線店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
8	鉄道博物館 キッズカフェ	埼玉県さいたま市大宮区大成町3-47 鉄道博物館
9	ほんのり屋ecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
10	ハニーズバー大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
11	ハニーズバー大宮駅第4ホーム店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
12	Railway Club 大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
13	リトルマーメイド蕨店	埼玉県蕨市中央1-23
14	リトルマーメイド川口店	埼玉県川口市栄町3-1-24
15	リトルマーメイド上尾店	埼玉県上尾市柏座1-1-18
16	デিজィecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
17	駅弁屋 旨囲門ecute大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町633JR大宮駅構内
18	鉄道博物館 ビューレストラン	さいたま市大宮区大成3-47
19	鉄道博物館 駅弁屋	さいたま市大宮区大成3-47
20	いろり庵 きらく熊谷店	埼玉県熊谷市筑波2-112熊谷駅北口
21	ecute大宮	さいたま市大宮区錦町630
22	ecute大宮ノース	さいたま市大宮区錦町630
23	川口1-BQB	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
24	川口2B てもみん	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
25	与野寮	埼玉県さいたま市中央区下落合1085-17

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	キオスク本庄改札内	埼玉県本庄市駅南2丁目1
2	キオスク宮原改札外	埼玉県さいたま市北区宮原町3丁目
3	キオスク上尾改札内	埼玉県上尾市柏座1丁目1-18
4	キオスク北鴻巣改札外	埼玉県鴻巣市赤見台1丁目5
5	キオスク吹上改札内	埼玉県鴻巣市吹上本町1丁目1
6	キオスク行田改札外	埼玉県行田市壺里山町
7	ニューデイズ深谷	埼玉県深谷市西島町1丁目1
8	ニューデイズ熊谷	埼玉県熊谷市筑波2丁目115
9	ニューデイズ籠原1	埼玉県熊谷市新堀
10	ニューデイズ上尾	埼玉県上尾市柏座1丁目1-18
11	ニューデイズミニ本庄早稲田	埼玉県本庄市早稲田の杜1丁目1-1
12	ニューデイズミニ熊谷1	埼玉県熊谷市筑波2丁目115
13	ニューデイズ北本	埼玉県北本市北本1丁目
14	ニューデイズミニ桶川1	埼玉県桶川市南1丁目1
15	ニューデイズミニ北上尾1	埼玉県上尾市原新町20
16	ニューデイズ吹上	埼玉県鴻巣市吹上本町1丁目1
17	ニューデイズミニ鴻巣1	埼玉県鴻巣市本町1丁目1
18	ニューデイズミニ熊谷5	埼玉県熊谷市筑波2丁目115
19	グリーンライフ熊谷	埼玉県熊谷市筑波2丁目115
20	コージーコーナー北本	埼玉県北本市北本1丁目
21	コージーコーナー熊谷	埼玉県熊谷市新堀
22	マンスリー上尾	埼玉県上尾市柏座1丁目1-18
23	本庄そば	埼玉県本庄市駅南2丁目1
24	キオスク大宮自由通路東口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
25	キオスク大宮東口南	埼玉県さいたま市大宮区錦町630

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。 日本工業規格A列4番

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ニューデイズ大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
2	ニューデイズ大宮西口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
3	ニューデイズ北戸田	埼玉県戸田市新曽字芦原
4	ニューデイズ北浦和	埼玉県さいたま市浦和区4丁目4
5	ニューデイズ川口	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
6	ニューデイズ川越	埼玉県川越市脇田町24-9
7	ニューデイズ東大宮	埼玉県さいたま市見沼区東大宮4丁目76-61
8	ニューデイズ川口中央	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
9	ニューデイズ大宮東口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
10	ニューデイズ三郷	埼玉県三郷市三郷一丁目32
11	ニューデイズ大宮3	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
12	ニューデイズ東浦和	埼玉県さいたま市緑区東浦和1丁目23-2
13	ニューデイズ南越谷	埼玉県越谷市南越谷1丁目21-1
14	ニューデイズさいたま新都心	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町4丁目57-3
15	ニューデイズ川越中央	埼玉県川越市脇田町24-9
16	ニューデイズ 久喜	埼玉県久喜市1丁目1
17	ニューデイズ越谷レイクタウン	埼玉県越谷市レイクタウン八丁目
18	ニューデイズ戸田	埼玉県戸田市新曽字柳原
19	ニューデイズ吉川	埼玉県吉川市木売1丁目
20	ニューデイズ武蔵浦和	埼玉県さいたま市南区别所7丁目12-1
21	ニューデイズ与野	埼玉県さいたま市浦和区上木崎1丁目1
22	ニューデイズ南浦和	埼玉県さいたま市南区南浦和2丁目37-2
23	ニューデイズエキュート大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
24	ニューデイズミニ 大宮19	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
25	ニューデイズ大宮西改札口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。 日本工業規格A列4番



## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ニューデイズミニ 北浦和1号	埼玉県さいたま市浦和区4丁目4
2	キオスク蕨西口	埼玉県蕨市中央1丁目23
3	ニューデイズ大宮31号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
4	キオスク大宮西口1階	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
5	ニューデイズ大宮15号	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
6	ニューデイズ東鷲宮	埼玉県久喜市西大輪726
7	ニューデイズ川口2号	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
8	ニューデイズ北朝霞	埼玉県朝霞市浜崎1丁目1
9	ニューデイズミニ 蕨6	埼玉県蕨市中央1丁目23
10	ニューデイズ日進	埼玉県さいたま市北区日進町2丁目881
11	ニューデイズミニ 西川口2	埼玉県川口市並木2丁目20-1
12	ニューデイズミニ 大宮32	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
13	ニューデイズミニ 大宮37	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
14	ニューデイズ浦和改札内	埼玉県さいたま市浦和区高砂1丁目16-12
15	プレミィ川口	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
16	プレミィe大宮N	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
17	3COINS北浦和	埼玉県さいたま市浦和区4丁目4
18	3COINS大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
19	レールヤード大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
20	3COINS北浦和	埼玉県さいたま市浦和区4丁目4
21	BOOキオスクディラ大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
22	BOOキオスク e大宮N	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
23	くすりST大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
24	くすりST武蔵浦和	埼玉県さいたま市南区别所7丁目12-1
25	ギフト大宮新幹線	埼玉県さいたま市大宮区錦町630

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。 日本工業規格A列4番

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	キオスク大宮1番線ホーム	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
2	キオスク北浦和ホーム	埼玉県さいたま市浦和区4丁目4
3	キオスク蕨ホーム	埼玉県蕨市中央1丁目23
4	キオスク蕨改札外	埼玉県蕨市中央1丁目23
5	キオスク西川口改札内	埼玉県川口市並木2丁目20-1
6	キオスク川口ホーム南	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
7	キオスク川口ホーム北	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
8	キオスク川口改札外	埼玉県川口市栄町3丁目1-21
9	キオスク東大宮改札内	埼玉県さいたま市見沼区東大宮4丁目76-61
10	キオスク土呂改札外	埼玉県さいたま市北区土呂町1丁目
11	キオスク白岡改札外	埼玉県白岡市小久喜1213
12	キオスク西大宮改札内	埼玉県さいたま市西区西大宮1丁目
13	キオスク大宮埼京南連絡通路	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
14	キオスク大宮埼京北連絡通路	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
15	キオスク武蔵浦和改札内	埼玉県さいたま市南区别所7丁目12-1
16	キオスク南浦和改札内	埼玉県さいたま市南区南浦和2丁目37-2
17	キオスク新三郷駅	埼玉県三郷市新三郷ららシティ2丁目4
18	キオスク戸田公園改札外	埼玉県戸田市本町4丁目15
19	キオスク与野本町改札内	埼玉県さいたま市中央区本町東2丁目3
20	キオスク浦和改札内北	埼玉県さいたま市浦和区高砂1丁目16-12
21	ニューデイズ浦和西口	埼玉県さいたま市浦和区高砂1丁目16-12
22	ニューデイズ蓮田	埼玉県蓮田市本町1-2
23	ニューデイズ東川口	埼玉県川口市東川口1丁目1-1
24	ニューデイズ北与野	埼玉県さいたま市中央区上落合2丁目3
25	ニューデイズ南与野	埼玉県さいたま市中央区鈴谷2丁目578

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。 日本工業規格A列4番

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ハナガタヤ大宮新幹線	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
2	はんなり屋 大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
3	ギフトガーデン川越店	埼玉県川越市脇田町24-9
4	膳まい大宮北口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
5	ギフト大宮北口	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
6	かねすえ南浦和	埼玉県さいたま市南区南浦和2丁目37-2
7	大宮 1C(コージー	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
8	マネケン大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
9	RINGO大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
10	POGG大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
11	ビアードパパ大宮	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
12	リトル蕨 コージー	埼玉県蕨市中央1丁目23
13	コレ食べ?蕨	埼玉県蕨市中央1丁目23
14	マンスリー浦和	埼玉県さいたま市浦和区高砂1丁目16-12
15	サイボク川越	埼玉県川越市脇田町24-9
16	大宮西口QB	埼玉県さいたま市大宮区錦町630
17	浦和工場	さいたま市桜区田島 9-20-3
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	朝日アグリア株式会社		
所在地	埼玉県児玉郡神川町渡瀬222		
事業者番号	0615		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,015	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	16 化学工業		
分類番号 (中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	肥料事業、種苗事業、牧草事業	
	区分	企業	
	前年度	資本金	303 百万円
		従業員数	198 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061500	朝日アグリア株式会社 神川農場	39
Bテナント等	061501	朝日アグリア株式会社 関東工場	2,976
B、C事業所			
合 計			3,015

## (4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="http://www.asahi-kg.co.jp/agria">http://www.asahi-kg.co.jp/agria</a>
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	朝日工業株式会社 関東工場
		所 在 地 1	埼玉県児玉郡神川町渡瀬222番地
		閲 覧 可 能 時 間 1	AM10:00~11:30、PM1:00~4:00
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境安全管理課	0274-52-2715	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

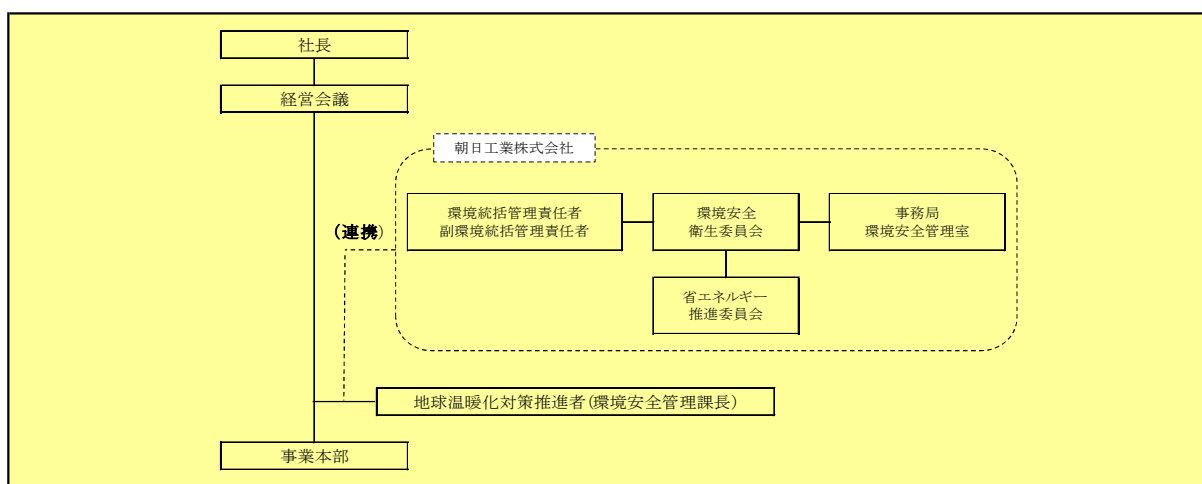
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

[経営理念]  
 誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。  
 良い製品、良いサービスを提供し、地球環境に貢献し続けます。

[CSR指針]  
 社会へ貢献、感謝、恩返しを大切にします。

[環境指針]  
 環境負荷低減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通して、環境へ貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,318	5,960			
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,318	5,960			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061500
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	朝日アグリア株式会社 神川農場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	大字新里863-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	71 学術・開発研究機関		
分類番号(中分類)	71		
事業活動の概要	植物育種研究		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	163	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.0239	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	令和2年度の原単位を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	朝日アグリア株式会社 神川農場	児玉郡神川町大字新里863-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。



## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	67	39			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	163	163	91			
前年度比 (%)		—	-44.2			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	44.2			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		163	91			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0239	0.0239	0.0133			
前年度比 (%)		—	-44.2			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	44.2			
活動規模の指標	単位					
ハウス面積	m <sup>2</sup>	6,823.00	6,823.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	ハウス暖房を効率的に運用、及び冬季の燃料使用が大きい栽培の規模が前年度より縮小したため、燃料使用量が減少し、CO <sub>2</sub> 排出量が減少
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

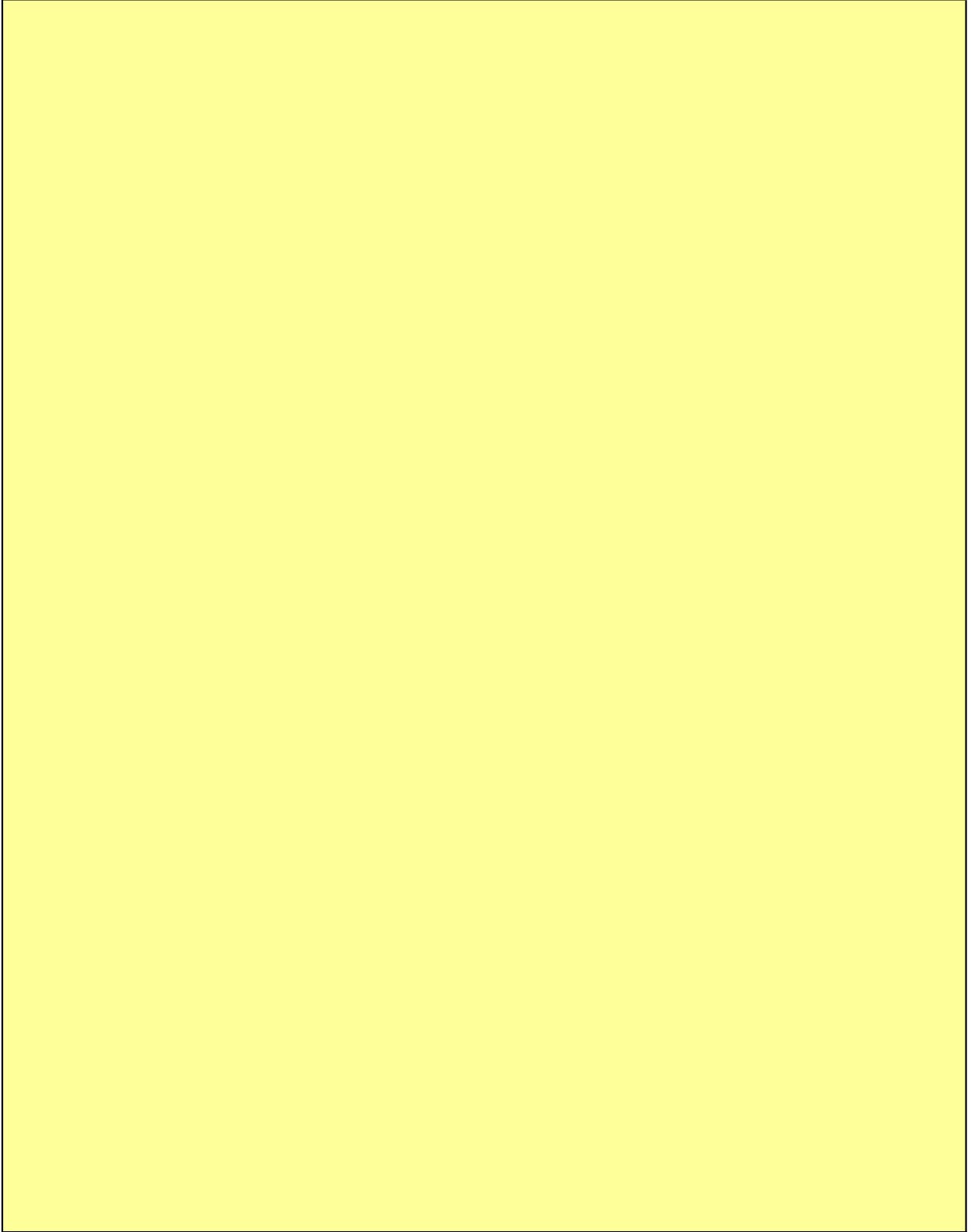
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施	R2	R2	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	暖房設備の効率的運用を実施	R3	R3	
4	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備の効率的運用を実施	R3	R3	
5	130100	空調調和設備・換気設備	13_空調調和の運転管理	空調機器の効率的運用を実施	R3	R3	
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0615	事業所番号	061501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	Bテナント等 … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上であり、他の事業所の一部である事業所
Bテナント等	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	朝日アグリア株式会社 関東工場		
事業所所在地	市区町村	児玉郡神川町	
	字・地番	渡瀬222番地	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)	朝日工業株式会社 埼玉事業所		
産業分類名（中分類）	16 化学工業		
分類番号（中分類）	16		
事業活動の概要	肥料事業、種苗事業、牧草事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	6,155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.1065	t-CO <sub>2</sub> /t/年
	令和2年度の排出量を基準として、削減計画期間の平均削減率を1%とします。 ※朝日アグリアは2020年度に朝日工業の会社分割により子会社となりました。両社にはエネルギー管理の連動性があることから、朝日アグリアはBテナント事業者として報告を行います。						
	その他ガス	基準となる排出量については、朝日アグリア単体での過去の排出量(2002～2007)の特定が難しいため令和2年度の排出量を基準としました。引き続き、朝日工業（C事業所）の削減目標達成に努めます。					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,121	2,976			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,155	6,155	5,869			
前年度比 (%)		—	-4.6			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	4.6			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		6,155	5,869			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1065	0.1065	0.1047			
前年度比 (%)		—	-1.7			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	1.7			
活動規模の指標	単位					
生産量	t/年	57,803.00	56,044.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	大型ロット化及び連続生産により、生産性が向上しCO <sub>2</sub> 排出量が減少。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

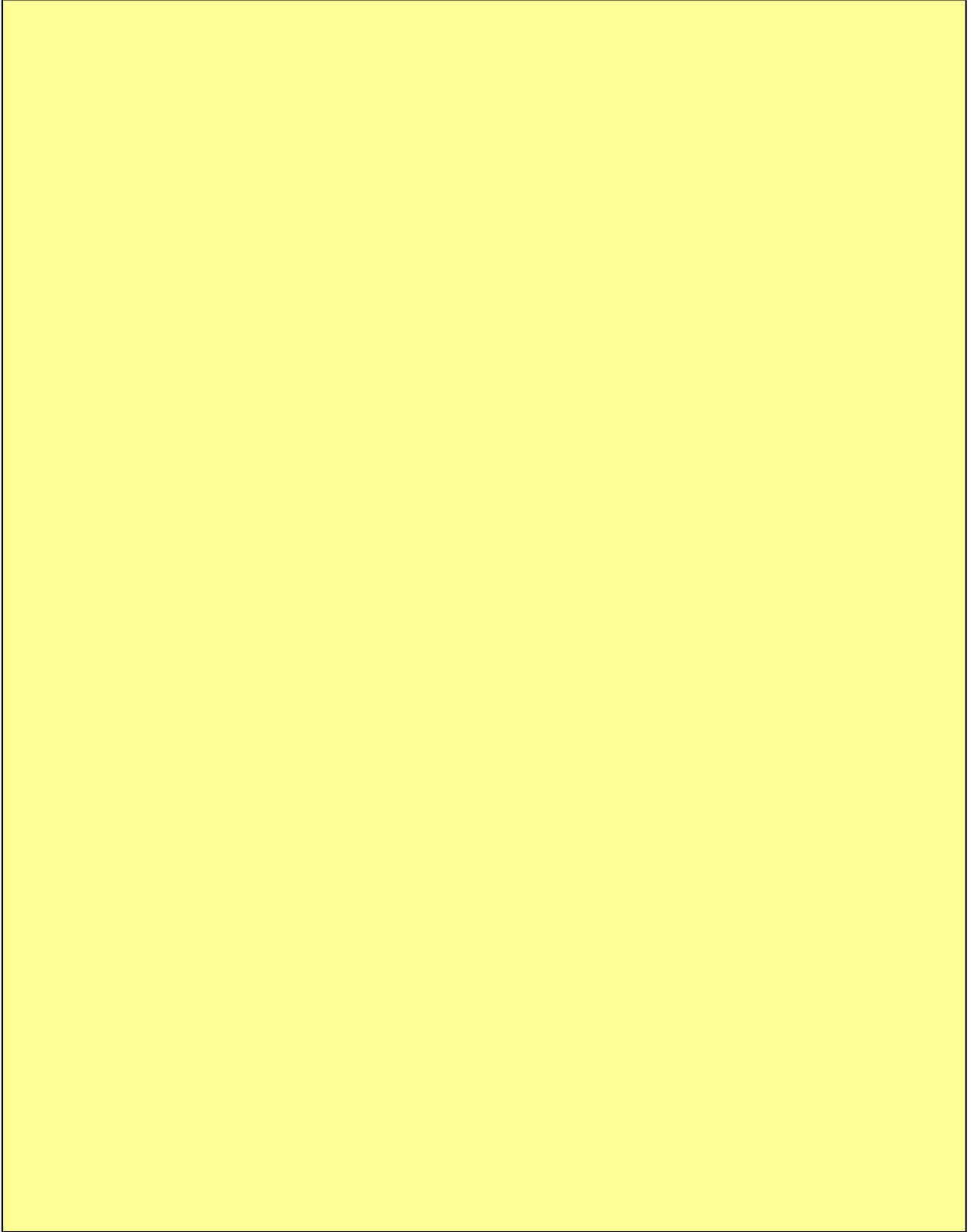
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量の集計を実施。	R2	R2	
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	温暖化対策推進体制の構築及び担当者の配置	R2	R2	
3	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	大型ロット化及び連続生産による待機電力削減	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者（III類の事業者を除く）
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 Plan・Do・See		
所在地	東京都千代田区丸の内2-1-1		
事業者番号	0616		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,925	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	75 宿泊業		
分類番号 (中分類)	75		
事業活動の 概要	事業内容	1 THE MARK GRAND HOTEL 事業内容：ホテル 敷地面積：5,500㎡ 延べ床面積：35,424.53㎡	
	区分	企業	
	前年度	資本金	100 百万円
	前年度	従業員数	1,700 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	038501	THE MARK GRAND HOTEL	1,925
合 計			1,925

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	THE MARK GRAND HOTEL 2階事務所
		所在地 1	埼玉県さいたま市中央区新都心3-2
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00 月~金(祝日除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	株式会社オペレーションプラス 管理	0048-600-5509	energy@themarkgrand.com
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

I am one of the customersの指針の下に行動し  
 土地に根付いた事業運営をベースに  
 その土地が魅力的になる、価値が上がる取り組みをコツコツ継続してゆき  
 それが環境や温暖化に繋がるように取り組んでまいります。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

株式会社 Plan・Do・See  
 コーポレートマネジメント室  
 (地球温暖化対策推進者)  
 ↓  
 THE MARK GRAND HOTEL

## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,297	3,469			
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,297	3,469			

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和	4	年度	事業者番号	0616	事業所番号	038501
----	---	----	-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	THE MARK GRAND HOTEL		
事業所所在地	市区町村	さいたま市中央区	
	字・地番	新都心3番2号	
産業分類名(中分類)			
分類番号(中分類)			
事業活動の概要	事業内容	事業内容：ホテル 敷地面積：5,500㎡	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,756	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(2)		
	削減目標量(計画期間合計)	6,689	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,833	1,925			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,297	3,469			
前年度比 (%)	—	5.2			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,297	3,469			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0931	0.0979			
前年度比 (%)	—	5.2			
活動規模の指標単位					
床面積	35,425.00	35,425.00			
	m <sup>2</sup>				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	有	設備の増減	無
	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令等の影響を受け、宿泊及び宴会等利用客数が前年度に比べ半減したことにより、CO<sub>2</sub>排出量が前年度と比較して減少したものの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理用途の都市ガス使用量が前年度比44%減少。</li> <li>照明他用途の電気使用量が前年度比23%減少。</li> <li>空調他用途の冷水使用量が前年度比29%減少。</li> <li>空調他用途の蒸気使用量が前年度比15%減少。</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>緊急事態宣言解除により、ホテル稼働率が徐々に戻りつつあるため、エネルギー使用量の増加。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,689	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分-(2)
----------	----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	6,689	6,689	6,689	6,689	6,689	33,445
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						26,756
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						6,689
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	3,297	3,469				6,766
	削減率 (F = (A - E) / A)	50.71%	48.14%				—
	排出削減量 (G = A - E)	3,392	3,220				6,612
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				



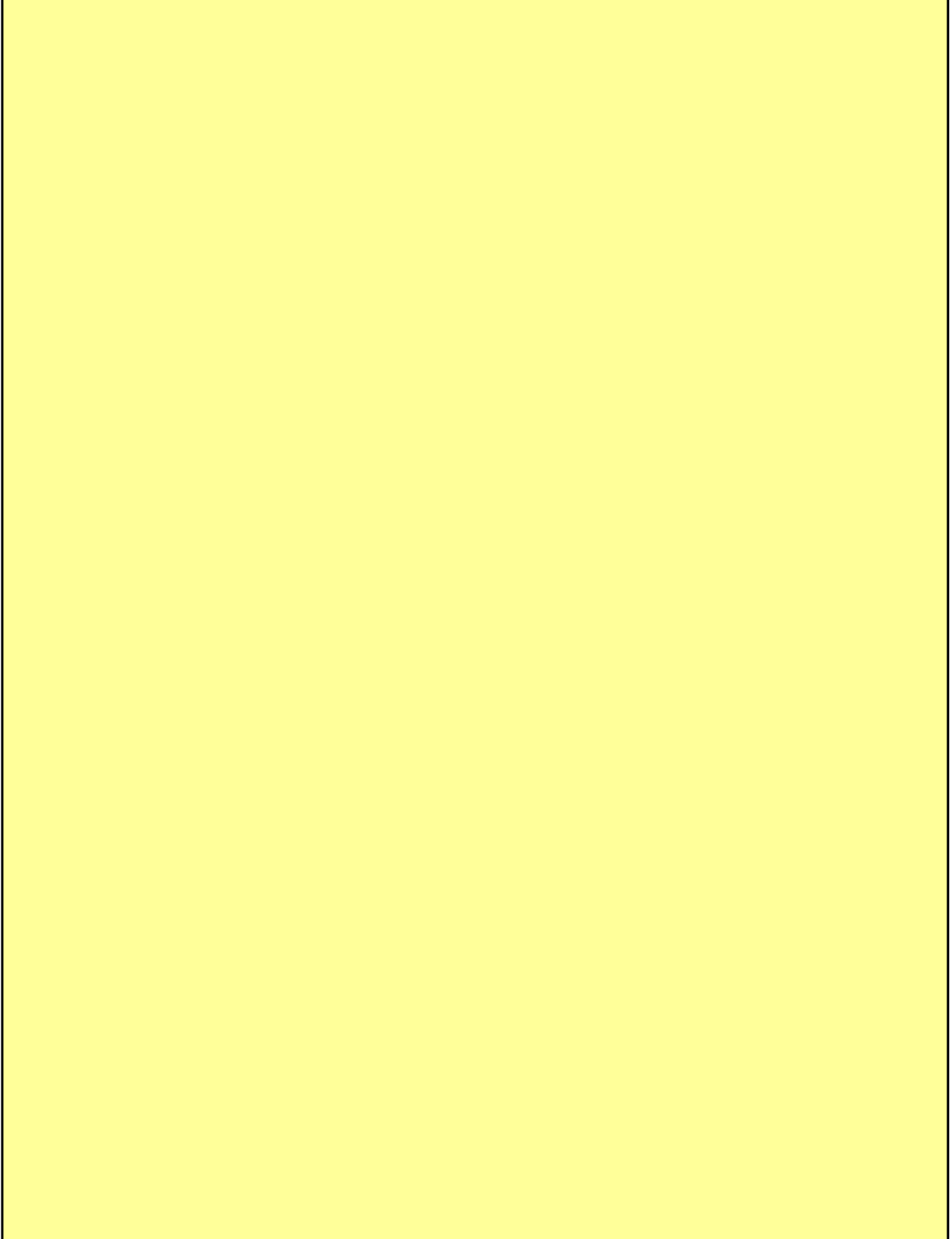
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	120700	熱源設備・熱搬送設備	12_蒸気漏えい及び保温の管理	蒸気断熱ジャケットの装着、保湿剤の着工		R1以前	
2	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	省エネVベルトの採用		R1以前	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	LED照明の採用		R1以前	
4	120500	熱源設備・熱搬送設備	12_熱搬送設備の運転管理	冷温水ポンプ等インバーター装置の設置		R1以前	
5	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機へのCO2制御導入		R1以前	
6	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備に関する節電対策【第3計画期間も継続実施】	R3	R3	
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者（III類の事業者を除く）
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	わらべや日洋食品株式会社		
所在地	東京都新宿区富久町13-15		
事業者番号	0617		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	8,486	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	調理済食品の製造 1日生産量（グループ全体）最大600万食以上 2,180名（2021年3月末日現在） 臨時従業員 9,075名（1日8時間労働換算）	
	区分	企業	
	前年度	資本金	8,228 百万円
	前年度	従業員数	6,894 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	042602	わらべや日洋食品株式会社 吉川工場	2,852
C	042604	わらべや日洋株式会社 浦和工場	3,335
C	042601	わらべや日洋株式会社 大宮工場	2,299
合 計			8,486

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	わらべや日洋食品株式会社 生産技術部
		所在地 1	東京都新宿区富久町13-19
		閲覧可能時間 1	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
		閲覧場所 2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場
		所在地 2	埼玉県さいたま市北区吉野町2-10-1
		閲覧可能時間 2	9:00~18:00 (土日祝日、年末年始を除く)
	その他		

## (5) 公表の担当部署

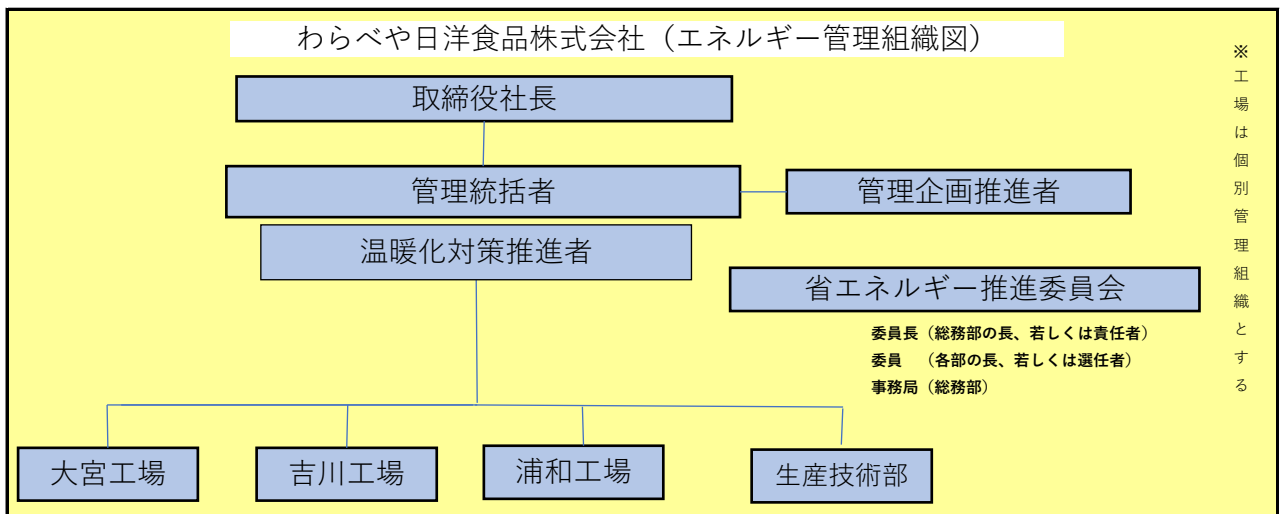
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	わらべや日洋食品株式会社 生産技術部	03-5363-7150	seisan.gijyutyu@warabeya.co.jp
2	わらべや日洋食品株式会社 大宮工場管理課	048-668-0851	ohmiya-factory@warabeya.co.jp
3	わらべや日洋食品株式会社 吉川工場管理課	048-992-5001	yoshikawa-factory@warabeya.co.jp

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して地球の豊かな恵みの存続に貢献します。工場に合った削減設備及び対策内容を考慮し、適切な設備計画を実施し対策をおこなっていきます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	16,788	16,575			
その他ガス					
温室効果ガスの計	16,788	16,575			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042602
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋食品株式会社 吉川工場		
事業所所在地	市区町村	吉川市	
	字・地番	大字南広島442番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理済食品の製造</li> <li>・従業員数 457名</li> <li>・敷地面積 11,875.76㎡</li> </ul>	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。また、必要に応じて排出量取引を行う。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	30,016	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	7,504	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,945	2,852			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,754	5,575			
前年度比 (%)	—	-3.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	5,754	5,575			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1.0175	1.1915			
前年度比 (%)	—	17.1			
活動規模の指標単位					
生産量	5,655.00	4,679.00			
	万食				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
生産量は減少したが、生産内容に起因した排出量増加とみられる。						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
床面積の増減：工事は無し。 建物の用途変更：用途変更は無し。 設備の増減：設備の増減は無し。 その他 ・製造アイテムが増えたが、全体の食数や稼働時間は減少したため排出量は減少傾向であった。						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	



3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,504	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	7,504	7,504	7,504	7,504	7,504	37,520	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							30,016
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							7,504
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	5,754	5,575				11,329	
	削減率 (F = (A - E) / A)	23.32%	25.71%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	1,750	1,929				3,679	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

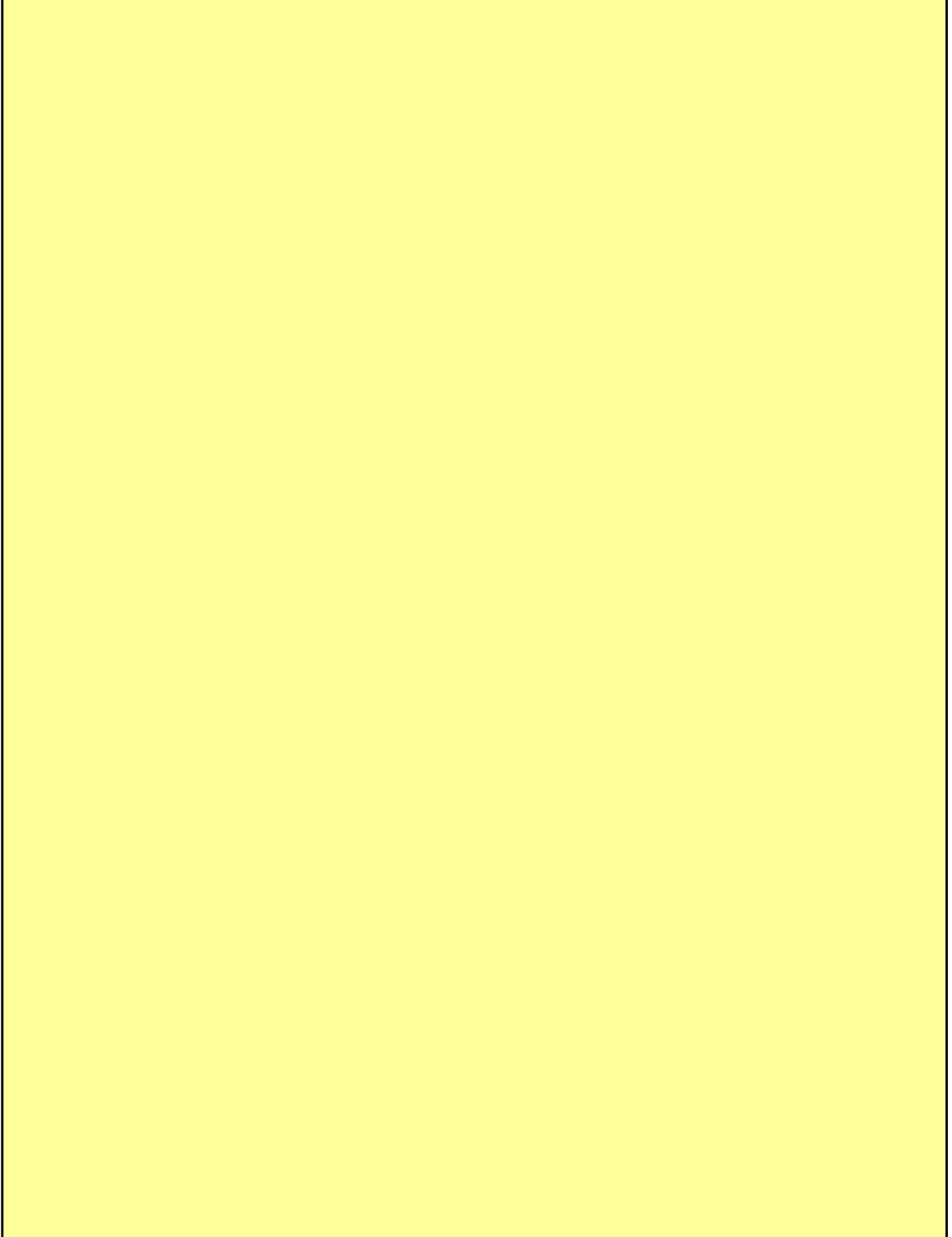
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	エネルギー管理標準による管理実施	R3	R3	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行いコントロールを図る	R3	R3	
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏場の電力消費量抑制を行う。	R3	R3	
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。	R3	R3	
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備の点検保守を行い、給排気バランスを整え空調機の電力負荷を軽減する。	R3	R3	
6	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	契約電力を前年対比で15%下げる事でエネルギー使用量の抑制を図る。	R3	R3	
7				【上記対策を毎年度継続実施】			
8							
9	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	蒸気設備にスチームトラップ設置		R1以前	
10	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	給排気設備のインバーター制御の調整		R1以前	
11	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	照明設備をすべてLEDに変更		R1以前	
12	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	省エネ型空調機に入れ替え	R3	R3	
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0617	事業所番号	042604
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 浦和工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区桜田	
	字・地番	3-3-2	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 調理済食品の製造 従業員 380人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	削減計画期間の平均削減率を令和2年度~3年度は6%、令和4年度~6年度は13%とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	37,123	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	4,217	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3,331	3,335			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	6,508	6,517			
前年度比 (%)	—	0.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	6,508	6,517			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3771	2.2011			
前年度比 (%)	—	-7.4			
活動規模の指標単位					
生産量	2,737.80	2,960.78			
	万食				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>排出量増加の要因として以下の事由が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用の加熱調理用皿を使う商品が増え、洗浄・消毒等の手間が増えた。</li> <li>・生產品目も増え、切替作業時間も増加してきた。</li> <li>・これまでどの商品もある程度のロットがあったものの、ラインにて30分にも満たない小ロット製品製造が目立った。</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>・既存のスチームトラップをエネトラップに変更し、蒸気ドレン排出量を抑制。</p> <p>・ボイラー配管、バルブにエコジャケットを取付けすることで放熱を押さえ、ボイラーのガス使用量を抑えることができた。</p> <p>上記対策を施したが、生産量が増加したため、排出量は微増した。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,268	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	8,268	8,268	8,268	8,268	8,268	41,340
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						37,123
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						4,217
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	6,508	6,517				13,025
	削減率 (F = (A - E) / A)	21.29%	21.18%				—
	排出削減量 (G = A - E)	1,760	1,751				3,511
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

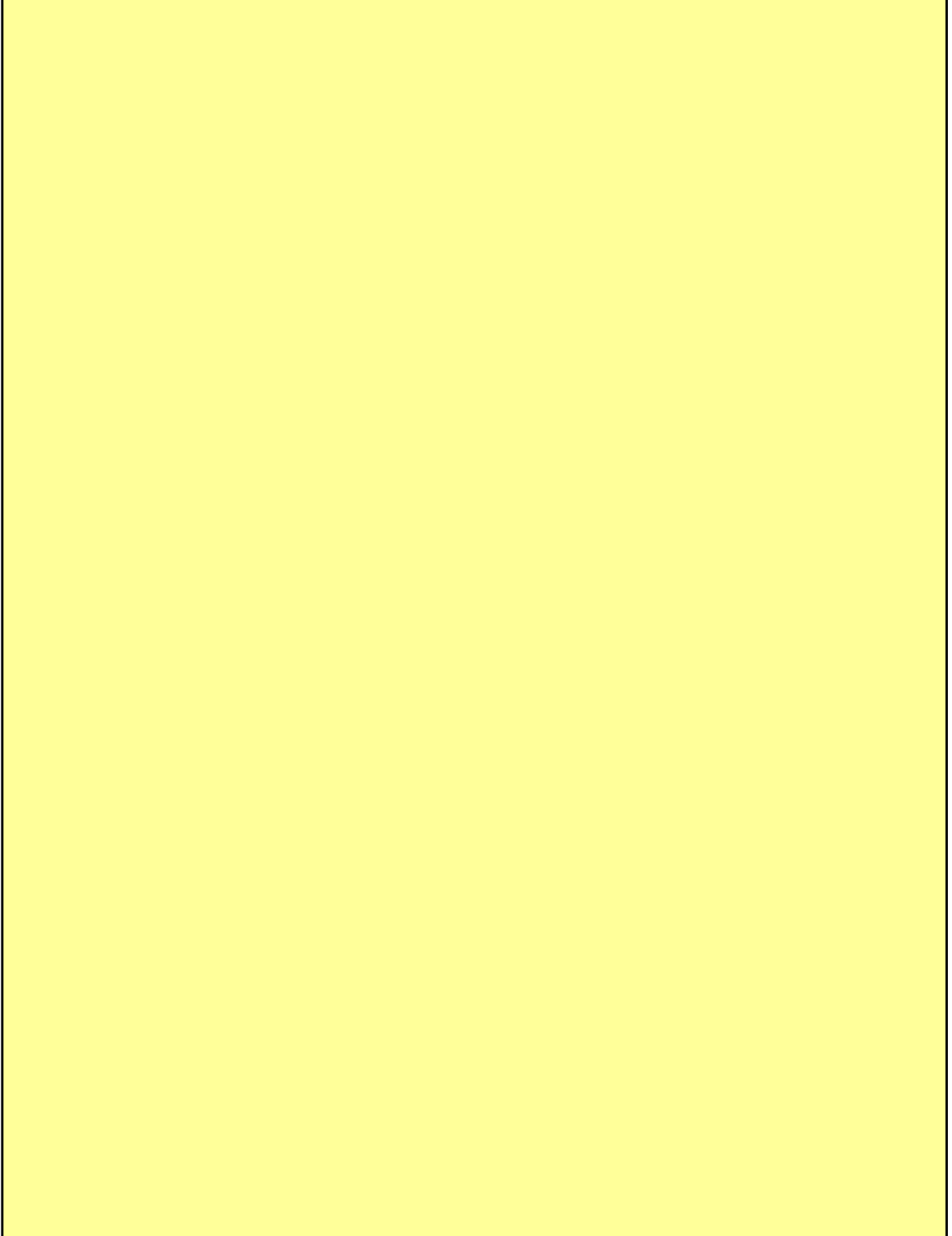
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	デマンド監視装置	R3	R3	
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調室外機・屋上散水の実施	R3	R3	
3	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明設備の順次LED化	R3	R3	
4				【上記対策を継続実施】			
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和	4	年度	事業者番号	0617	事業所番号	042601
----	---	----	-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C	平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	わらべや日洋株式会社 大宮工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市北区吉野町	
	字・地番	2丁目10番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：調理済食品の製造 従業員数：526人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3計画期間の削減率20%を目標とする。必要に応じて排出量取引を行う。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,860	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	6,715	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,322	2,299			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,526	4,483			
前年度比 (%)	—	-1.0			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,526	4,483			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.7450	0.7398			
前年度比 (%)	—	-0.7			
活動規模の指標単位					
生産量	6,075.00	6,060.00			
	万食				

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量は増加しているが、コロナ禍での稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられる。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量は増加しているが、アイテム数の集約により各機器の稼働時間減少等が排出量減少に寄与しているとみられます。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,715	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	6,715	6,715	6,715	6,715	6,715	33,575
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						26,860
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						6,715
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	4,526	4,483				9,009
	削減率 (F = (A - E) / A)	32.60%	33.24%				—
	排出削減量 (G = A - E)	2,189	2,232				4,421
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

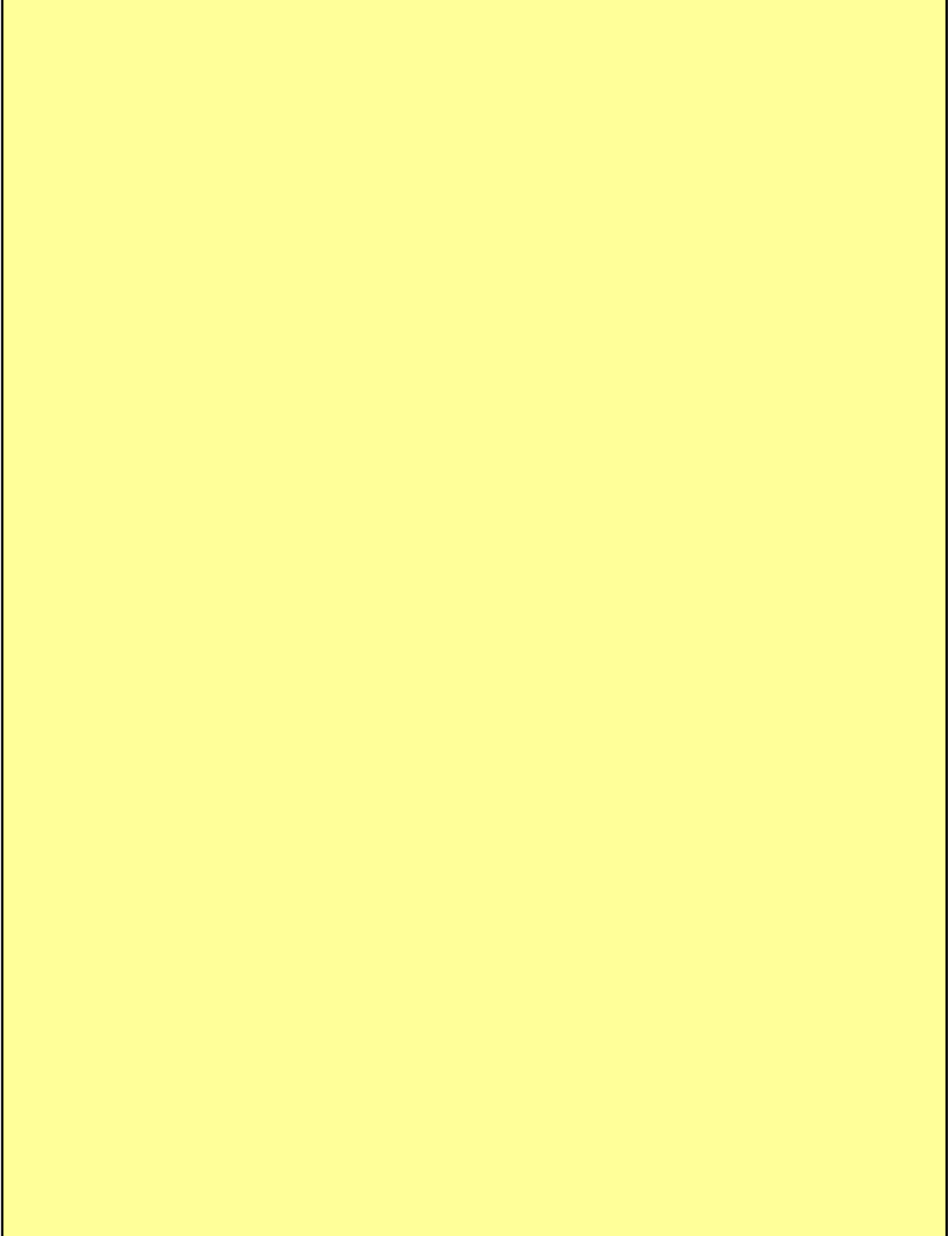
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310200		一般管理事項 31_主要設備等の保全管理	空調機の点検を行い、効率の低下した機器を優先に更新と修理を行い空調機の効率化を図る。	R3	R3	
2	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	デマンド計を設置し、電力使用量の監視を行う。	R3	R3	
3	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根及び空調外機に散水し夏季の電力消費量抑制を行なう。	R3	R3	
4	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	通路などを消灯し電力抑制を行なう。	R3	R3	
5	320300		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管の分岐部にエコジャケットを段階的に設置し、廃熱を抑制する。蒸気漏れがあった場合、すぐに対応し修理を行う。	R3	R3	
6				【上記対策を継続的に実施する】			
7							
8							
9	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	一部の製造エリアを省エネタイプの蛍光灯に変更を行いたい。	R4		
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅰ類	A事業所のみを有する特定事業者
Ⅱ類	B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
Ⅲ類	C事業所を有する特定事業者
Ⅳ類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社KADOKAWA		
所在地		東京都千代田区富士見二丁目13番3号		
事業者番号		0618		
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)		2,710	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)			㎡	
産業分類名 (中分類)		41 映像・音声・文字情報制作業		
分類番号 (中分類)		41		
事業活動の概要	事業内容	総合エンターテインメント企業として、出版、映像、ゲーム、Webサービス、教育、MD、インバウンド関連などの幅広い事業を展開。ABW (Activity Based Working) を含めたデジタルトランスフォーメーションの推進により、IP (Intellectual Property) の安定的創出と世界への伸展を中核とした「グローバル・メディアミックス」戦略を実践。		
	区分	企業		
	前年度	資本金	40,624	百万円
		従業員数	1,860	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量（kL）
A、Bテナント等事業所			
A	061800	ところざわサクラタウン 第2駐車場	4
B、C事業所			
B	061801	ところざわサクラタウン	2,706
合 計			2,710

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	ところざわサクラタウン防災センター
		所在地 1	埼玉県所沢市東所沢和田3-31-3
		閲覧可能時間 1	平日9:00～18:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	グループ戦略総務局 総務企画部	050-1746-8742	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球温暖化対策として以下の項目を重視しながら取組み、目標を実現します。

1. 設備機器の更新時期での省エネルギー対応機器の導入
2. 照明・空調機器等の稼働時間の見直し
3. 入居テナントに対する省エネルギー推進への啓発活動

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,049	5,302			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,049	5,302			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 **4** 年度

事業者番号

0618

事業所番号

061800

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
<b>A</b>	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ところざわサクラタウン 第2駐車場	前年度における事業所数	2
代表事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	松郷138番地3	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	48 運輸に附随するサービス業		
分類番号(中分類)	48		
事業活動の概要	ところざわサクラタウンの乗客用駐車場 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月オープン		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	155	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	t-CO <sub>2</sub> /
	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、排出量の抑制は困難である。令和2年度は年度途中からの使用であったため、標準原単位による排出量を基準とし、計画期間内の排出量の維持を目標とする。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ところざわサクラタウン 第2駐車場	所沢市松郷138番地3
2	ところざわサクラタウン 第3駐車場	所沢市松郷143番地1
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	3	4			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	155	6	8			
前年度比 (%)		—	33.3			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		96.1	94.8			
その他ガス						
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>						
メタン						
一酸化二窒素						
ハイドロフルオロカーボン						
パーフルオロカーボン						
六ふっ化いおう						
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計		6	8			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標単位						

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 第2駐車場が令和2年5月、第3駐車場が令和2年7月のオープンのため、令和3年度のCO2排出量は増加となる見込みである。
令和3年度 (2021年度)	第2駐車場、第3駐車場における電力の使用用途は外灯照明と精算機のみであり、増減の要因としては来場者数の変動があげられる。 第2駐車場は令和2年5月、第3駐車場は令和2年7月のオープンであり、令和3年度は通年での営業となったため、CO2排出量は増加となった。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

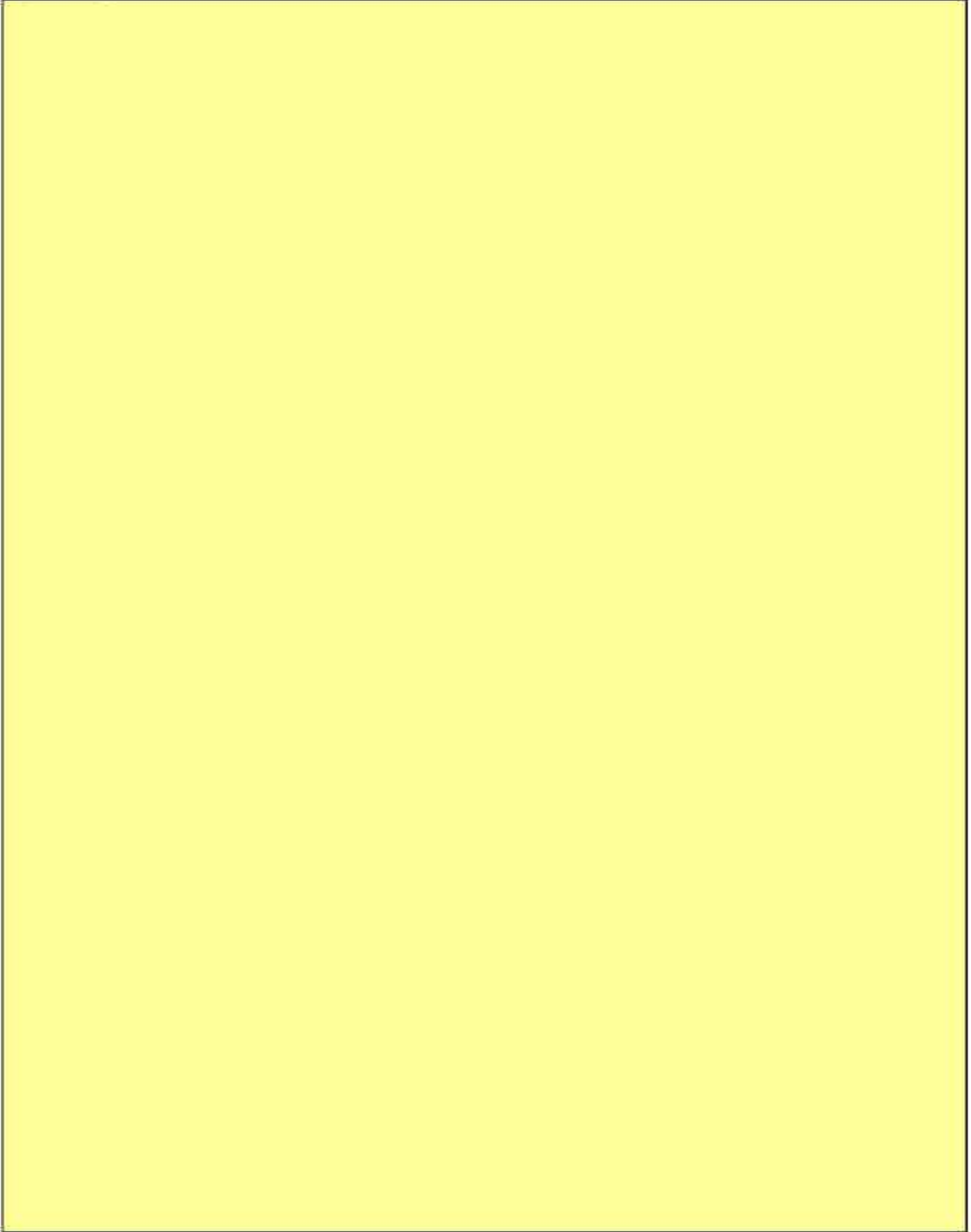
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	屋外照明のタイマー設定時間を見直し、季節にあった適正な点灯時間となるように管理する。	R2	R2	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 4 年度

事業者番号	0618	事業所番号	061801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ところざわサクラタウン		
事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	東所沢和田三丁目31番地3	
産業分類名 (中分類)	41 映像・音声・文字情報制作業		
分類番号 (中分類)	41		
事業活動の概要	事業内容	KADOKAWAが建設・運営する書籍製造・物流工場や所沢キャンパス (新オフィス)、イベントスペース、ホテル、ショップ & レストラン、ガ・ウインストア、商業施設ほか、角川文化振興財団による文化複合施設も建設。	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	当施設は運用開始から間もなく、未だ施設の全エリアが本稼働に至っていないため排出量の増加は当面続く見込みとなっている。そのため、全エリアが本格稼働するまでの過渡期間においては、全エリア本稼働時に見込まれる予測排出量 (約8,000 t-CO <sub>2</sub> /年) を基準に、C事業所当初水準の8%を当面の削減目標と設定し、運用を進めてゆく。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,061	2,706			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,043	5,294			
前年度比 (%)	—	30.9			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,043	5,294			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0462	0.0605			
前年度比 (%)	—	30.9			
活動規模の指標	単位				
延床面積	m <sup>2</sup>	87,433.71	87,433.71		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>ところざわサクラタウンは令和2年4月30日に竣工、製造・物流エリアの試運転を令和2年7月から開始、令和2年11月よりグランドオープンとなった。 令和3年度は通年での営業となり稼働率も上がるため、CO<sub>2</sub>排出量は増加する見込みである。</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
<p>令和3年度は前年度のCO<sub>2</sub>排出量と比較して30.9%の増加となった。 排出量の増加要因として、下記の事項が挙げられる。 ・前年度は年度途中からの営業であり、令和3年度は通年での営業であったため電気、ガス使用量が増加 ・前年度はコロナウィルスの感染拡大による影響で営業時間等の縮小やイベント開催を自粛していたが、制限が緩和されたため電気、ガス使用量が増加 ・製造エリアの稼働率が上がったため電気、ガス使用量が増加</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100		一般管理事項 11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を整備する。	R2	R2	
2	110300		一般管理事項 11_計測及び記録の管理	BEMSにより使用エネルギーの計測及び記録の管理を行う。	R2	R2	
3	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	毎月のエネルギー使用量を把握し、電子データとして保存する。	R2	R2	
4	130100		空気調和設備・換気設備 13_空気調和の運転管理	冷暖房の温度設定は政府等の推奨値を参考とし、適切な設定となるように管理する。	R2	R2	
5	150200		受変電設備、照明設備、電気設備 15_照明設備の運用管理	不要時の消灯を実施する。	R2	R2	
6	150300		受変電設備、照明設備、電気設備 15_事務用機器等の管理	パソコン、複合機等の省エネモードを活用する。	R2	R2	
7	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	電気室PAC、給排気ファンの運転を適正化する。	R3	R3	70.9
8	130300		空気調和設備・換気設備 13_換気設備の運転管理	ロックミュージアム機械室の吸排気ファンの運転を適正化する。	R3	R3	3.9
9	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	企画展示室系統の混合ロス防止対策を実施する。	R4		2.8
10	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	收藏庫の温湿度設定の緩和をする。	R4		1.2
11	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	4F空調機の温湿度設定の緩和をする。	R4		2.7
12	130200		空気調和設備・換気設備 13_空気調和設備の効率管理	5F空調機の温湿度設定の緩和をする。	R4		1.3
13	120300		熱源設備・熱搬送設備 12_運転管理及び効率管理	熱源の往温度設定を適正化する。	R4		8.0
14	120500		熱源設備・熱搬送設備 12_熱搬送設備の運転管理	熱源二次ポンプの制御を適正化する。	R4		4.0
15	130300		空気調和設備・換気設備 13_換気設備の運転管理	駐車場排気ファンの運転を適正化する。	R5		0.5

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section title.

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社アルビオン			
所在地	東京都中央区京橋1-12-2			
事業者番号	0619			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,227	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の 概要	事業内容	高級化粧品製造・販売 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケアなど化粧品全般の開発、製造および全国の一流百貨店・有力化粧品専門店を通じての販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	760	百万円
		従業員数	3,700	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	061900	株式会社アルビオン 大宮支店	13
B、C事業所			
B	061901	株式会社アルビオン 熊谷工場	3,214
合 計			3,227

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	本社
		所在地 1	東京都中央区京橋1-12-2
		閲覧可能時間 1	9:00~17:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

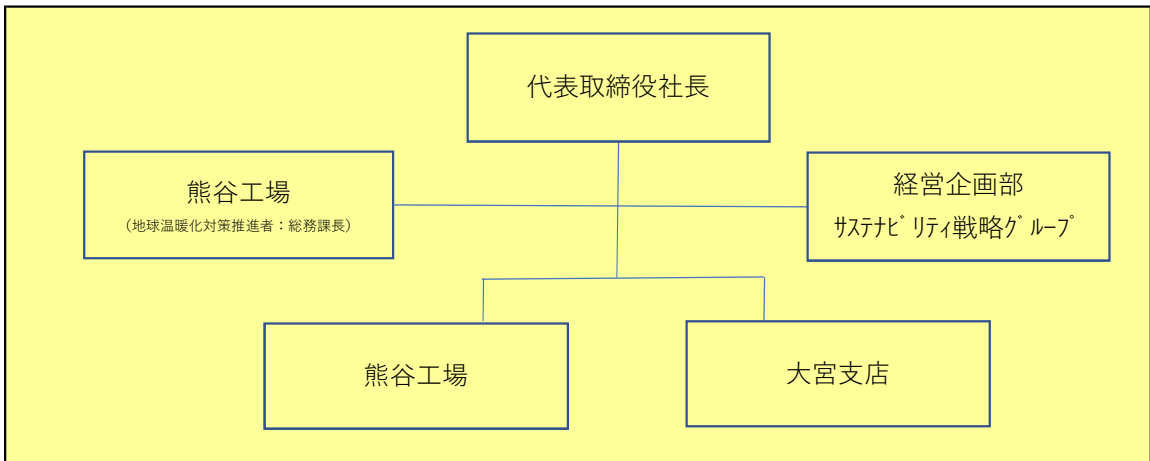
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	経営企画部サステナビリティ戦略G	03-4326-8959	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

アルビオンは、化粧品製造業として、また社会の一員として、環境課題に向き合い、美しい自然や安全な生活環境の保全に努めています。  
 製品を生み出す工場では、国際規格ISO14001に準拠した仕組みを構築。エネルギーの効果的な使用、廃棄物の削減、緑化保全の推進を通して、積極的に、継続的に環境への取り組みを行っています。  
 また、化粧品GMP（Good Manufacturing Practices＝化粧品の製造管理および品質管理に関する技術指針：ISO22716）に従った衛生的な構造設備を整え、指針に則した管理を実施しています。化粧品原料の採用についても、産地の発展と自然保護はもちろん、将来を担う子供たちへの教育支援を行うなど、未来へと続く取り組みに力を注いでいます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	5,940	6,364			
その他ガス					
温室効果ガスの計	5,940	6,364			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり



令和 4 年度

事業者番号	0619	事業所番号	061900
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	株式会社アルピオン 大宮支店	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市大宮区宮町	
	字・地番	1-38-1 KDX大宮ビル4階	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	オフィス		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	23	t-CO2	基準となる原単位	t-CO2/m <sup>2</sup>
	令和2年度の排出量(23t-CO2)を基準として、令和6年までに5%削減を目標とします。					
その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO2	基準となる原単位	
その他ガス						

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	株式会社アルビオン 大宮支店	さいたま市大宮区宮町1-38-1 KDX大宮ビル4階
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

### 3 事業所の温室効果ガス排出量

#### (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	12	13			

#### (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	23	23	25			
前年度比 (%)		—	8.7			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		0.0	-8.7			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		23	25			

#### (3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.0374	0.0407			
前年度比 (%)		—	8.7			
基準となる原単位に対する削減率 (%)						
活動規模の指標	単位					
床面積	m <sup>2</sup>	614.65	614.65			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	コロナ禍における在宅勤務が解消傾向にあり、オフィスでの勤務時間が増えたことが要因と考えられる。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月毎のエネルギー使用量を把握している	R1以前	R1以前	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>

令和 4 年度

事業者番号	0619	事業所番号	061901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社アルビオン 熊谷工場		
事業所所在地	市区町村	熊谷市船木台	
	字・地番	4-1-1	
産業分類名 (中分類)	16 化学工業		
分類番号 (中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	高級化粧品の製造 スキンケア・メイクアップ・フレグランス・ヘアケア など化粧品全般の開発、製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年度の排出量(5,917t-CO <sub>2</sub> )を基準として、毎年1%削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)			t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量 (計画期間合計)			t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,985	3,214			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	5,917	6,339			
前年度比 (%)	—	7.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	5,917	6,339			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2562	0.2936			
前年度比 (%)	—	14.6			
活動規模の指標単 生産数量	千個	23,093.00	21,590.00		



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	2020年8月に新たに第一生産棟を増築。それに伴い設備も増加しました。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	増加要因：R2年8月に増築した第一生産棟は実質稼働は8か月間であったが、R3年は通期稼働したためエネルギー使用量が増加した					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	地球温暖化対策推進体制を定めた	R3	R3	
2	110200	一般管理事項	11_主要設備等の保全管理	主要設備の保全管理は年間計画に基づき実施している	R1以前	R1以前	
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月毎のエネルギー使用量を集計把握し、前年比・前月比で増減が大きい場合は、理由を確認している。	R1以前	R1以前	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

サステナビリティの考え方は以下のホームページで公表しています。

<https://rashisa.albion.co.jp/sustainability/>

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	ムサン油脂株式会社		
所在地	東京都中央区日本橋本石町4-5-12		
事業者番号	0620		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,018	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	設立：昭和46年8月31日 事業内容：植物油の粗原油生産	
	区分	企業	
	前年度	資本金	40 百万円
	前年度	従業員数	24 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	062001	ムサシ油脂株式会社	2,018
合 計			2,018

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	事務所棟通路掲示板
		所在地 1	日高市原宿808-1
		閲覧可能時間 1	月～金 8時～16時(土日祝を除)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部	042-989-5151	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

企業活動から生じる環境への影響を認識し、地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に努める。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙1を別添する

## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,747	5,085			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,747	5,085			

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0620	事業所番号	062001
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	ムサシ油脂株式会社		
事業所所在地	市区町村	日高市原宿	
	字・地番	808-1	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	植物油粗原油の生産 従業員: 24名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年度実績4,747 t-CO <sub>2</sub> を基準として毎年2%削減することを目標とする。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,889	2,018			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,747	5,085			
前年度比 (%)	—	7.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,747	5,085			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0840	0.0882			
前年度比 (%)	—	5.0			
活動規模の指標単位					
原料(米糠)処理量	56,512.00	57,628.00			
t/年					



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	原料処理量の増加による工場稼働日数の増加					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	原料処理量の増加による工場稼働日数の増加及び、ボイラー用燃料に混焼させている「粗脂肪酸」の入荷減少により、重油の使用量が増加する。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	4,747	5,085				9,832
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

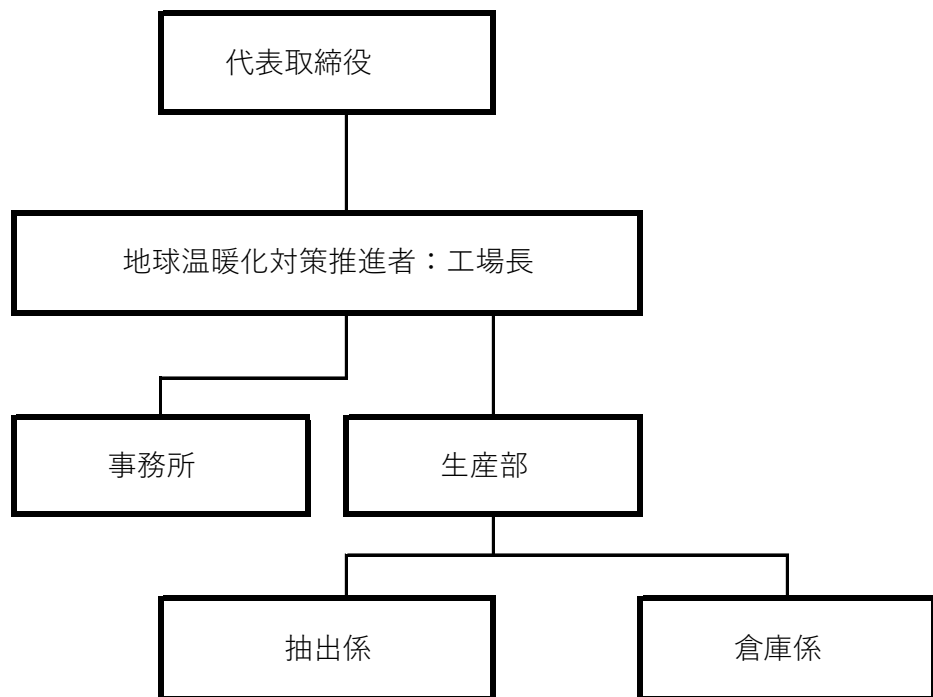
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	生産工程全体の管理を保全計画書により進める (エネルギーロス含む) 【毎年度継続実施項目】		R3	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	日報・月報によりエネルギーの使用量を把握し、排出量抑制検討協議【毎年度継続実施項目】		R3	
3	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	年1回、ボイラーメーカーによる空気比の調整を行う 【毎年度継続実施項目】		R3	
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	毎週、操業前に煙管掃除・バーナーチップの交換を行う 【毎年度継続実施項目】		R3	
5	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	スチームトラップの保全管理 【毎年度継続実施項目】		R3	
6	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンをボイラー給水に利用 【毎年度継続実施項目】		R3	
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷却塔のファンをインバーター制御にする		R1以前	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

別紙1 地球温暖化対策における事業者の推進体制



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	東京センチュリー株式会社			
所在地	東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフトビル			
事業者番号	0621			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	4,046	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	70 物品賃貸業			
分類番号 (中分類)	70			
事業活動の 概要	事業内容	国内リース事業、国内オート事業、スペシャルティ事業 、国際事業ほか		
	区分	企業		
	前年度	資本金	81,129	百万円
		従業員数	919	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	062101	東京センチュリー株式会社 DPL坂戸	4,046
合 計			4,046

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	大和ハウスプロパティマネジメント株式会社	03-5214-2540	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

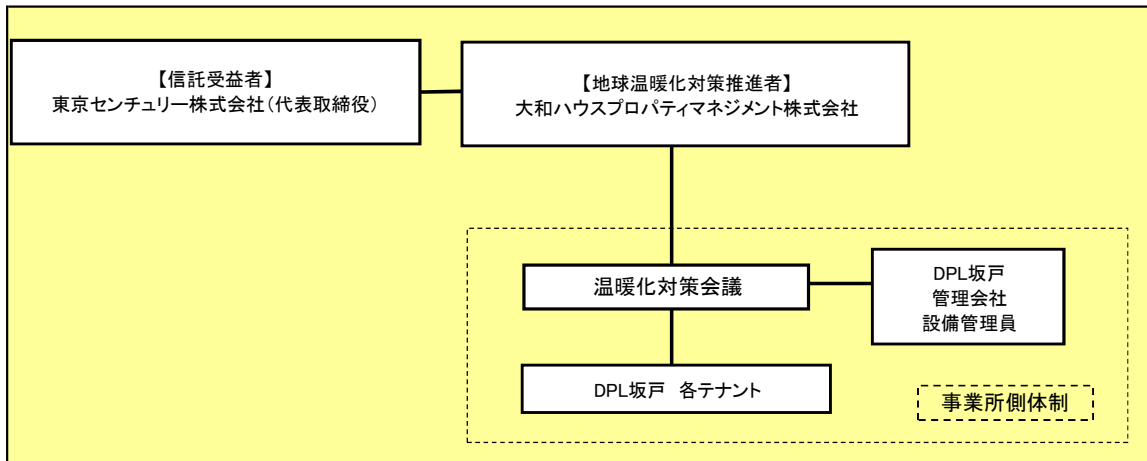
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

東京センチュリーグループは、環境問題への取り組みが重要な経営課題のひとつであると認識し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、事業活動のあらゆる分野において、環境汚染の予防、温室効果ガスの排出削減、気候変動の緩和・適応、生物多様性および生態系の保全など環境問題に配慮し行動することで、持続可能な循環型経済社会および脱炭素社会の実現に貢献します。

【環境基本方針】

1. 事業を通じた地球環境保全
2. 循環型経済社会の実現への貢献
3. 省資源・省エネルギー活動の推進
4. 法令等の順守
5. 継続的改善への取り組み
6. 情報開示

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,196	8,000			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,196	8,000			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり



令和 4 年度

事業者番号	0621	事業所番号	062101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	東京センチュリー株式会社 D P L 坂戸		
事業所所在地	市区町村	坂戸市	
	字・地番	埼玉県坂戸市西インター一丁目2-1, 2-2, 2-3	
産業分類名 (中分類)	47 倉庫業		
分類番号 (中分類)	47		
事業活動の概要	事業内容	2020年3月竣工 ・物流倉庫 ・EC、卸売事業	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	令和2年3月竣工の新しい物流倉庫です。令和2年度においては、期中に本格的な稼働となったため、令和3年度の排出量は増加する見込みとなります。令和5年度からC事業所になる見込みとなるため、令和5,6年の2ヵ年度は基準排出量から8%の削減を目標とします。				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第4計画期間は、基準排出量(R7～8は8%、R9～11は15%)に対し削減計画期間の平均削減率を12.2%以上とします。				
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,124	4,046			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,196	8,000			
前年度比 (%)	—	90.7			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	4,196	8,000			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0235	0.0448			
前年度比 (%)	—	90.7			
活動規模の指標単位					
床面積	m <sup>2</sup>	178,711.33	178,711.33		

（4）エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	無		無		無	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年12月頃から本格的に稼働した物件のため、2021年度のCO<sub>2</sub>排出量は前年度比で約90.7%となり大幅に増加</li> <li>・外気温度の変動による空調設備の負荷変動</li> </ul>					
令和4年度 (2022年度)						
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	エネルギー管理の体制構築を図る	R3	R3	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量把握に努める	R3	R3	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

東京センチュリー株式会社の環境基本方針をウェブサイトで公表しております。  
「東京センチュリー株式会社トップページ」→「サステナビリティへの取り組み」→「環境のために」  
→「環境基本方針」  
<https://www.tokyocentury.co.jp/jp/csr/environment/policy.html>

令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	三光アルミ株式会社		
所在地	埼玉県鴻巣市赤城台362-24		
事業者番号	0622		
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	2,201	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号 (中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。 アルミ箔加工品、各種フィルム材料の加工販売。 主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数：72名(2022年3月31日現在) 資本金：1億円(令和4年3月31日現在) 延べ床面積：5,566.77㎡	
	区分	企業	
	前年度	資本金	100
	従業員数	75	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量（kL）
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	062201	三光アルミ株式会社 本社・工場	2,201
合 計			2,201

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可、書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	本社 応接室
		所在地 1	埼玉県鴻巣市赤城台364-24
		閲覧可能時間 1	月～金 9時～17時（土、日、祝日を除く）
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

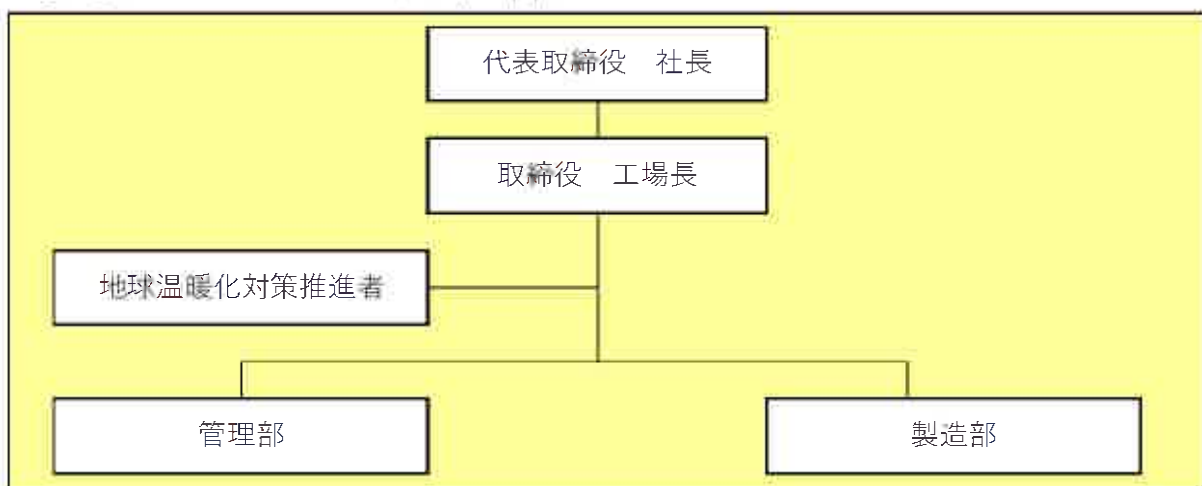
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	本社 総務課	048-568-2131	sanko_soumu@sankoalumi.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

地球環境の負荷を減らす工場作りを推進し社会に貢献する

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,390	4,707			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,390	4,707			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり



令和 4 年度

事業者番号

0622

事業所番号

062201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	三光アルミ株式会社 本社・工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	赤城台362-24	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。主に医薬のPTP包材の印刷を行い、また、フィルム印刷、産業資材印刷も行っている。 従業員数：75名(2022年3月31日現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	21,710	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	3,245	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,049	2,201			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,390	4,707			
前年度比 (%)	—	7.2			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,390	4,707			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0368	0.0355			
前年度比 (%)	—	-3.4			
活動規模の指標	単位				
生産量	千M	119,415.00	132,499.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産ラインの増加により、CO <sub>2</sub> 排出量が増加したと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	LED照明設備への切替等実施しているが、生産量が増加したため、CO <sub>2</sub> 排出量が増加したと考えられる。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,991	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,991	4,991	4,991	4,991	4,991	24,955
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						21,710
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						3,245
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,390	4,707				9,097
	削減率 (F = (A - E) / A)	12.04%	5.69%				—
	排出削減量 (G = A - E)	601	284				885
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明設備への切替	R3	R3	
2	310500		一般管理事 項	31_生産工程のエネ ルギー管理	エネルギー計測機器の整備、主要設備 の効率・負荷の計測・記録	R3	R3	
3	310100		一般管理事 項	31_推進体制の整備	削減目標・実行計画の設定・進行管理	R3	R3	
4	490100		その他	49_排出量取引	削減目標未達成の場合は排出量取引制 度を活用する	R7以降		
5	490200		その他	49_その他の削減対 策	電力会社のグリーンベーシックプラン を活用していく	R4		
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section title.

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 広濟堂ネクスト			
所在地	東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館13階			
事業者番号	0623			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,725	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	15 印刷・同関連業			
分類番号 (中分類)	15			
事業活動の 概要	事業内容	■事業内容： ・情報ソリューション事業「印刷出版事業」		
	区分	企業		
	前年度	資本金	350	百万円
		従業員数	422	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	041301	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場	1,725
合 計			1,725

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場
		所在地 1	埼玉県さいたま市桜区町谷1-4-1
		閲覧可能時間 1	10:00~15:00 (月曜日~金曜日)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産管理部 生産管理課	048-861-8111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

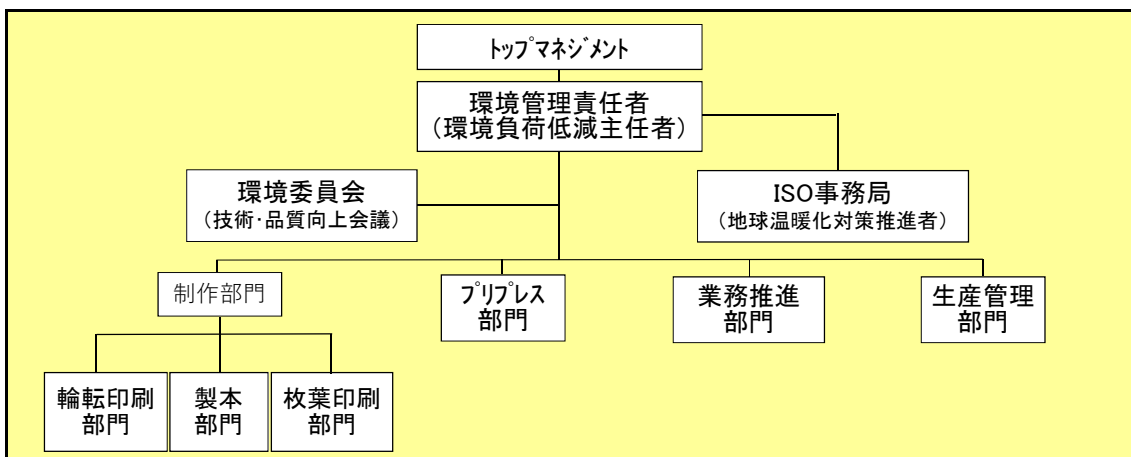


2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

株式会社広済堂ネクスト さいたま工場（事業所に記載）  
 地球環境を健全な状態で次世代に継承することが重要な責務であることを認識し、以下の活動につき継続的改善を推進します。

- (1) 環境保全活動を推進するため、自らの責任で環境目的・目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善を図ります。
- (2) 環境関連の法規制を順守し、環境汚染の予防に努めます。
- (3) 地球温暖化防止・省エネルギー・省資源の推進、有害物質の使用量削減により、地球環境保全に努めます。
- (4) 廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）及び汚染物質の排出削減により、環境負荷の低減に努めます。
- (5) 環境調和型製品・技術の開発に努めるとともに、グリーン調達・グリーン購入を推進します。
- (6) お客様の情報を守るとともに、環境情報の開示により、社会とのコミュニケーションに努め、地域の環境活動に積極的に貢献します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,316	3,413			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,316	3,413			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0623	事業所番号	041301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社広済堂ネクスト さいたま工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区	
	字・地番	町谷一丁目4番1号	
産業分類名(中分類)	15 印刷・同関連業		
分類番号(中分類)	15		
事業活動の概要	事業内容	主な製品 商業印刷物、出版印刷物及び官公庁関係印刷物の製版、刷版、印刷、製本、配送及び営業 敷地面積 11,204㎡(第1~3工場合計)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、令和2~6年度の平均削減率を20%以上削減します。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	30,876	t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)	7,720	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,183	1,725			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,316	3,413			
前年度比 (%)	—	-20.9			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,316	3,413			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量原単位	2.3559	2.1398			
前年度比 (%)	—	-9.2			
活動規模の指標単単位					
生産金額 百万円/年	1,832.00	1,594.98			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<p>設備の増減として、仕事量の減少により近年稼働率の低下していた輪転印刷機3台、中綴製本機2台、枚葉印刷機1台の撤去を行いました。また、新型コロナウイルスの影響により仕事の受注件数が減り、生産量が低下したことも要因の一つとして挙げられます。上記の理由により、2020年度は2019年度と比較して排出量が低下したと判断いたします。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>2021年度は基準排出量の6%以上に相当するような設備の増減はなく、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響等による生産量低下が主な要因となり排出量が低下したと判断いたします。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	8,432	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1	2年度	-792
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	8,036	7,640	7,640	7,640	7,640	38,596
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						30,876
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						7,720
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,316	3,413				7,729
	削減率 (F = (A - E) / A)	46.29%	55.33%				—
	排出削減量 (G = A - E)	3,720	4,227				7,947
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	中間期の外気温度を利用したチラー自動切換システムの導入	R1以前	R1以前	130
2	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (AY-11) 主モーターED化更新	R1以前	R1以前	33
3	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯及び蛍光灯のLED化	R1以前	R1以前	103
4	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (BY-1、AY-11、BT-12) 乾燥排気ファンインバータ化	R1以前	R1以前	44
5	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	印刷機 (BY-1、AY-11、BT-12) 脱臭温度の適正化	R1以前	R1以前	30
6	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	新棟1階 輪転印刷空調機省エネ改造	R1以前	R1以前	54
7	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	準備時間中の脱臭装置OFF	R1以前	R1以前	67
8	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第2工場B1F空調機省エネ改造	R1以前	R1以前	20
9	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	屋根に遮熱塗装を施し、室内温度を下げ、空調機使用頻度を減らす。	R1以前	R1以前	100
10	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第3工場屋上空冷チラー更新	R1以前	R1以前	35
11	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	水銀灯及び蛍光灯のLED化	R1以前	R1以前	61
12	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	第3工場ボイラ夜間停止	R1以前	R1以前	12
13	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	第1工場旧棟空調機更新	R2	R2	157
14	370700		電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	枚葉8号機油性化改造	R2	R2	34
15	360700		ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	第1工場新棟コンプレッサーの更新	R4		35.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text input, occupying most of the page below the header and section title.

令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名		エナジーウィズ株式会社	
所在地		東京都千代田区神田練堀町3 (AKSビル)	
事業者番号		0624	
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)		11,475	kL/年
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡
産業分類名 (中分類)		29 電気機械器具製造業	
分類番号 (中分類)		29	
事業活動の概要	事業内容	蓄電デバイスの製造及び販売並びにこれらに関するシステム・サービス事業	
	区分	企業	
	前年度	資本金	1,000 百万円
	前年度	従業員数	995 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量（kL）
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	041801	エナジーウィズ株式会社 埼玉事業所	11,475
合 計			11,475

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可、書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	エナジーウィズ㈱埼玉事業所内
		所在地 1	埼玉県深谷市岡 2 2 0 0
		閲覧可能時間 1	8:00～16:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	環境安全管理センタ	048-546-1100	
2			
3			

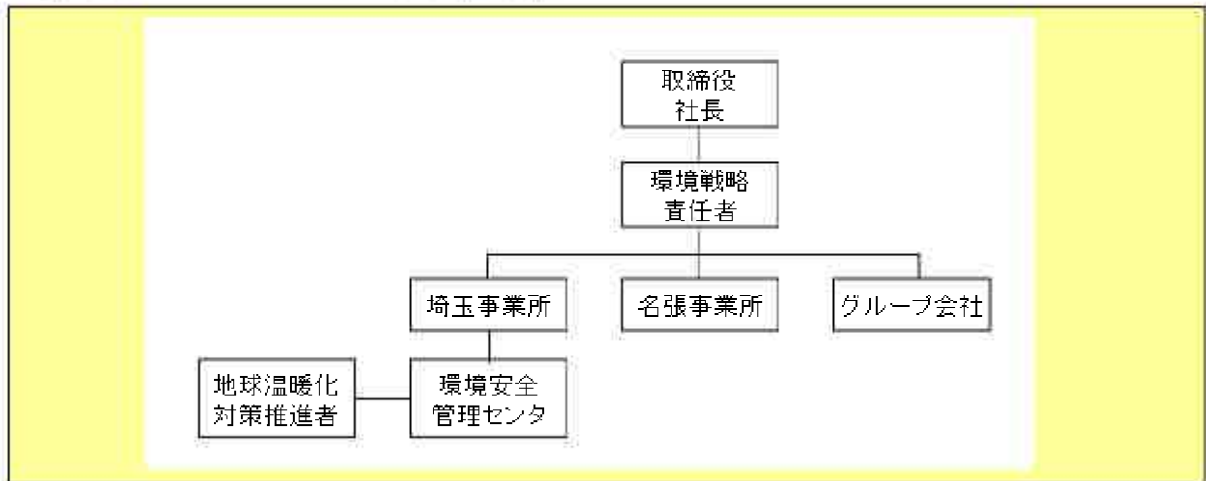
※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

**【環境マネジメント基本方針】**  
 エナジーウィズは、環境を経営の重要課題の一つと位置付け、環境保全行動指針の下にステークホルダーと連携し、環境マネジメントを推進しています。地球環境と調和した持続可能な社会を実現するため、事業活動、製品、サービスを通じた環境負荷低減および気候変動などに代表される環境課題の解決を、グループ一体となってグローバルに推進していきます。

**【埼玉サイト環境方針】**  
 『人に快適で自然に優しい環境づくりを推進し、  
 美しい地球を未来へつなげよう！』

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	22,316	23,180			
その他ガス					
温室効果ガスの計	22,316	23,180			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号

0624

事業所番号

041801

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	エナジーウィズ株式会社 埼玉事業所		
事業所所在地	市区町村	深谷市	
	字・地番	岡2200番地	
産業分類名(中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号(中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	主な商品 自動車用鉛蓄電池 電源システム機器 カートシステム(ゴルフカート) 蓄電システム、産業リチウムイオン電池 従業員数 516名(2022年6月現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	(第3計画期間) 基準排出量(29,126t-CO <sub>2</sub> )に対し平均削減率を20%以上とする。目標に達しない場合は排出量取引を活用する。 (中期目標) 二酸化炭素排出量の完成高原単位を、平成22年度実績(1.176 CO <sub>2</sub> -t/MY)を基準として、令和6年度末までに78% (0.916 CO <sub>2</sub> -t/MY)に低減する。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	116,504	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	29,126	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	11,045	11,475			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	22,316	23,180			
前年度比 (%)	—	3.9			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	22,316	23,180			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.9015	0.8386			
前年度比 (%)	—	-7.0			
活動規模の指標	単				
売上高	百万円/年	24,753.40	27,641.50		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>設備等の増減はない。            新型コロナウイルス感染症の影響により生産の変動がありCO<sub>2</sub>が減少、固定費エネルギー消費量の回収が不足、及び売上高が減少したため原単位が悪化した。</p>						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
<p>設備等の増減はない。            新型コロナウイルス感染症の影響による減産が解消され、物量が増加したためCO<sub>2</sub>が増加しているが、固定費エネルギー消費量の回収増、小さな省エネ効果もあり原単位が改善されている。</p>						
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	29,126	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	29,126	29,126	29,126	29,126	29,126	145,630
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						116,504
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						29,126
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	22,316	23,180				45,496
	削減率 (F = (A - E) / A)	23.38%	20.41%				—
	排出削減量 (G = A - E)	6,810	5,946				12,756
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	乾燥炉をバーナー直火方式から熱風循環式に変更	R1以前	R1以前	
2	350600		受変電設備、配電設備 35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	充電工程の充電器更新（高効率・大容量充電器の導入）	R1以前	R1以前	
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	省エネバーナー採用	R1以前	R1以前	14.0
4	110400		一般管理事項 11_エネルギー使用量の管理	電力監視モニタの導入	R1以前	R1以前	8.0
5	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明LED化	R1以前	R1以前	30.0
6	490100		その他 49_排出量取引	目標未達成の場合は排出量取引を活用する。	R1以前	R1以前	
7	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明の拡充(継続)	R2	R2	
8	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアコン(R22使用)の更新(2022年)	R4		3.0
9	370700		電動応用設備、電気加熱設備等 37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率整流器の導入(2023年)	R5		20.0
10	490200		その他 49_その他の削減対策	太陽光発電の導入検討	R6		10.0
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section information.



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	河西工業ジャパン株式会社			
所在地	神奈川県高座郡寒川町宮山3316			
事業者番号	0625			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	989	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	31 輸送用機械器具製造業			
分類番号 (中分類)	31			
事業活動の 概要	事業内容	自動車内装製造業 従業員数：106人（河西工業ジャパン(株) 寄居工場）埼玉県 資本金（全社）90百万		
	区分	企業		
	前年度	資本金	90	百万円
		従業員数	1,125	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	005102	河西工業ジャパン株式会社 寄居工場	989
合 計			989

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 事務所2階
		所在地 1 埼玉県大里郡寄居町大字赤浜158番地
		閲覧可能時間 1 土、日、工場休日を除く 9:00~16:30
		閲覧場所 2
		所在地 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	寄居工場 技術課	048-582-3355	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

[1]環境目的・目標を定め、環境パフォーマンス向上に努めていきます。

[2]環境負荷を継続的に改善し、環境汚染の予防を推進していきます

**【重点活動項目】**

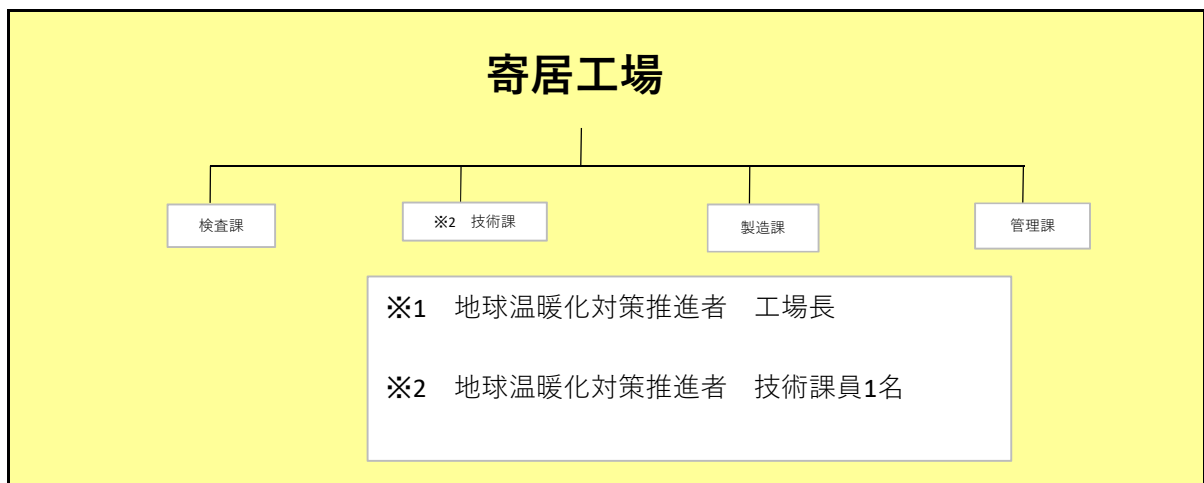
①早く・安く・低エネルギーで『人と環境にやさしいモノ作り』に取り組みます。

②『もったいない活動』を推進し、すべてのムダを排除します。

③『省エネ活動』を推進し、CO2排出削減に努めます。

[3]環境関連法規・条例・顧客の環境要求事項を遵守します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,104	1,951			
その他ガス					
温室効果ガスの計	2,104	1,951			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0625	事業所番号	005102
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	河西工業ジャパン株式会社 寄居工場		
事業所所在地	市区町村	大里郡寄居町	
	字・地番	大字赤浜158番地	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	自動車内装製造業 従業員112人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、令和2年度~令和4年度は6%以上、令和5年度、令和6年度は13%以上の削減率とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	17,765	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	1,715	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,067	989			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	2,104	1,951			
前 年 度 比 ( % )	—	-7.3			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,104	1,951			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.5115	0.5283			
前 年 度 比 ( % )	—	3.3			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
出荷額	百万円/年	4,113.00	3,692.90		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	-26.8%減の要因としては、COVID19、半導体工場火災の影響で生産台数が当初計画より大幅に減少したことが要因となっている。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	引き続きCOVID 19 半導体工場火災の影響で生産台数が減少した為。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	3,896	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,896	3,896	3,896	3,896	3,896	19,480
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						17,765
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						1,715
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	2,104	1,951				4,055
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	46.00%	49.92%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	1,792	1,945				3,737
各年度の排出量の検証		実施済	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

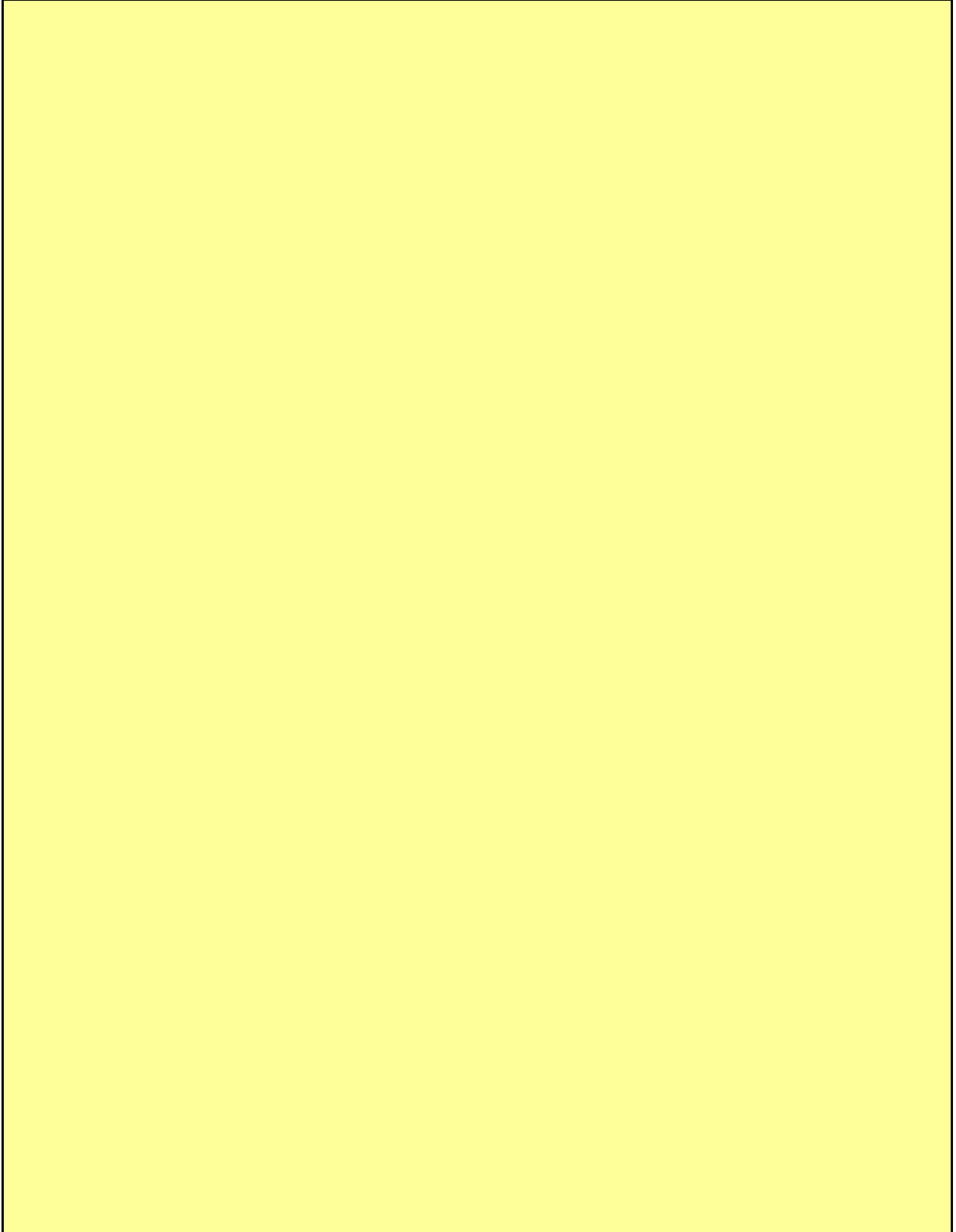
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	350600		受変電設備、 配電設備 35_抵抗等による電気の 損失の防止に関する 措置	電力デマンド監視装置の更新など見える 化を実施予定 (時期不明)			
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	Ⅰ類 A事業所のみを有する特定事業者 Ⅱ類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 Ⅳ類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	UBE三菱セメント株式会社			
所在地	東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 飯野ビルディング			
事業者番号	0626			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	80,420		kl/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)			㎡	
産業分類名 (中分類)	21 窯業・土石製品製造業			
分類番号 (中分類)	21			
事業活動の概要	事業内容	①セメント、生コンクリート事業 ②石灰石資源事業 ③環境エネルギー関連事業（電力・環境リサイクル等） ④建材事業その他関連事業等		
	区分	企業		
	前年度	資本金	50,250	百万円
		従業員数	2,462	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量（kL）
A、Bテナント等事業所			
A	062600	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	47
B、C事業所			
C	028601	UBE三菱セメント株式会社 横瀬工場	80,373
合 計			80,420

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	UBE三菱セメント株式会社 横瀬工場 総務課
		所在地 1	埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬2270番地
		閲覧可能時間 1	9:00～16:30（土・日・祝日除く）
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	横瀬工場 総務課	0494-23-1111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境指針

脱炭素への挑戦

化石エネルギーの利用を最小限にするとともに、イノベーションにより困難な技術課題を克服し、脱炭素社会の実現を目指します。

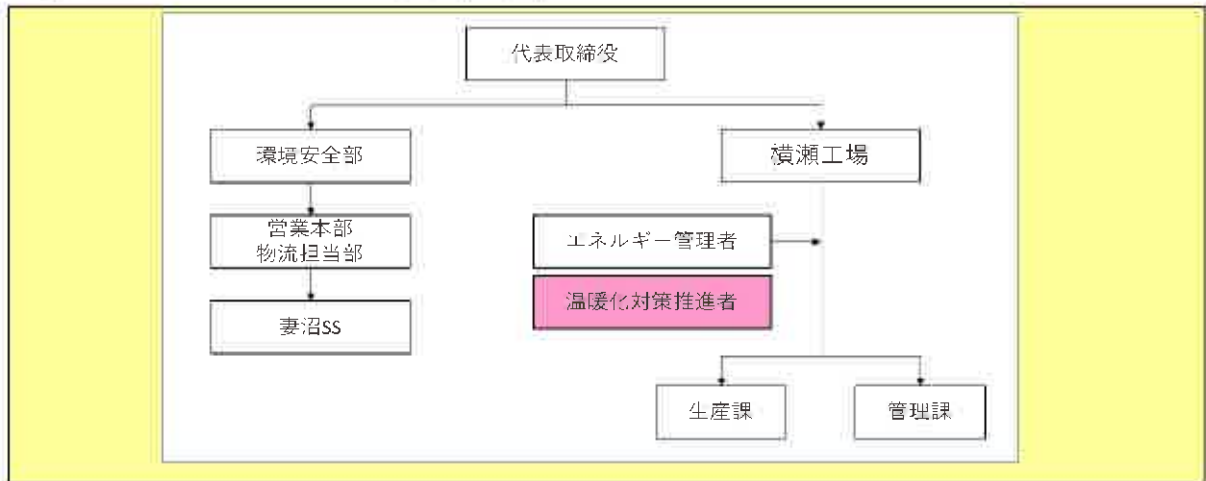
循環型社会への貢献

廃棄物利用技術を高度化し、多様な廃棄物を受け入れるとともに、天然資源を大切に持続可能な生産活動を行い、循環型社会の構築に貢献します。

地球環境保全への取り組み

環境に配慮した製品や技術の開発、鉱山の緑化や森林保全活動による生物多様性の維持、水資源の保護などにより、地球環境保全に貢献します。社員への環境教育・啓蒙を図り、一人ひとりが環境保全活動に積極的に取り組みます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	247,739	248,893			
その他ガス	399,751	395,163			
温室効果ガスの計	647,490	644,056			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 **4** 年度

事業者番号	0626	事業所番号	062600
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
-------	--------------------------------------

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	熊谷市	
	字・地番	弥藤吾1188	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	53 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業		
分類番号(中分類)	53		
事業活動の概要	セメント卸売業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	4	年度	～	6	年度		
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量	99	t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	0.3238	t-CO <sub>2</sub> /千t
	令和元年度の原単位(0.3238t-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> )を基準として、原単位を毎年1%ずつ改善する。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	UBE三菱セメント株式会社 妻沼サービスステーション	熊谷市弥藤吾1188
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
		47			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

 CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	99		100			
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)			-1.0			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計			100			

 (3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

 CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3238		0.3702			
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)			-14.3			
活動規模の指標	単位		270.14			
出荷量	千t					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	下記理由により、CO <sub>2</sub> 排出量原単位が前年比5.9%増加した。 【妻沼SS】出荷量の低下によりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出原単位が前年度比で5.9%増加した。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	



## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

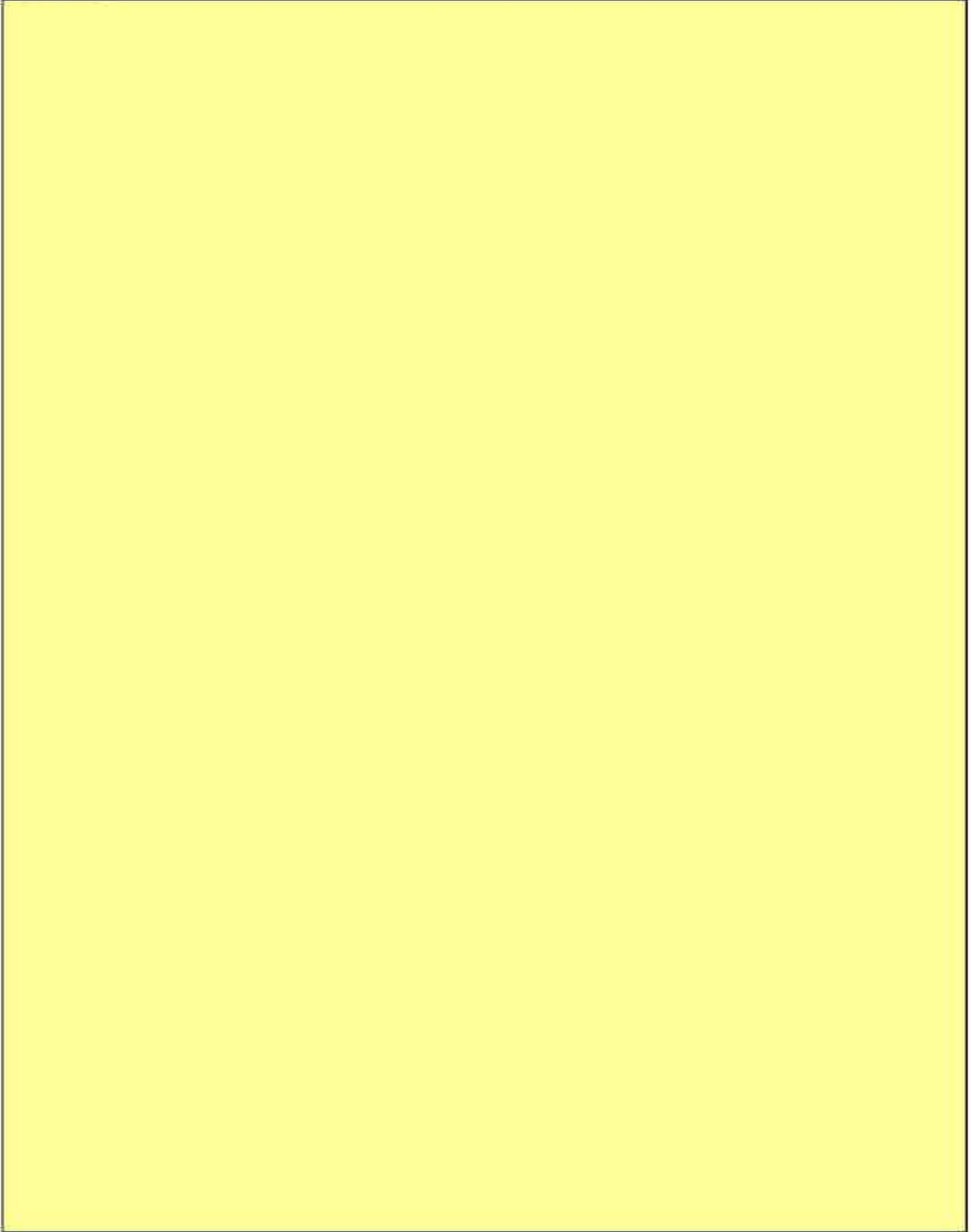
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブローヤ、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率コンプレッサーへの更新	R4		0.1
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率照明ランプ、灯具への更新	R4		0.1
3	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	回転数制御が可能な機器へのINVの導入	R4		0.1
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0626	事業所番号	028601
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	UBE三菱セメント株式会社 横瀬工場		
事業所所在地	市区町村	秩父郡横瀬町	
	字・地番	大字横瀬2270番地	
産業分類名(中分類)	21 窯業・土石製品製造業		
分類番号(中分類)	21		
事業活動の概要	事業内容	事業内容:セメント及びセメント系固化材、セメント高性能製品の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量289,376t-CO <sub>2</sub> /年に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス	その他ガス排出量は、セメント製造業の特徴であるプロセス起源CO <sub>2</sub> 、及び廃棄物処理量に応じて排出されるCO <sub>2</sub> で構成されており、その数量は弊事業所ではユーザーニーズに応じ増減する。この為その目標量設定は困難であるが、エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量削減を主眼とした廃棄物処理による操業努力を前提とし、総温室効果ガス排出量(エネルギー起源CO <sub>2</sub> +その他ガス)を近年及び今後の生産計画を踏まえ上限900,000t未満と設定致したい。				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	1,157,792	t-CO <sub>2</sub>	第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	289,448	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	80,530	80,373			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	247,739	248,793			
前 年 度 比 ( % )	—	0.4			
そ の 他 ガ ス					
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	398,408	393,849			
メ タ ン	805	793			
一 酸 化 二 窒 素	524	516			
ハイドロフルオロカーボン	10	4			
パーフルオロカーボン	3				
六 ぶ っ 化 い お う	1	1			
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	647,490	643,956			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3162	0.3167			
前 年 度 比 ( % )	—	0.2			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
セメント生産量	t/年	783,395.00	785,476.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

年度	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	<p>床面積の増減：業者団地新設に伴い、業者団地事務所棟、業者団地作業棟、業者団地トイレを新設し、旧業者団地トイレを撤去した。</p> <p>設備増減：脱塩設備の増設工事が完了。なお基準排出量の6%(=17,363t-CO<sub>2</sub>/年)には該当しない</p> <p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量（前年度比）の減少要因としては、セメント生産量が2019年度：849,296tから2020年度：783,395tへ減少したこと、熱エネルギー代替である再生油の使用量が増加したことにより、前年度と比較し石炭・コークスの使用量が減少したことが挙げられる。</p>					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量（前年度比）が微増した要因として、廃プラ等の熱量代替となる産業廃棄物処理に欠かせない脱塩設備の老朽化に伴う、熱量代替の使用量低下が挙げられる。昨年度(R2)に脱塩設備の増設工事が完了したので、今後は産廃の処理能力向上が見込まれる。</p> <p>また、セメント生産量は微増であるが、汚泥処理量・汚泥原単位がともに過去最高記録(98,265t/年)となったこともあり、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に至らなかった。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	289,376	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	289,376	289,376	289,376	289,376	289,736	1,447,240
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						1,157,792
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						289,448
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	247,739	248,793				496,532
	削減率 (F = (A - E) / A)	14.39%	14.02%				—
	排出削減量 (G = A - E)	41,637	40,583				82,220
各年度の排出量の検証		実施済	実施済				

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実 施 予 定 年 度	実 施 した 年 度	推 計 削 減 量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.1 AQC-IDFインバータ化		R1以前	315.0
2	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.2 K-IDFインバータ更新		R1以前	29.0
3	490200	その他	49_その他の削減対策	No.1AQCロールクラッシャー設置		R1以前	10.0
4	490200	その他	49_その他の削減対策	燃料代替資源処理設備拡大		R1以前	3,686.0
5	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	スプレータワーIDFインバータ化		R1以前	102.0
6	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	No.1AQC5室ファン停止		R1以前	54.0
7	490200	その他	49_その他の削減対策	再生油タンク増設		R1以前	17,879.0
8	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率バーナーの導入		R7以降	3,614.0
9	490200	その他	49_その他の削減対策	フッ化カルシウム汚泥乾燥粉碎設備導入		R7以降	3,509.0
10	490100	その他	49_排出量取引	削減目標を達成できない場合は、排出量取引を活用する。		R7以降	
11	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率クーラーの導入		R7以降	4,252.0
12							
13							
14							
15							



5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section title.



令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社 日立ハイテク		
所在地	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号		
事業者番号	0627		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,717	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号 (中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	設計、製造、販売ならびに保守サービス ①社会インフラ事業 ②産業インフラ事業	
	区分	企業	
	前年度	資本金	7,938 百万円
		従業員数	377 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所 種別	事業所 番号	事業所名	前年度の原油換算 エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	016302	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト	1,717
合 計			1,717

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合 は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト
		所在地 1	児玉郡上里町嘉美1600番地
		閲覧可能 時間 1	9:00~11:30、13:30~16:30 (休業日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能 時間 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

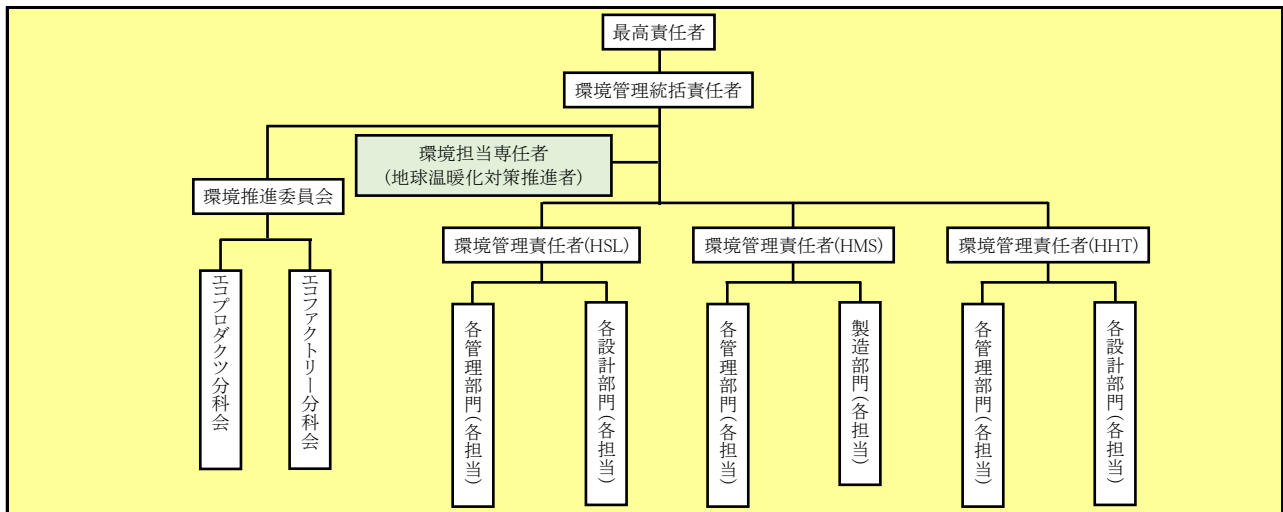
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産技術部	090-1539-6656	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

《日立ハイテク 埼玉地区 環境方針》  
 日立ハイテク 埼玉地区（日立ハイテク 埼玉サイト、日立ハイテクソリューションズ 埼玉事業所、日立ハイテクマニファクチャ&サービス 第十事業所）は、ソリューション事業を中核として高効率なモノづくりと試作開発の迅速化による製品化を通して、最先端技術の絶え間ない追求と法令の順守、環境汚染の予防を行い、社会的責任を果たすとともに「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け、積極的に取り組めます。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,059	24			
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,059	24			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0627	事業所番号	016302
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 日立ハイテク 埼玉サイト		
事業所所在地	市区町村	児玉郡上里町	
	字・地番	嘉美1600番地	
産業分類名 (中分類)	29 電気機械器具製造業		
分類番号 (中分類)	29		
事業活動の概要	事業内容	設計、製造、販売ならびに保守サービス ①社会インフラ事業 ②産業インフラ事業	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	グリーン電力およびカーボンクレジットの購入継続により、温室効果ガス排出量の実質ゼロを推進する。				
	その他ガス	-				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分		
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,549	1,717			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,059	24			
前年度比（%）	—	-99.2			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計	3,059	24			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前年度比（%）	—				
活動規模の指標単位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

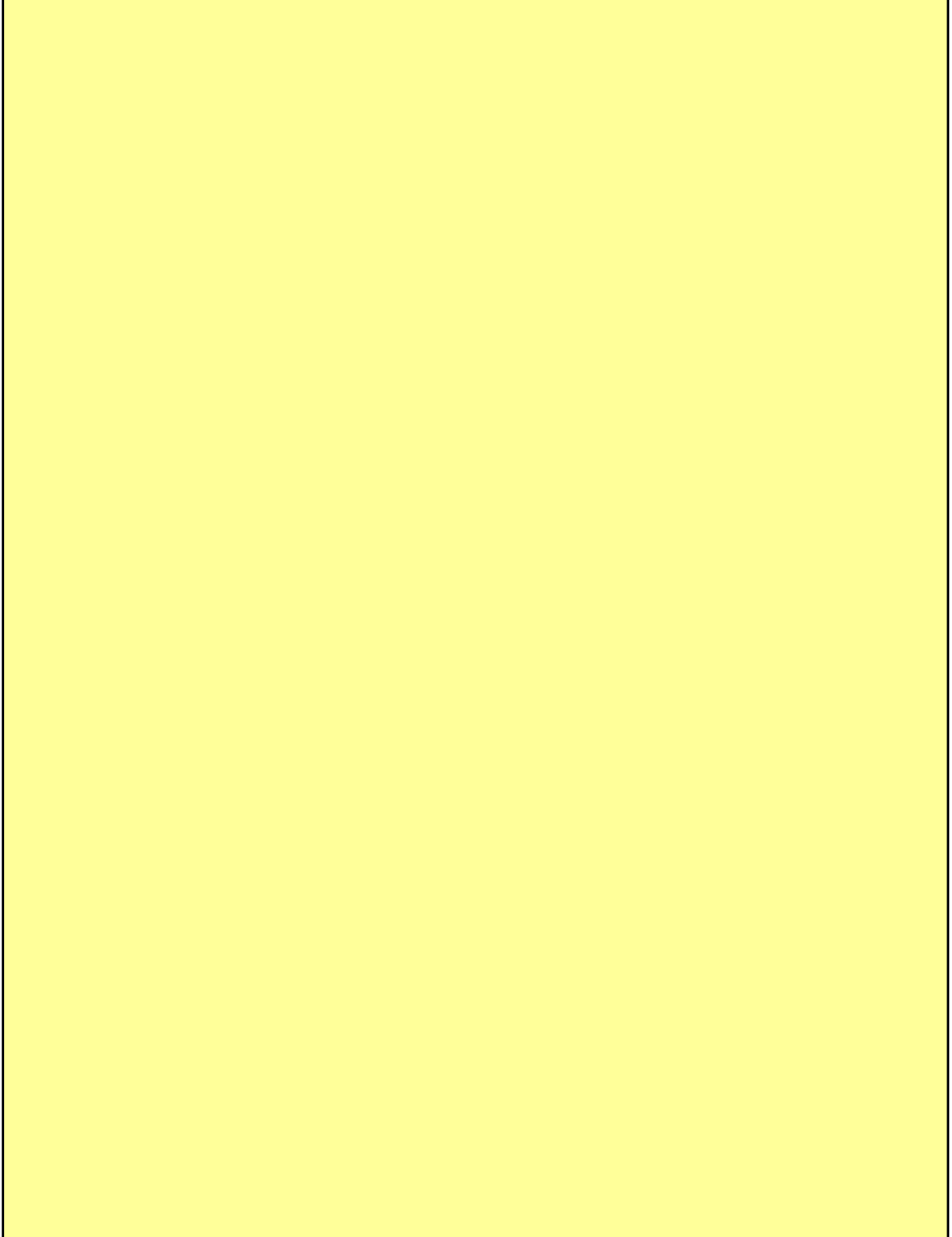
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の安全管理	ポンプ類老朽化設備更新	R4		77.7
2	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調遠隔監視システム導入	R4		32.1
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調適正制御	R4		120.9
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率空調更新	R5		103.8
5	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	エアーコンプレッサ更新	R5		16.9
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	株式会社栄喜堂		
所在地	埼玉県入間郡三芳町大字北永井265番地1		
事業者番号	0628		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,103	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	パン洋菓子製造	
	区分	企業	
	前年度	資本金	0.05 百万円
		従業員数	230 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	048301	株式会社 栄喜堂	2,103
合 計			2,103

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	株式会社栄喜堂 総務課受付
		所在地 1	埼玉県入間郡三芳町北永井265-1
		閲覧可能時間 1	10:15~18:00 (土日祝日を除く)
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	株式会社栄喜堂 総務・人事部	049-258-2119	soumu@eikido.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

省エネへの取組みを通じて、環境への配慮を強化する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

代表取締役---総務部---地球温暖化対策推進者（総務部長）---各担当者

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,104	4,113			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,104	4,113			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0628	事業所番号	048301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社 栄喜堂		
事業所所在地	市区町村	入間郡三芳町	
	字・地番	大字北永井265番地1	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	パン洋菓子の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し令和3年度までは削減率を15%以上、令和4年度以降を20%以上とします。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	26,916	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	5,909	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,098	2,103			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,104	4,113			
前年度比 (%)	—	0.2			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,104	4,113			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.0176	0.0190			
前年度比 (%)	—	7.6			
活動規模の指標	単位				
出荷額	万円/年	232,610.20	216,665.20		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	コロナ禍による売り上げ減が影響したと思われる。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	コロナ禍により、大口取引先との取引が終了し、小口取引が増えたため、生産効率が悪くなった。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量	6,565	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	6,565	6,565	6,565	6,565	6,565	32,825
	目標削減率の 緩和措置	中小企業等	中小企業等				
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	15.00%	15.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						26,916
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						5,909
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,104	4,113				8,217
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )	37.49%	37.35%				—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )	2,461	2,452				4,913
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	燃料転換 (A重油→都市ガス)	R1以前	R1以前	
2	310400		一般管理事項 31_エネルギー使用量の管理	デマンド管理により、電力使用量を削減する	R1以前	R1以前	
3	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	工場の一部と食堂に高効率空調機の導入	R1以前	R1以前	
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	工場のオープン8台を高効率のタイプへ入替	R1以前	R1以前	
5	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R1以前	R1以前	36.0
6	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R1以前	R1以前	96.0
7	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R2	R2	26.0
8	490200	その他	49_その他の削減対策	老朽設備の入替	R3	R3	10.0
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く) III類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	みたけ食品工業株式会社		
所在地	戸田市本町1-5-7		
事業者番号	0629		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,871	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の 概要	事業内容	ごま、上新粉・米粉、きな粉・大豆粉、麦茶、漬材等の製造販売	
	区分	企業	
	前年度	資本金	65 百万円
		従業員数	140 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	062900	みたけ食品工業株式会社 本社	17
B、C事業所			
C	062901	みたけ食品工業株式会社 鴻巣工場	1,854
合 計			1,871

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1	みたけ食品工業株式会社 鴻巣工場
		所在地 1	鴻巣市八幡田690
		閲覧可能時間 1	9:00-17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務部	048-596-3160	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

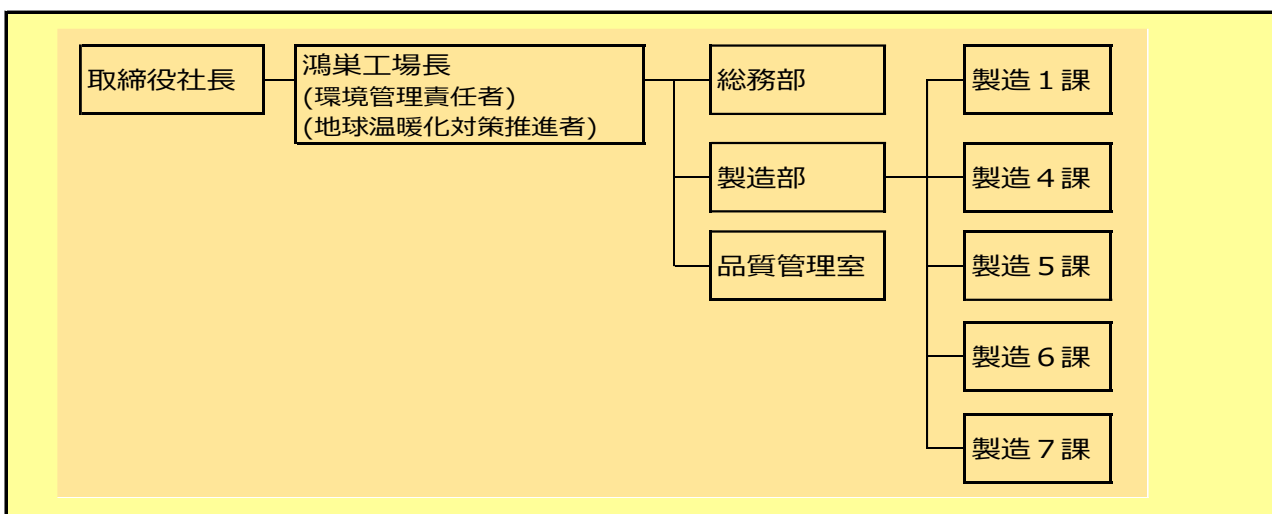
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

みたけ食品工業株式会社 環境方針  
 みたけ食品工業株式会社は、「地球環境の保護」を重要課題のひとつと認識し、企業市民として地域社会との共生を目指し、生産をはじめとした事業活動における環境負荷を低減し、住み良い豊かな環境の保護に努めます。

1. 環境関連の法律・規制・協定等の要求事項を順守し、環境保護、環境負荷低減に向けた取り組みを継続的に展開します。
2. 従業員が当環境方針を理解し行動できるように教育を実施するとともに、環境課題の重要性に関する意識向上を図ります。
3. 原材料・エネルギー等の効率的利用及び廃棄物の減量化と有効利用に努め、資源とエネルギーの節約に努めます。

2022年7月5日 みたけ食品工業株式会社  
 代表取締役社長 八田武治

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,554	3,793			
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,554	3,793			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0629	事業所番号	062900
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	みたけ食品工業株式会社 本社	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	戸田市	
	字・地番	本町1-5-7	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社機能(総務、経理、企画)</li> <li>・営業機能(当社製品の販売)</li> <li>・商品開発機能</li> </ul>		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.6346 t-CO <sub>2</sub> /人
	令和3年度の原単位「0.6346 (t-CO <sub>2</sub> /人)」を基準として、令和6年度までに5%削減する。					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	みたけ食品工業株式会社 本社	戸田市本町1-5-7
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
		17			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			33			
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計			33			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.6346		0.6346			
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)			0.0			
活動規模の指標	単 位					
従業員数	人		52.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	令和3年度からエネルギー使用量の把握を開始したため、前年度との比較ができない。 来年度以降、要因分析を行う予定。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	



4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	書エネ推進体制の明確化	R4		
2	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	不使用時の部屋の消灯	R4		
3	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運 転管理	空調設備の温度管理厳格化	R4		
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

令和 4 年度

事業者番号	0629	事業所番号	062901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	みたけ食品工業株式会社 鴻巣工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	八幡田690	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	ごま、上新粉・米粉、きな粉・大豆粉、麦茶、漬材等の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量から、令和2年度から令和5年度は6%、令和6年度は13%以上の削減とする。(必要に応じて排出量取引を行う)			
	その他ガス	該当しない。			
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	16,334	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	1,306	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,743	1,854			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,554	3,760			
前年度比 (%)	—	5.8			
その他 ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,554	3,760			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.3603	0.3639			
前年度比 (%)	—	1.0			
活動規模の指標					
生産量	t/年	9,864.00	10,332.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	無		無		無	
	高エネルギー消費生産品目（胡麻、上新粉、米粉、きな粉、大豆粉）の生産量が増加しCO2排出量が増加した。CO2排出量原単位と比較しても0.4%増とわずかに増加した。今後、工場での「省エネ活動」を推進していく中で、CO2排出量原単位は着実に低減させるように取り組む必要がある。					
令和4年度 (2022年度)						
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,528	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)	3,528	3,528	3,528	3,528	3,528	17,640	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率 (B)	6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							16,334
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							1,306
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)	3,554	3,760				7,314	
	削減率 (F = (A - E) / A)	-0.74%	-6.58%				-	
	排出削減量 (G = A - E)	-26	-232				-258	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実 施 予 定 年 度	実 施 した 年 度	推 計 削 減 量(t) (1年 度 当 たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	490200	その他	49_その他の削減対策	太陽光発電設備の導入	R4		
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	推進体制の明確化	R4		
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	月次エネルギー使用量モニタリング	R4		
4	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	重要機器の定期メンテナンス実施	R1以前		
5	310500	一般管理事項	31_生産工程のエネルギー管理	未使用設備の停止	R4		
6	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラー運転の効率化	R5		
7	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内設備駆動部Vベルト更新(省エネタイプへの移行)	R5		
8	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場内照明器具のLED化(未実施部分)	R4		
9	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	空気ラインからのエアリーク調査と漏れ箇所の改善	R4		
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 4 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

(1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
<b>III類</b>	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

(2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	築野食品工業株式会社		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町新田94		
事業者番号	0630		
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	1,753	kL/年	
大規模小売店舗面積 <small>(単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)</small>		㎡	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	・米ぬか高度有効利用の企画、研究開発 ・こめ油の製造、販売、研究開発 ・米ぬかを原料とした医薬品原料、化粧品原料、食品添加物の製造、販売、研究開発 ・工業油脂（脂肪酸、脂肪酸エステル、ポリアミド樹脂、ダイマー酸及びダイマー酸誘導体）の製造、販売、研究開発 ・廃食油リサイクル ・食品飼料添加物の製造、販売、研究開発	
	区分	企業	
	前年度	資本金	50
	従業員数	540	人
商標又は商号 <small>(連鎖化事業者のみ)</small>			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063001	築野食品工業株式会社 関東工場	1,753
合計			1,753

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	アドレス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	事務所玄関ホール
		所在地 1	埼玉県本庄市児玉町秋山2166-6
		閲覧可能時間 1	9:00~17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	製造部	0495-73-1455	kantou-f@tsuno.co.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

当社は、「環境に優しい製品が人々の健康と美につながる」という理念に基づき、以下3項目を重要事項として掲げ、環境保全型事業の展開を目指しています。  
 カーボンニュートラル《植物由来原料》  
 築野グループの製品はすべて、米ぬかおよび植物由来のカーボンニュートラルな原料で作られています。  
 当社の事業はCO2の排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献しています。  
 ゼロエミッションへの挑戦《燃料リサイクルシステム》  
 生産工程で発生する産業廃棄物を最大限に活用し、工場の燃料として有効活用しています。  
 油脂リサイクル《工業製品（脂肪酸）》  
 使用済みの食用油や非食用油を石鹼、ペンキ、インクや潤滑油などのオレオケミカル製品の原料として有効利用し、リサイクル事業に貢献しています。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		4,344			
その他ガス					
温室効果ガスの計		4,344			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号

0630

事業所番号

063001

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	築野食品工業株式会社 関東工場		
事業所所在地	市区町村	本庄市	
	字・地番	児玉町秋山2166-6	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	こめ油の製造 従業員数：26名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を6%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			1,753		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>		4,344			
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計		4,344			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		146.0659			
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位					
製品生産量	千t	29.74			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)						
令和4年度 (2022年度)						
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

4	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A - D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)		4,344				4,344
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

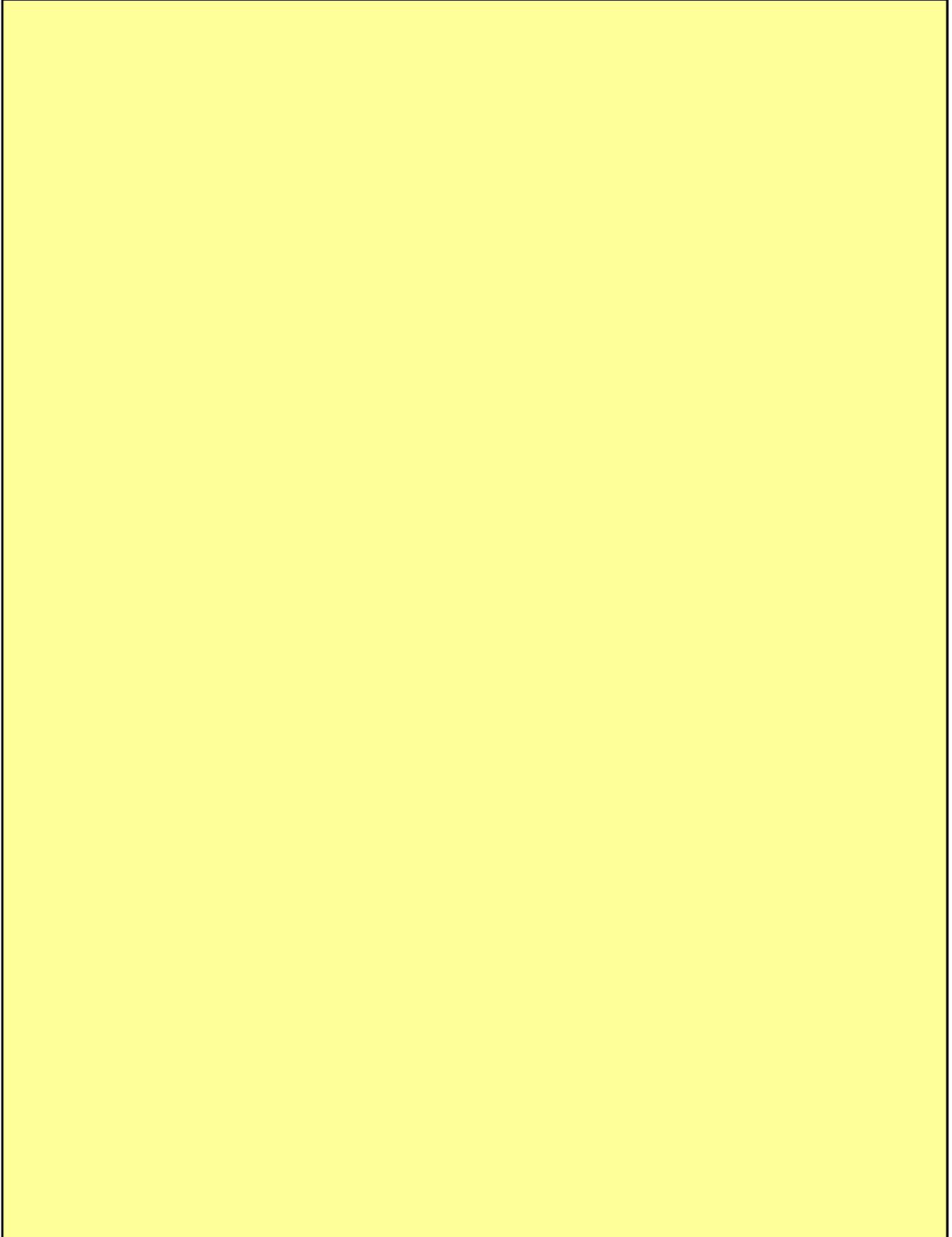
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分				
1	310200	一般管理事項	31_主要設備等の保全管理	保全計画に基づく保守・点検を実施	R1以前	R1以前	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	主要設備の不可等に係る計測・記録をしている	R1以前	R1以前	
3	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	エネルギーの毎月の使用量を把握し月報を作成	R1以前	R1以前	
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	燃焼設備の定期的な保守・点検を実施している	R1以前	R1以前	
5	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	定期的に水質管理を実施	R1以前	R1以前	
6	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	スチームトラップの定期的な点検・清掃・交換を実施	R1以前	R1以前	
7	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	蒸気配管等保温取付による断熱強化	R1以前	R1以前	
8	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンをボイラー給水等に利用	R1以前	R1以前	
9	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷却水の定期的な水質検査の実施	R1以前	R1以前	
10	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサーの更新(効率向上)	R3	R3	
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明の順次LED化実施	R4		
12							
13							
14							
15							

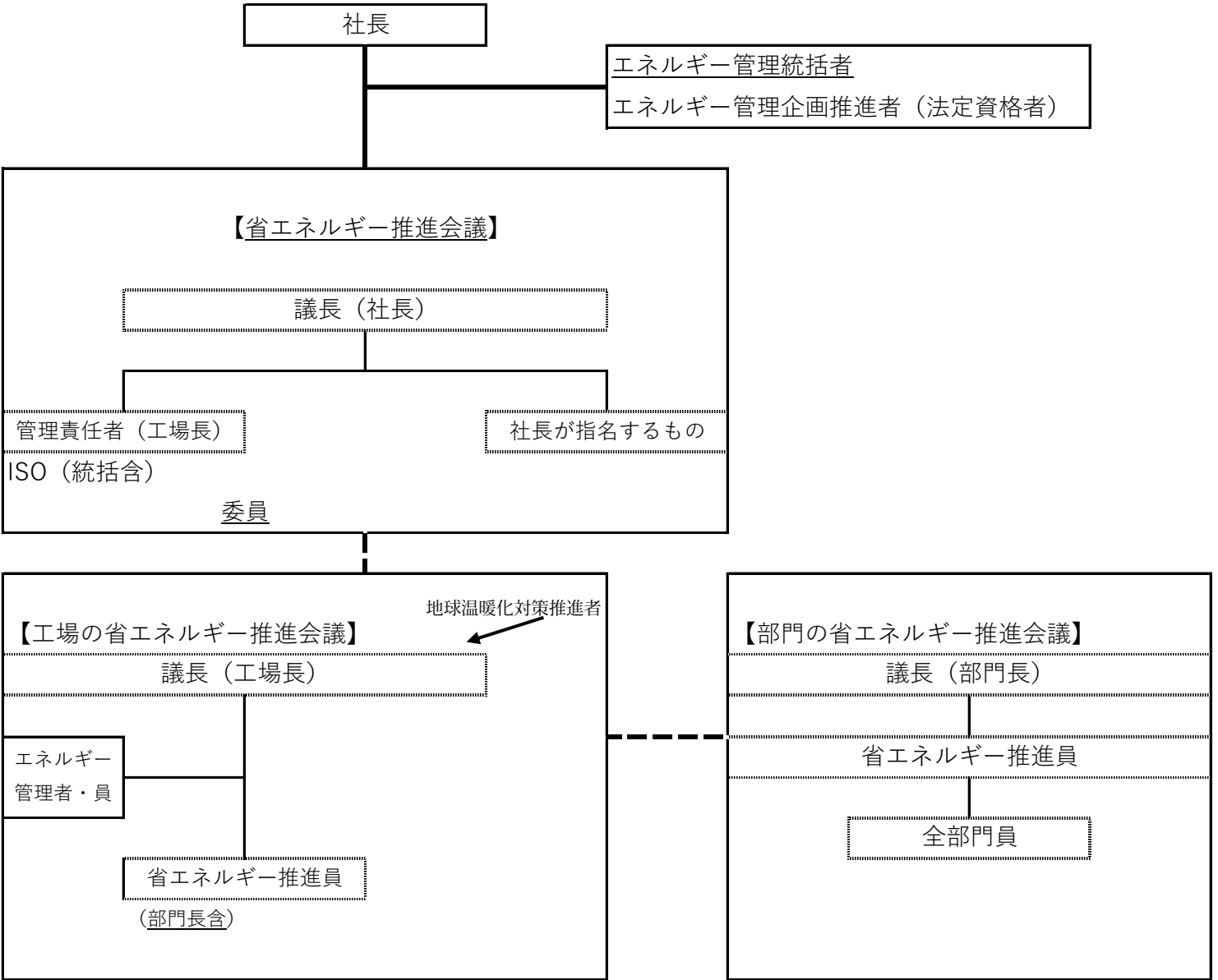


## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄





令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	三芳合金工業株式会社		
所在地	埼玉県入間郡三芳町上富508		
事業者番号	0631		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,496	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号 (中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	特殊銅合金の製造	
	区分	企業	
	前年度	資本金	52 百万円
		従業員数	98 人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063100	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	9
B、C事業所			
B	063101	三芳合金工業株式会社 本社工場	2,487
合 計			2,496

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1 総務課
		所在地 1 埼玉県入間郡三芳町上富508
		閲覧可能時間 1 平日 8:00-17:00
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	総務課	049-258-3381	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

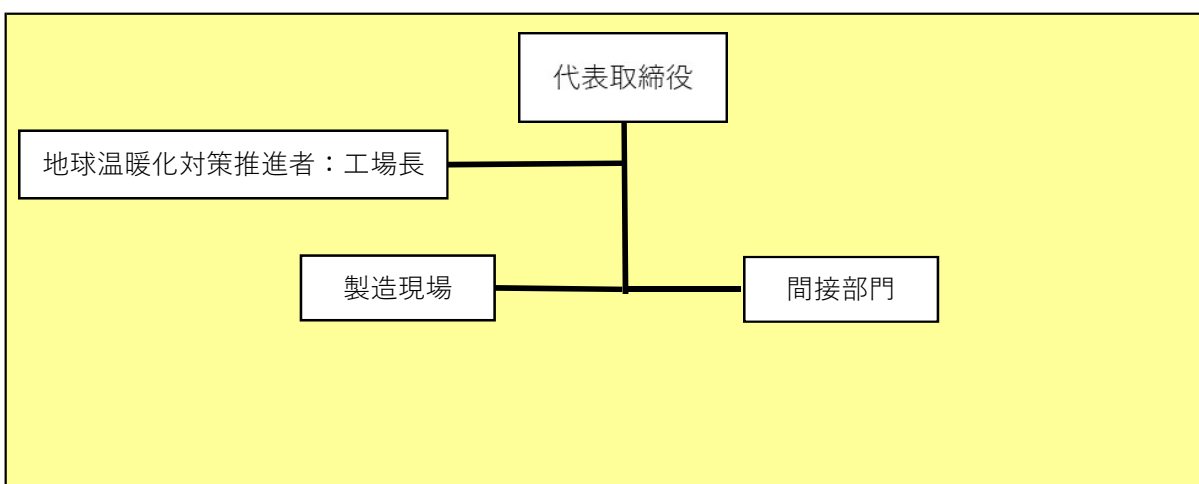
2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

(基本方針)

1. 基本理念  
 三芳合金工業株式会社は、環境問題への取り組みを社会的責務と認識し、人間性豊かな社会の実現に貢献する企業を目指します。

2. 行動指針  
 事業活動の全域で、省資源、省エネルギーの推進に努めます。  
 環境保全に適合した製品の購入及び販売の促進に務めます。  
 環境に関するリスクを認識し、社会全体の環境リスクの低減を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		4,891			
その他ガス					
温室効果ガスの計		4,891			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0631	事業所番号	063100
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	新座市	
	字・地番	畑中2丁目16-7	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	特殊銅合金の製造		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	1,200.0000 t-CO <sub>2</sub> /t
	毎年原単位0.25%ずつ改善					
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	三芳合金工業株式会社 朝霞工場	新座市畑中2丁目16-7
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			9		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			21			
前年度比 (%)		—				
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温室効果ガスの合計			21			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	1,200.0000		0.0434			
前年度比 (%)		—				
基準となる原単位に対する削減率 (%)			100.0			
活動規模の指標	単 位		484.00			
出荷重量	t					



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	インバータ式コンプレッサーへの入れ替えや、増設する熱処理炉は排熱を回収するための熱交換器を付帯させるなど、省エネに資する設備を導入する
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

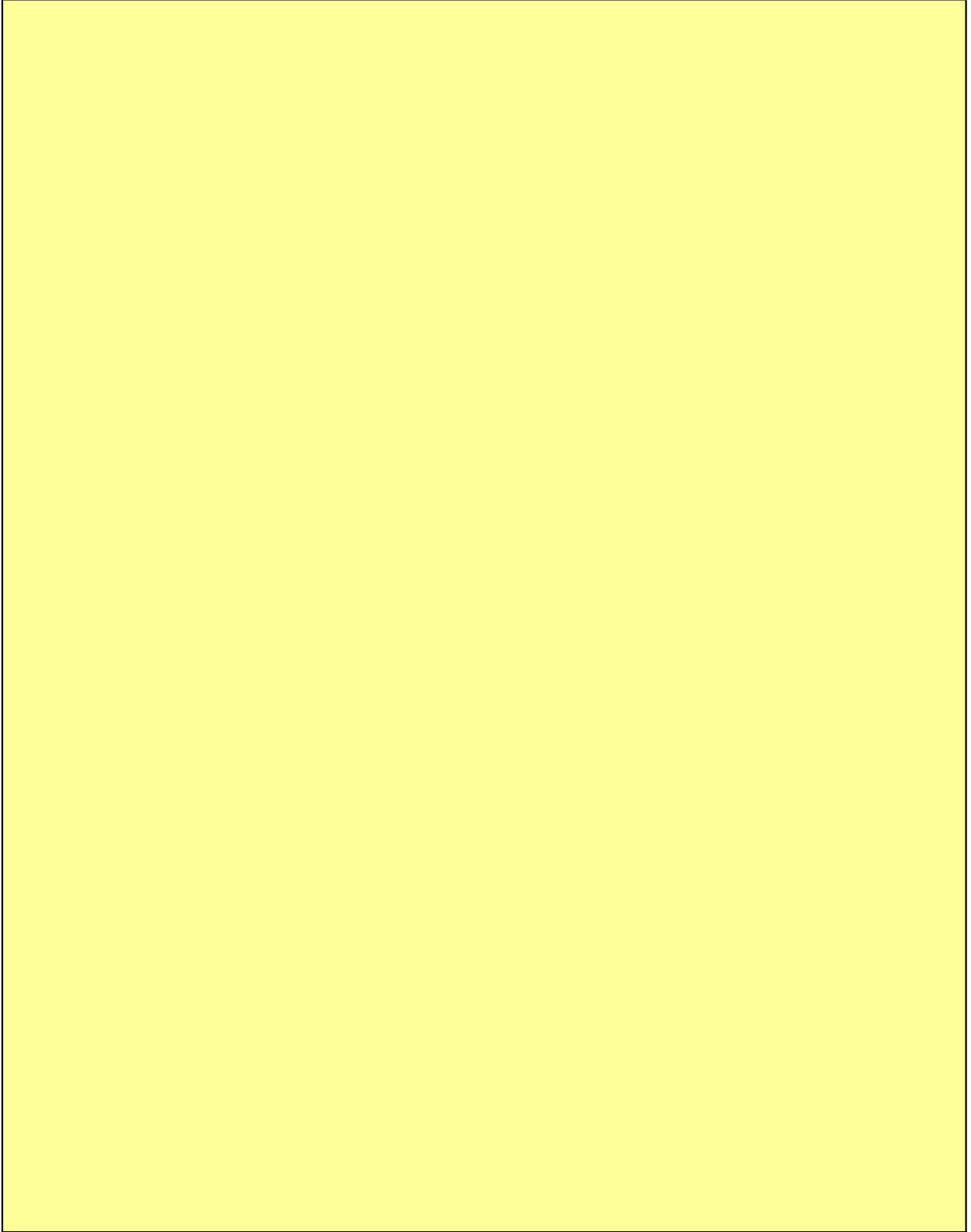
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0631	事業所番号	063101
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	三芳合金工業株式会社 本社工場		
事業所所在地	市区町村	入間郡	
	字・地番	三芳町上富508	
産業分類名 (中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号 (中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	特殊銅合金の製造	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	毎年原単位0.25%ずつ改善				
	その他ガス					
削減目標の概要	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
		削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
			2,487		

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>		4,870			
前年度比（%）	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計		4,870			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>/指標）

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		2.1425			
前年度比（%）	—				
活動規模の指標	単位				
出荷重量	t	2,273.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

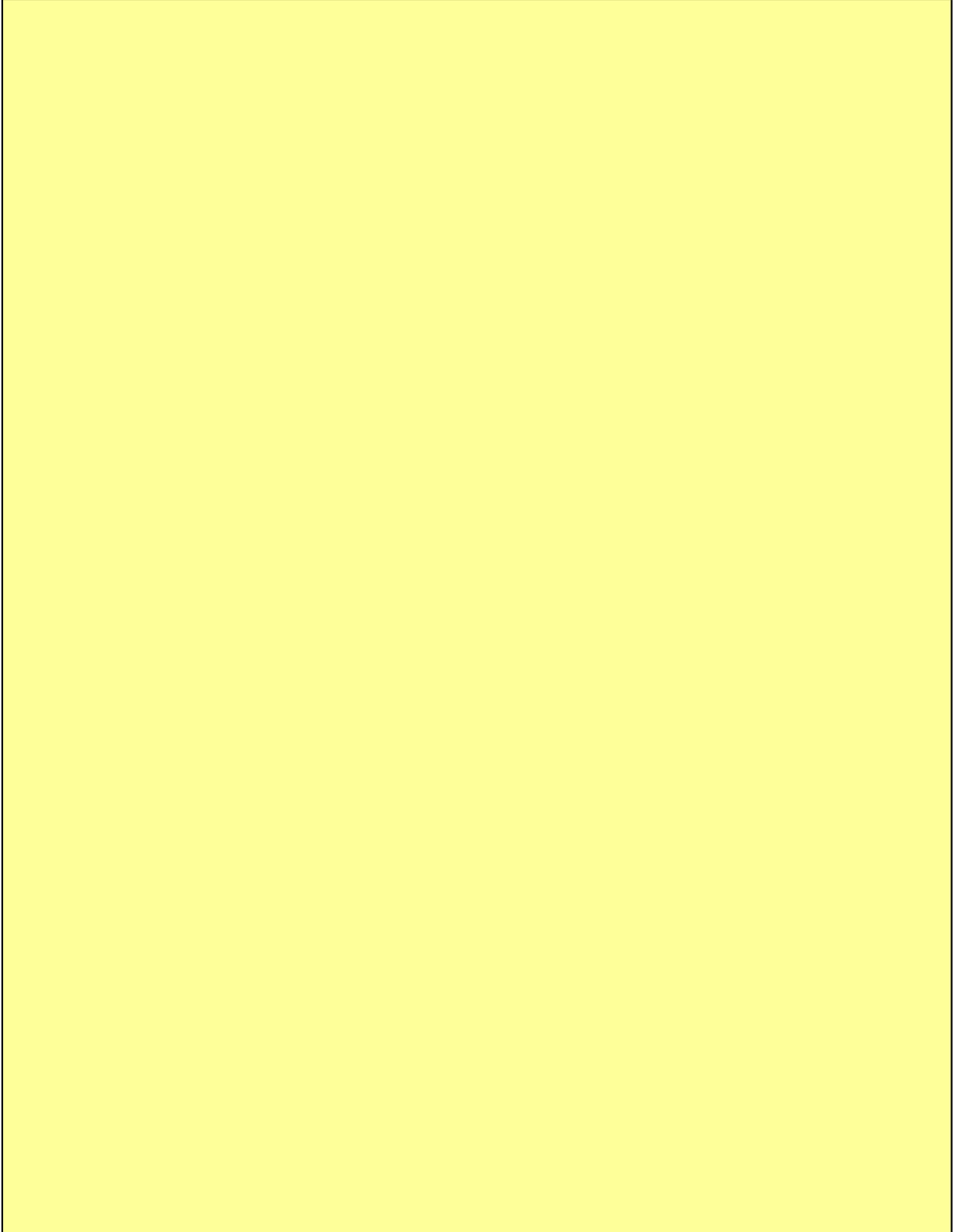
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	月別エネルギー原単位を算出	R3	R3	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄





令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	キューピータマゴ株式会社			
所在地	東京都調布市仙川町二丁目5番地7 仙川キューポート			
事業者番号	0632			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,362	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	350	百万円
		従業員数	2,294	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063200	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	1,258
B、C事業所			
C	063201	キューピータマゴ株式会社 飯能工場	2,104
合 計			3,362

## (4) 公表方法

<input type="radio"/>	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	<a href="https://www.kewpie-egg.co.jp/">https://www.kewpie-egg.co.jp/</a>
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲 覧 場 所 1	
		所 在 地 1	
		閲 覧 可 能 時 間 1	
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
		閲 覧 可 能 時 間 2	
<input type="radio"/>	その他	キューピー株式会社HPにて、グループサスティナビリティ活動内容記載	

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産技術部環境対策課	03-5384-5111	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

キューピーグループサステナビリティ基本方針、キューピーグループ環境基本方針に基づき活動を進めます。

キューピーグループサステナビリティ基本方針

気候変動への対応

原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO2排出量削減をめざします。

キューピーグループ環境基本方針

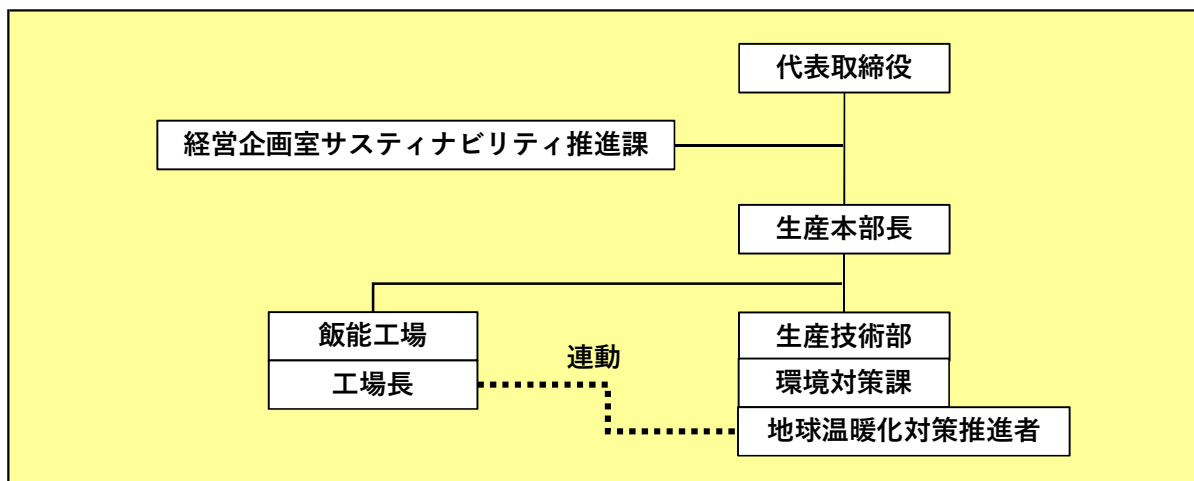
～環境理念～

商品の設計、原料調達から、生産、消費までバリューチェーン全体の活動で、環境への配慮に努めます。

行動指針

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境への影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の順守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,362	6,531			
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,362	6,531			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0632	事業所番号	063200
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	入間郡三芳町	
	字・地番	大字北永井5 1 - 1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	2,461	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	0.2097 t-CO <sub>2</sub> /t
		・CO <sub>2</sub> 排出量：令和3年度排出量(2,461t-CO <sub>2</sub> )を基準として、毎年1%削減。 ・原単位：令和3年度原単位(0.2097t-CO <sub>2</sub> /生産量t)を基準として、毎年1%削減				
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	キューピータマゴ株式会社 三芳工場	入間郡三芳町大字北永井5-1-1
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,206	1,258			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	2,461	2,360	2,461			
前年度比 (%)		—	4.3			
基準となる排出量に対する削減率 (%)		4.1	0.0			
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		2,360	2,461			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.2097	0.2103	0.2097			
前年度比 (%)		—	-0.3			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		-0.3	0.0			
活動規模の指標単	位					
生産量	t	11,223.90	11,737.00			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	
令和3年度 (2021年度)	生産量は前年度対比4.5%増加、これに伴いCO <sub>2</sub> 排出量は前年度対比4.3%増加となった。ピロー商品と呼ばれる小袋で殺菌後に冷凍を実施するエネルギー使用量が多い商品が前年度より710t増加した為、これがエネルギー使用量の増加要因となった。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新	R3	R3	5.8
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	LED照明への更新	R4		
3	490200	その他	49_その他の削減対 策	室外機夏場散水装置	R4		
4	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	スチームトラップ変更	R4		
5	360700	ポンプ、ファ ン、ブロー ー、コンプレ ッサー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	コンプレッサー室給排気改善。室温を下げ て、夏場のコンプレッサー電力負荷の低減を 図る	R5		
6	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラー更新(3台中1台)ボイラー効率改 善	R5		
7	329900	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_ボイラー・工業炉・ 蒸気系統・熱交換器 等に係るその他の削 減対策	ボイラー更新(3台中2台)ボイラー効率改 善	R6		
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

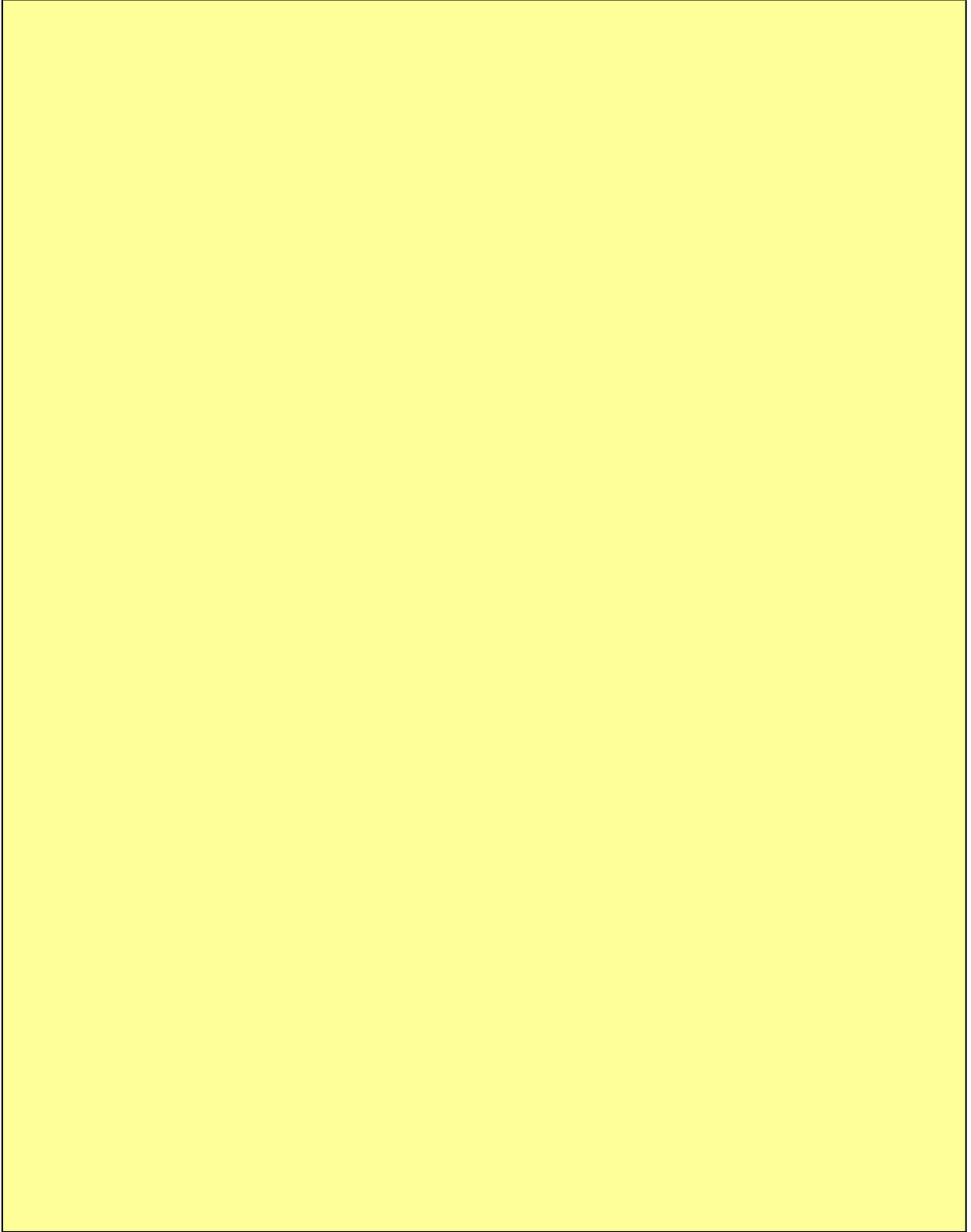


## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0632	事業所番号	063201
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	キューピータマゴ株式会社 飯能工場		
事業所所在地	市区町村	飯能市	
	字・地番	茜台3-4	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	鶏卵その他の各種卵加工品の製造販売 従業員数: 91名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,045	2,104			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	4,002	4,070			
前年度比 (%)	—	1.7			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	4,002	4,070			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1697	0.1689			
前年度比 (%)	—	-0.4			
活動規模の指標	単位				
生産量	t	23,589.20	24,093.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和2年度 (2020年度)						
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	生産量は前年度対比2.1%増加、これに伴いCO <sub>2</sub> 排出量は前年度対比1.6%増加となった。ピロー商品と呼ばれる小袋で殺菌後に冷凍を実施するエネルギー使用量が多い商品が前年度より1,107t増加した為、これがエネルギー使用量の増加要因となった。21年2月に導入した太陽光発電設備が年間を通じて186,816kWh発電出来たため、電気購入量の削減につながった。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

3	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)						
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,002	4,070				8,072
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証							

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	170300		負荷平準化 17_新エネルギー	自家消費型の太陽光発電システム（容量120kW）導入	R3	R3	49.0
2	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	スチームトラップ変更	R4		
3	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ボイラー運転圧力の再度見直し	R4		
4	329900		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	コンプレッサー運転時の吐出圧力の再度見直し	R4		
5	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	LED照明への更新	R4		
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

自家消費型の太陽光発電システム（容量120kW）を令和3年2月下旬に導入。  
令和3年は、197千kWh購入電気を削減することができた、工場使用電気の3.3%に相当します。

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	エスピースパイス工業株式会社			
所在地	東京都文京区後楽2丁目20番16号			
事業者番号	0633			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	1,823	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	設立年月：1961年4月 事業内容：粉体香辛料及び香辛調味料の製造・販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	32	百万円
		従業員数	260	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
B	063301	エスビースパイス工業株式会社 埼玉工場	1,823
合 計			1,823

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
		閲覧可能時間 2
	その他	

## (5) 公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	エスビースパイス工業(株)製造部	048-991-2021	
2			
3			

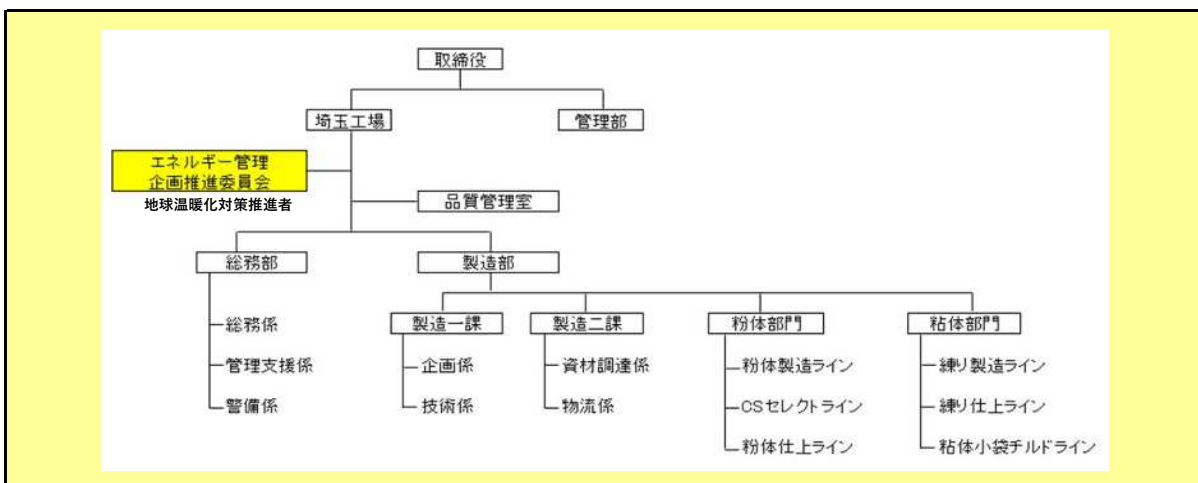
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

## 2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

環境方針  
 「食卓に、自然としあわせを。」という企業理念のもと、エスピー食品グループは、積極的に環境保全に取り組み、豊かな地域・社会づくりに貢献します。

1. 国内外法規制遵守  
 国内外の環境関連の法規制を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、環境保全のさらなる向上を図ります。
2. 環境目的・目標の設定  
 環境目的・目標を設定し、その達成状況を確認するとともに、環境保全活動の継続的改善を図ります。
3. 環境負荷の低減  
 省エネルギー・省資源、廃棄物の減量化・再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
4. 商品開発  
 環境負荷と安全性を十分考慮した商品開発に努めます。
5. 環境教育  
 環境教育により、全社員に環境方針の理解と環境問題に対する意識向上を図ります。
6. 地域との共生  
 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域の環境保全活動に積極的に参加します。

## 3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



## 4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,755	3,678			
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,755	3,678			

## 5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0633	事業所番号	063301
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	B 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL以上の事業所 (種別Cの事業所を除く)
B	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	エスビースパイス工業株式会社 埼玉工場		
事業所所在地	市区町村	北葛飾郡松伏町	
	字・地番	大字築比地1032	
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業		
分類番号 (中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	粉体香辛料及び香辛調味料の製造・販売 従業員数: 260人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量3,755t - CO<sub>2</sub>を基準として、毎年2%削減します。</li> <li>令和5年度からは、C事業者になる見込みであるため、毎年、基準排出量の6%を削減します。</li> </ul>				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
	削減目標量 (計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>			
			事業所区分			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,863	1,823			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,755	3,678			
前年度比 (%)	—	-2.1			
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,755	3,678			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	367.4168	357.4344			
前年度比 (%)	—	-2.7			
活動規模の指標	単位				
生産重量	千ton	10.22	10.29		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
令和2年度 (2020年度)						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の2019年10月に新棟（C棟）が竣工した。これに伴い、エネルギー使用量が増加した。ちなみに、令和元年（2019年度）のエネルギー原油換算値は、1,410KLであった。</li> <li>・ 令和2年度（2020年度）はC棟がフル稼働したことで、エネルギー原油換算値が1,863KL（前年度比132%）と1,500KLを超えた。これにより、特定事業者となった。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、人が密集する部屋のドアを開放し換気している。この対策によりエアコン使用時の負荷が増大している。</li> </ul>					
令和3年度 (2021年度)						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年8月、LPGボイラー4台の更新。（カタログ値で燃焼効率が96%→97%）</li> <li>・ 2021年9月、第二工場内に粉体充填包装設備の導入を終え、生産を開始。</li> <li>・ 2022年1月、第二工場粉体充填包装ラインでⅡ直生産を開始。</li> <li>・ 2022年2月、第二工場ロボットパレタイザエリアの照明設備をセンサ式に変更。（ムダな点灯を無くす）</li> <li>・ 2022年3月、B棟厚生棟男子女子更衣室の照明設備をLED化し、且つ人感センサ式に変更。（ムダな点灯を無くす）</li> </ul>					
令和4年度 (2022年度)						
令和5年度 (2023年度)						
令和6年度 (2024年度)						

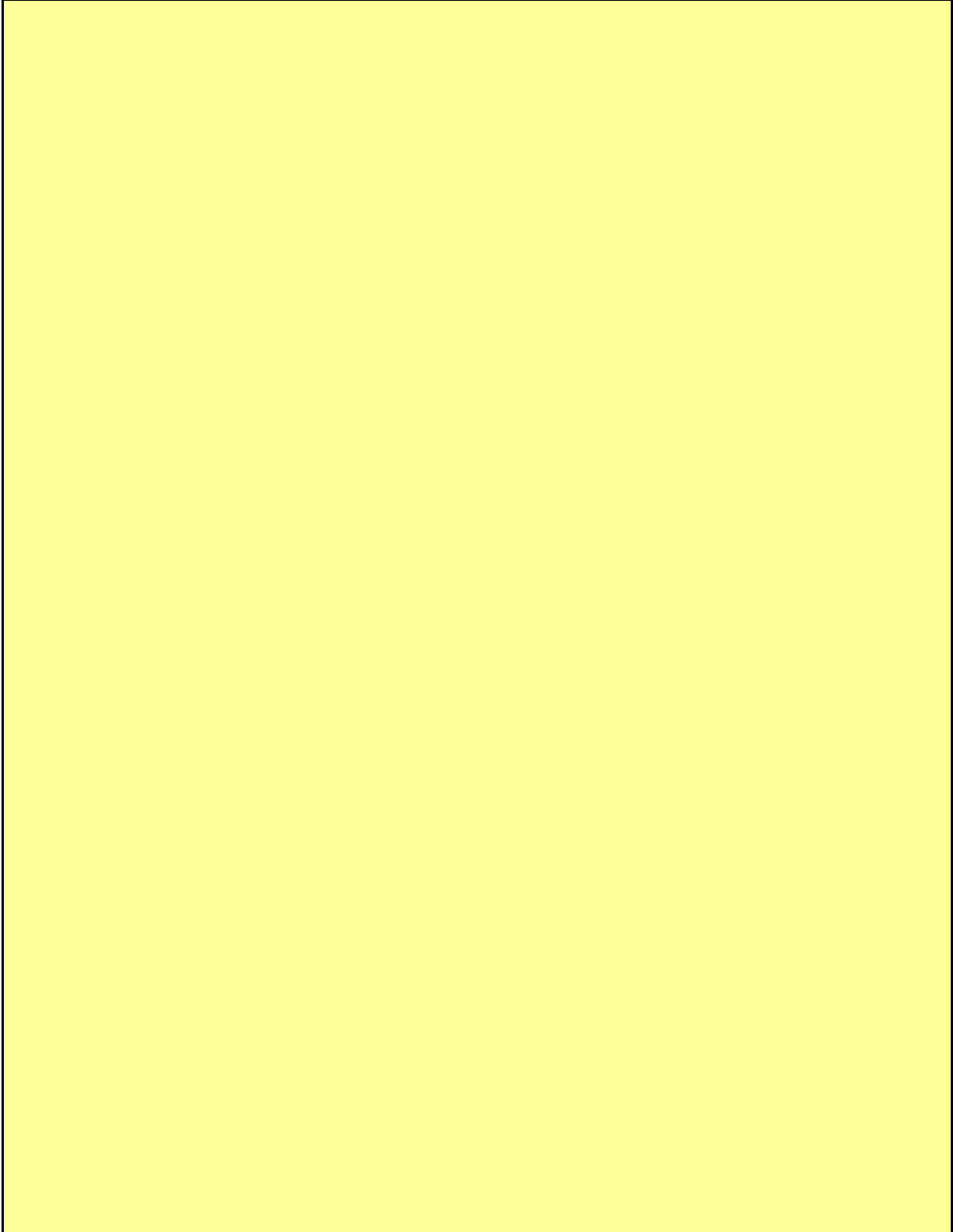
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	310100		一般管理事項 31_推進体制の整備	省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、「省エネ法」に適合した管理体制を構築する	R3	R3	
2	310300		一般管理事項 31_計測及び記録の管理	エネルギー使用量を月ごとに一覧にまとめ管理する	R1以前	R1以前	
3	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	蒸気漏れの迅速な修理により、熱エネルギーの損失を低減する	R1以前	R1以前	
4	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	計画的なボイラーの更新	R3	R3	
5	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機の負荷低減を目的として、外部からの日射熱の遮断やフィルター定期清掃を実施する	R1以前	R1以前	
6	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	各室ごとに適切な設定温度を定め、温湿度計の設置により温度管理を実施する	R1以前	R1以前	
7	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	計画的な空調設備の更新	R4		
8	380700		照明設備 38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	計画的な照明設備の更新	R5		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
Ⅲ類	I類 A事業所のみを有する特定事業者 II類 B事業所を有する特定事業者（Ⅲ類の事業者を除く） Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者 IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	はつかり麵株式会社			
所在地	新潟県三条市大野畑2-72			
事業者番号	0634			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	2,215	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	09 食料品製造業			
分類番号 (中分類)	09			
事業活動の 概要	事業内容	設立年月日：平成23年9月5日 事業内容：めん類製造及び販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	20	百万円
		従業員数	100	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				



（3）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063401	はつかり麵株式会社	2,215
合 計			2,215

（4）公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス
○	事業所での備え置き （複数可。書ききれない場合は別様としてください）	閲覧場所 1
		所在地 1
		閲覧可能時間 1
		閲覧場所 2
		所在地 2
	その他	

（5）公表の担当部署

	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	営業部	049-243-3528	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする（個人が特定できるアドレスは記入しないこと）

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

(基本方針)

1 基本理念  
環境にやさしい工場づくりを目指し、企業の発展かつ社会的責任を果たす。

2 基本方針  
基本理念に基づき、次の環境マネジメント活動を実施する。  
①環境目標を定め、CO2削減に向けた改善活動を推進する。  
②事業活動に関連する法的要求等を遵守する。  
③事業活動による環境負荷を低減し、社会全体の省エネに貢献する。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

別紙（組織図）参照ください。

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

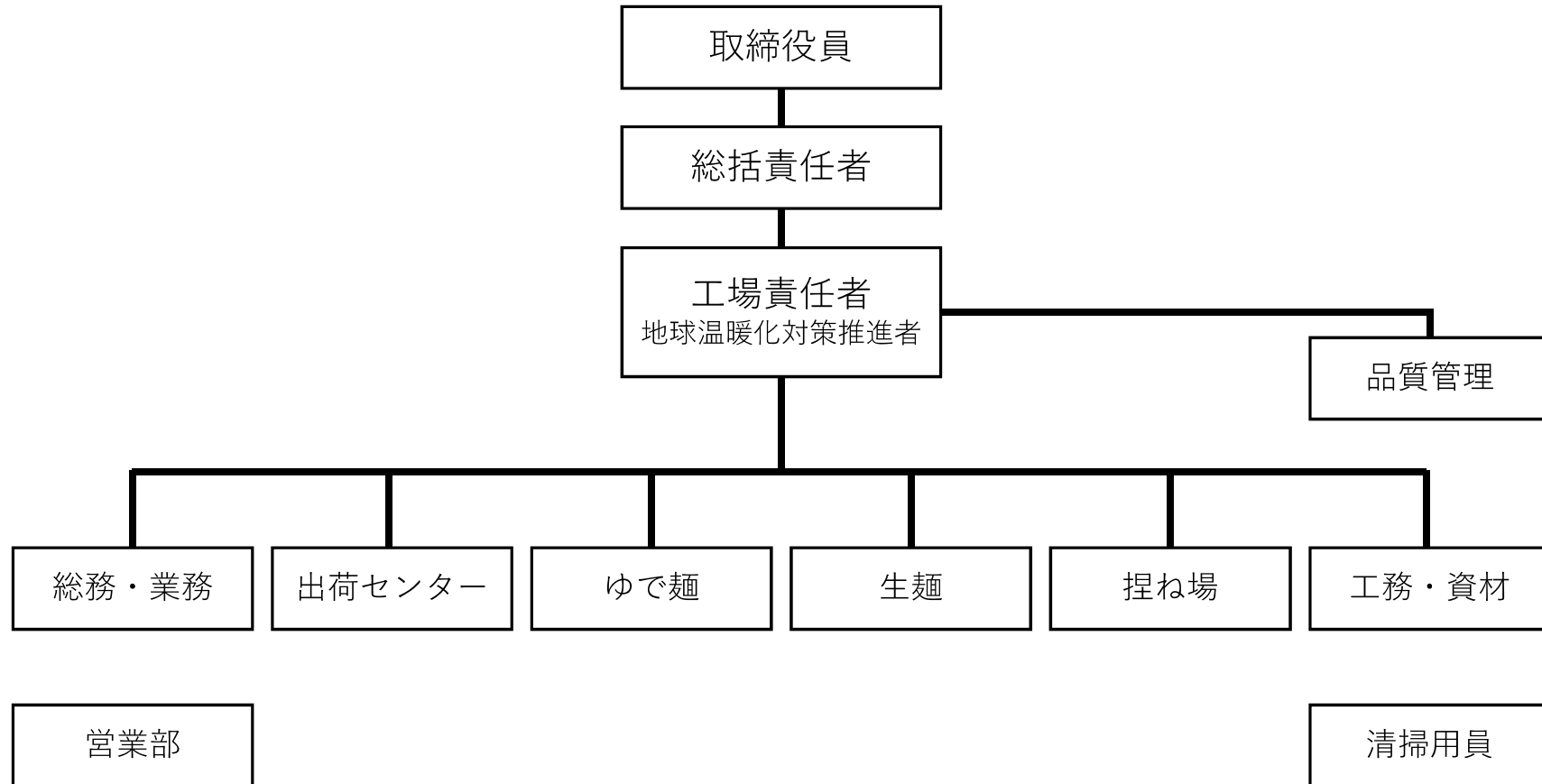
CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4,854	4,303			
その他ガス					
温室効果ガスの計	4,854	4,303			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

はつかり麺株式会社 組織図 (12期) 2022年度8月現在



注：工場責任者 = 地球温暖化対策推進者

令和 4 年度

事業者番号	0634	事業所番号	063401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	はつかり麵株式会社		
事業所所在地	市区町村	川越市南大塚	
	字・地番	2-4-20	
産業分類名(中分類)	09 食料品製造業		
分類番号(中分類)	09		
事業活動の概要	事業内容	めん類製造及び販売 従業員数: 100名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間(令和5年まで)の平均削減率を6%以上とする。令和6年は13%以上とする。 また、必要に応じて排出量取引を活用する			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,497	2,215			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	4,854	4,303			
前 年 度 比 ( % )	—	-11.4			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	4,854	4,303			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	13.2986	12.6559			
前 年 度 比 ( % )	—	-4.8			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
稼働日数	日/年	365.00	340.00		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場地下及び1F及び2Fの冷却工事を実施</li> </ul>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷水チラーの修繕を3度実施したため、機器効率が改善されCO<sub>2</sub>排出量が減少した。</li> </ul>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)						
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )						
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )						
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	4,854	4,303				9,157
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—
	排出削減量 ( $G = A - E$ )						
各年度の排出量の検証		未実施	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	高効率ボイラの導入	R5		80.0
2	320400		熱交換器等 32_廃熱の回収利用に関する措置	蒸気ドレンの有効活用	R5		5.0
3	320100		ボイラー、工業炉、蒸気系統、 32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの台数制御		R1以前	1.0
4	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水チラーの修繕	R3	R3	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							



## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

2022年度末に埼玉県補助事業（省エネ診断事業）にて工場内のエネルギー診断を実施する予定です。その診断で得られた結果をもとに、今後省エネに向けた改善を行っていく所存です。

令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	（類別の説明）
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者（III類の事業者を除く）
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	社会医療法人財団 石心会		
所在地	神奈川県川崎市幸区都町39番地1		
事業者番号	0635		
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,062	kL/年	
大規模小売店舗面積 (単独で1,500KL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡	
産業分類名 (中分類)	83 医療業		
分類番号 (中分類)	83		
事業活動の 概要	事業内容	健診から高度人工透析医療、在宅医療、福祉までトータルな 医療・福祉サービスを展開	
	区分	その他	
	前年度 資本金		百万円
	前年度 従業員数	3,165	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)			

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
B、C事業所			
C	063501	埼玉石心会病院	3,062
合 計			3,062

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	埼玉石心会病院 事務部
		所在地 1	埼玉県狭山市入間川2-37-20
		閲覧可能時間 1	月～金 9時～17時（土日、祝祭日除く）
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
		閲覧可能時間 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

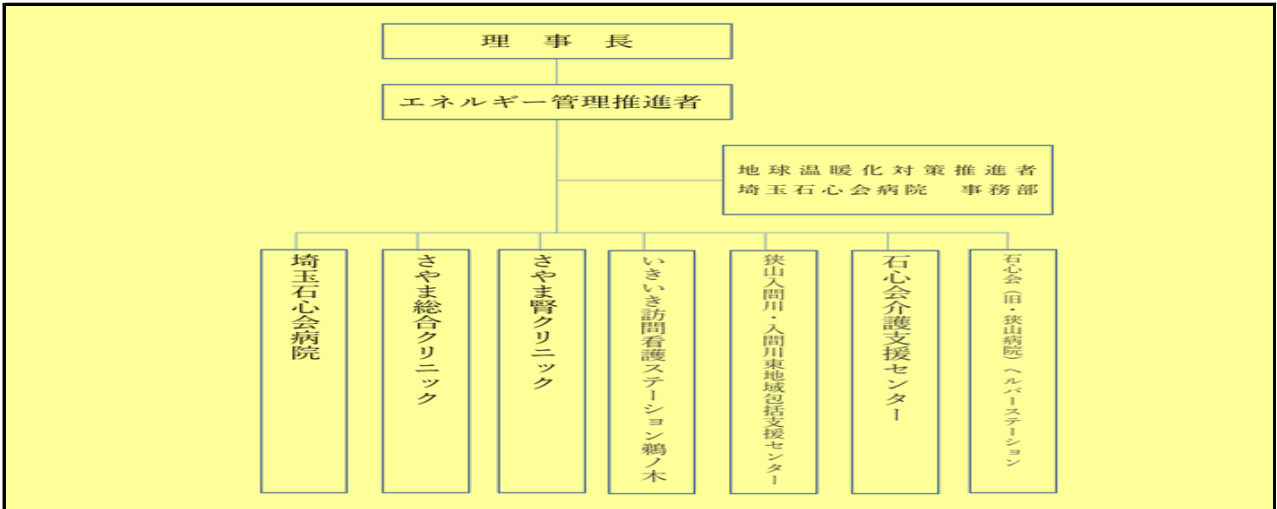
	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	埼玉石心会病院 事務部	04-2953-6611	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

基本方針 ・環境  
 保全に関連する法令を遵守します。  
 ・SDG委員会活動を中心に職員への省エネルギー対策を周知を行います。  
 ・地球温暖化計画対策を進めながら、当病院の基本理念に基づき、「断らない医療、患者主体の医療、地域に根ざし、地域に貢献する医療」を行います。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		6,049			
その他ガス					
温室効果ガスの計		6,049			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0635	事業所番号	063501
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉石心会病院		
事業所所在地	市区町村	狭山市	
	字・地番	入間川2-37-20	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	従業員数: 1,154人(R3.3.31現在パート含む) 病床数: 450床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		3	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第3期計画期間は年度平均で基準排出量の8%削減を目標にする。(必要に応じ排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	23,842	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)		
	削減目標量(計画期間合計)	2,074	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	第4期計画期間は年度平均で基準排出量の15%削減を目標にする。(必要に応じ排出量取引を活用する)				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
		3,062			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>		6,049			
前年度比 (%)	—				
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計		6,049			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位		0.1651			
前年度比 (%)	—				
活動規模の指標単位		36,630.57			
床面積		m <sup>2</sup>			

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	<p>1A病棟増設 (R3 11月竣工 12月運用開始) 延べ床面積1143m<sup>2</sup>          主な負荷としては空調、照明、コンセント等が電気、給湯がプロパンガス。          令和3年11月より令和4年3月までのCO2排出量の増加として、電力の単独メーターがないため、前年度と比較し推定で113,121Kwh、プロパンガスは使用量(請求書ベース)で84.7m<sup>3</sup>、温室効果ガスの排出量は約50t増加と推測しております。</p>					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	6,479	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	未実施	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

3	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量 (A)		6,479	6,479	6,479	6,479	25,916
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率 (B)		8.00%	8.00%	8.00%	8.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						23,842
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						2,074
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量 (E)		6,049				6,049
	削減率 (F = (A - E) / A)		6.64%				—
	排出削減量 (G = A - E)		430				430
各年度の排出量の検証			未実施				



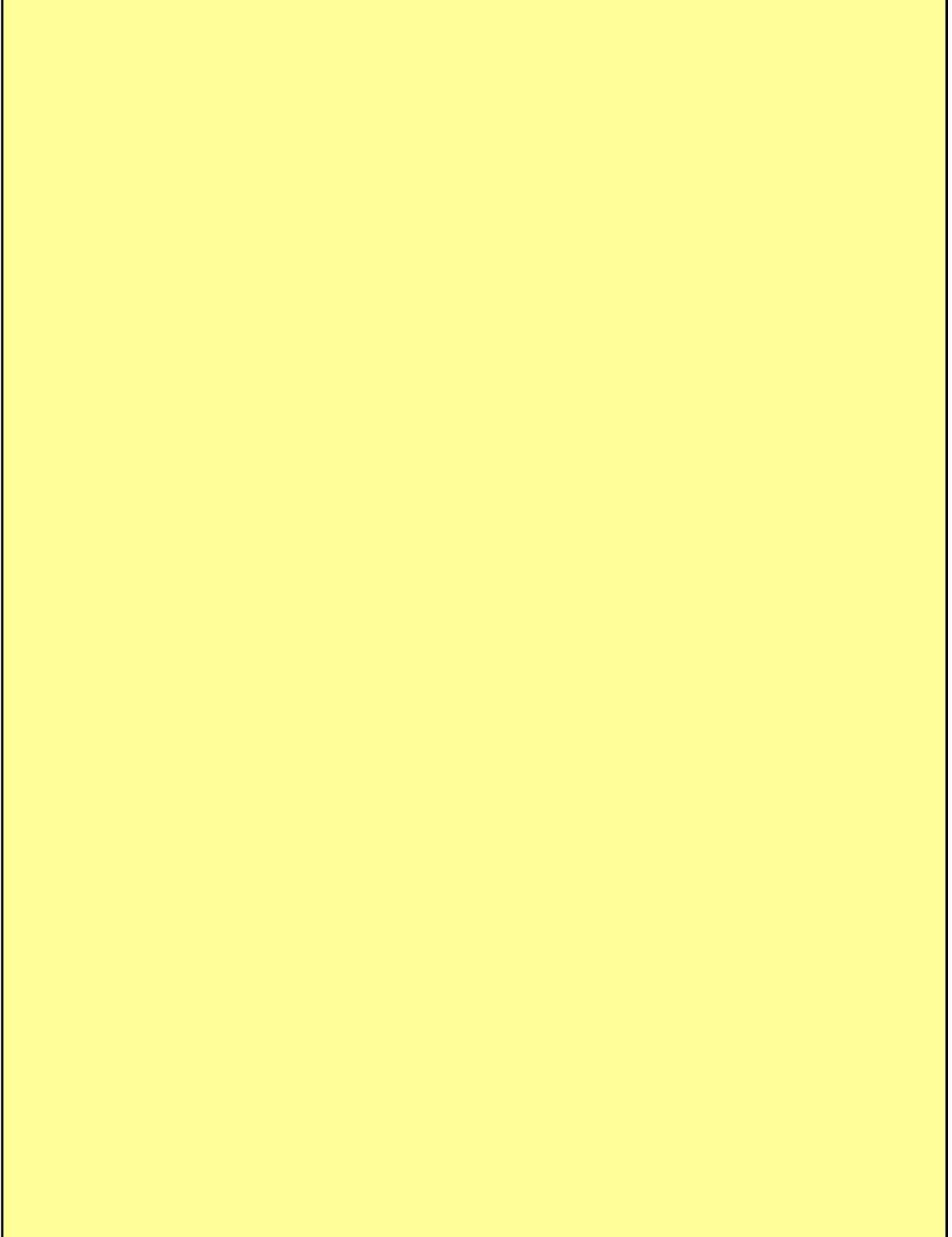
4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	院内にエネルギー担当者を任命し、啓もう活動を実施		R4	
2	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	諸室不在時、未使用時の照明、空調の停止及び巡回確認の実施		R4	
3	130300	空気調和設備・換気設備	13_換気設備の運転管理	外調機の時限停止(夜間、休日)		R4	130.0
4	490200	その他	49_その他の削減対策	暖房便座電源off(6月～10月)		R4	3.3
5	490200	その他	49_その他の削減対策	暖房便座温度を高一低(11月～5月)		R4	2.4
6	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	LED照明の間引き及び消灯		R4	10.7
7	490200	その他	49_その他の削減対策	空調機の室外機本体及び周辺床遮熱塗装による室外機運転効率アップ(15%削減)		R4	586.0
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
<b>Ⅲ類</b>	I類 A事業所のみを有する特定事業者
	II類 B事業所を有する特定事業者(Ⅲ類の事業者を除く)
	Ⅲ類 C事業所を有する特定事業者
	IV類 任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	アークランズ株式会社			
所在地	新潟県三条市上須頃445番地			
事業者番号	0636			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	12,294	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)	(三郷店)22408	㎡		
産業分類名 (中分類)	60 その他の小売業			
分類番号 (中分類)	60			
事業活動の概要	事業内容	小売事業（ホームセンター）、卸売事業、外食事業、不動産業、フィットネス事業、EC事業、リフォーム事業		
	区分	企業		
	前年度	資本金	8,000	百万円
		従業員数	1,507	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063600	ビバホーム上尾店	10,706
B、C事業所			
C	206801	アークランズ株式会社 スーパービバホームさいたま新都心店・関東本部	1,588
合 計			12,294

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	関東本部 6階
		所在地 1	埼玉県さいたま市浦和区上木崎 1丁目13番1号
		閲覧可能時間 1	月～金 10時～17時(土日除く、祝日)要事前連絡
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	SC事業部 SC運営課	048-610-0609	
2			
3			

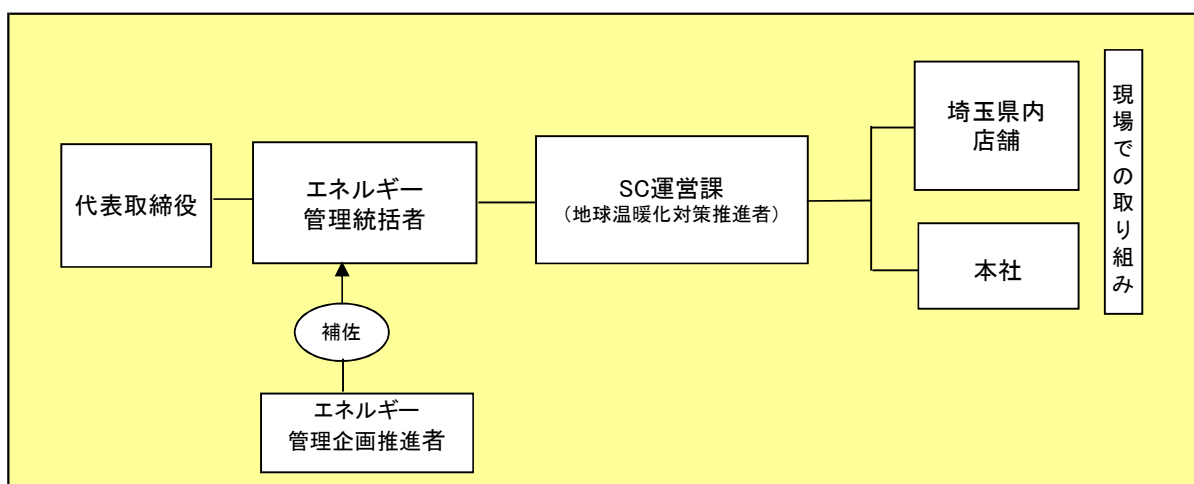
※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

私達は、事業活動の環境効率を向上させ、環境への負荷を低減させます。特に、地球規模の課題である温暖化防止については、低炭素社会の実現に向けて重点的に取り組みます。

- ①環境負荷の少ない「省エネ型」の店舗運営を実践します。
- ②環境に配慮した商品づくりとお客様への提供を推進します。
- ③お客様と共に行動します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	22,430	24,117			
その他ガス					
温室効果ガスの計	22,430	24,117			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0636	事業所番号	063600
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	ビバホーム上尾店	前年度における事業所数	18
代表事業所所在地	市区町村	上尾市	
	字・地番	上304	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	60 その他の小売業		
分類番号(中分類)	60		
事業活動の概要	総合小売業及び住宅リフォーム		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度	
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	23.7454	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ×百万h
	【第3計画期間】 令和2年度の排出量原単位を基準として、毎年1%以上ずつ改善する。						
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる 排出量		t-CO <sub>2</sub>	基準となる 原単位	
	その他ガス					

## 事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	ビバホーム上尾店	上尾市上304
2	ビバホーム草加店	草加市谷塚仲町488
3	スーパービバホーム深谷店	深谷市上柴町東二丁目29番地8
4	ビバホーム日高店	日高市大字鹿山551番地
5	ビバホーム浦和さいど店	さいたま市緑区道祖土2丁目9番地22号
6	ビバホーム志木店	志木市柏町一丁目6番75号
7	スーパービバホーム鴻巣店	鴻巣市大字箕田1771番地1
8	ビバホーム東松山インター店	東松山市大字石橋1585番地10
9	スーパービバホーム埼玉大井店	ふじみ野市西鶴ヶ岡1丁目3番15号
10	スーパービバホーム三郷店	三郷市ピアラシティ1丁目1番地140
11	スーパービバホーム加須店	加須市下高柳1丁目7番
12	スーパービバホーム狭山日高インター飯能店	飯能市大字芦刈場字中原446番地
13	スーパービバホーム岩槻店	さいたま市岩槻区府内3丁目7番1号
14	スーパービバホーム春日部店	春日部市下柳769番地1
15	スーパービバホーム西川越店	埼玉県川越市大字小室55番地
16	スーパービバホーム本庄店	埼玉県本庄市中央2丁目4番60号
17	スーパービバホーム東松山モール店	埼玉県東松山市神明町2丁目11番6号
18	スーパービバホーム蕨錦町店	埼玉県蕨市錦町1-12-1
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	9,891	10,706			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		19,400	21,001			
前年度比 (%)		—	8.3			
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
三ふっ化窒素						
温室効果ガスの合計		19,400	21,001			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	23.7454	23.7454	19.6782			
前年度比 (%)		—	-17.1			
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.0	17.1			
活動規模の指標	単 位					
床面積×年間営業時間	m <sup>2</sup> ×百万h	817.00	1,067.22			



(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	20年度に大型店（モール：本庄店・東松山モール店）を出店したため
令和3年度 (2021年度)	2022年1月 ビバホーム東松山インター店閉鎖、2021年3月オープンしたスーパービバホーム蕨錦町店が1年経過
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	本社にて対象店舗全店の電力使用量を管理し、各店の担当者(店次長・総務担当者)と連動	R1以前	R1以前	20.0
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	デマンド監視装置の導入により、自店のムダな運用を見直す	R1以前	R1以前	30.0
3	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	月別目標値の設定とデマンド目標値を設定し、電力使用量の管理とデマンド更新防止	R1以前	R1以前	50.0
4	120300	熱源設備・熱搬送設備	12_運転管理及び効率管理	空調設備の効率的運営については各店の改善事例を横展開して情報共有	R1以前	R1以前	50.0
5	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H30 GHP空調のみえる化を実現し、本社従業員への啓発活動を継続推進	R1以前	R1以前	40.0
6	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H31スーパービバホーム三郷店に新型GHP空調を導入(入替)。効果は最低▲20%以上のCO2削減となります。	R1以前	R1以前	50.0
7	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	H32スーパービバホーム埼玉大井店に新型GHP空調を導入(入替)。効果は最低▲20%以上のCO2削減となります。	R1以前	R2	50.0
8	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	スーパービバホーム狭山日高インター飯能店の空調設備入替え	R4		50.0
9	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し(使用量10%削減)	R4		1,600.0
10	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間(電源ON/OFF)の見直し(使用量10%削減)	R4		400.0
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0636	事業所番号	206801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	アーケランズ株式会社 スーパービバホームさいたま新都心店・関東本部		
事業所所在地	市区町村	さいたま市浦和区	
	字・地番	上木崎1丁目13番1号	
産業分類名(中分類)	60 その他の小売業		
分類番号(中分類)	60		
事業活動の概要	事業内容	総合小売業及び住宅リフォーム	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対して、R3年度までは各年度8%以上、R4年度以降は各年度15%以上の削減率とする。				
	その他ガス	なし				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	31,054	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第1区分-(1)		
	削減目標量(計画期間合計)	4,316	t-CO <sub>2</sub>			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,545	1,588			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	3,030	3,116			
前 年 度 比 ( % )	—	2.8			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	3,030	3,116			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	3.3555	3.3362			
前 年 度 比 ( % )	—	-0.6			
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
従業員数	903.00	934.00			
人					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	昨年から比較して変わらず。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度のエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量の増加要因は、コロナ禍の影響が緩和され、営業時間や定休日が元に戻った事による電力使用量UPによるもの。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	7,074	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第1区分- (1)
----------	-----------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量等	基準排出量(A)	7,074	7,074	7,074	7,074	7,074	35,370	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	8.00%	8.00%	15.00%	15.00%	15.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							31,054
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							4,316
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,030	3,116				6,146	
	削減率 (F = (A - E) / A)	57.17%	55.95%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	4,044	3,958				8,002	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

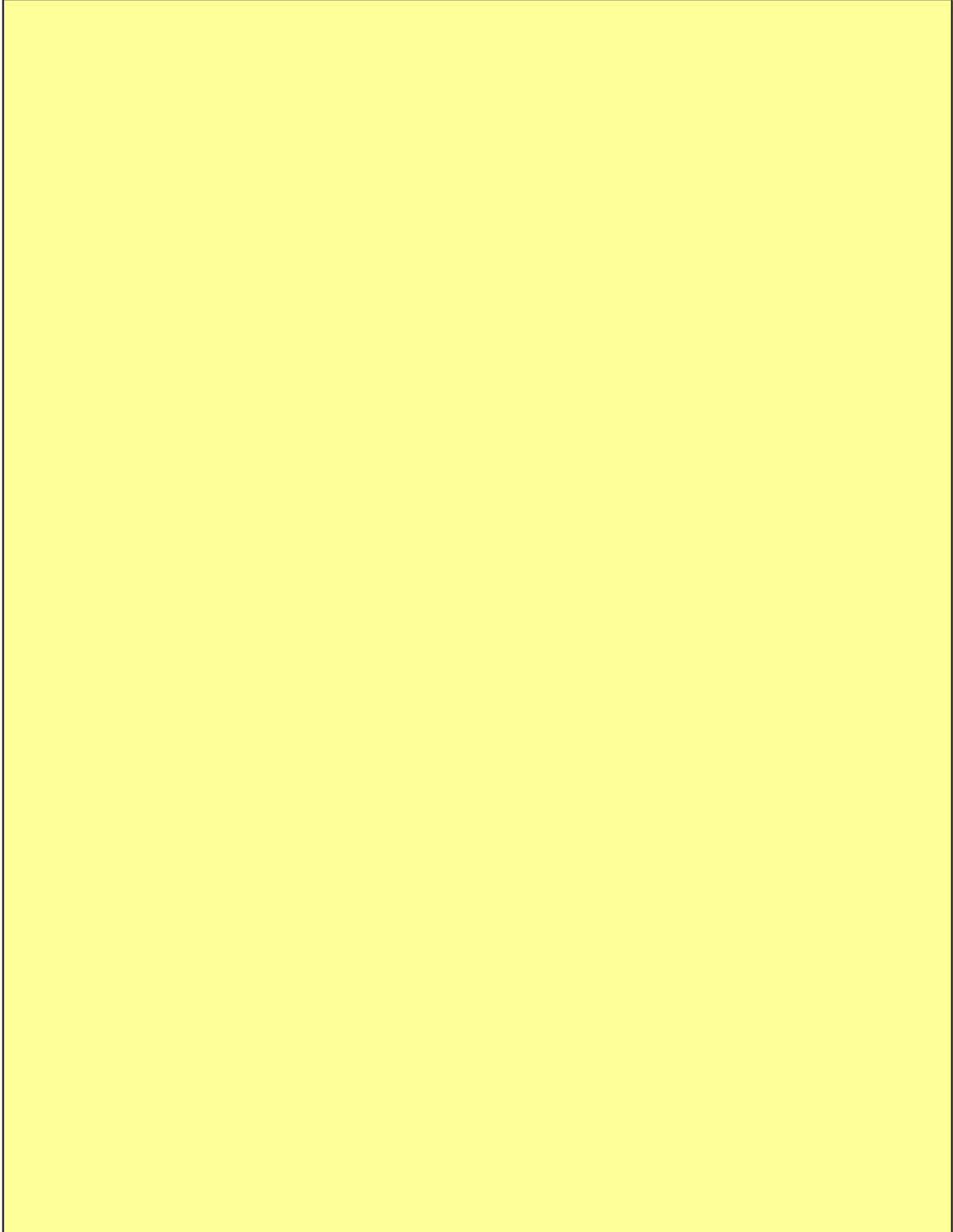
No	対 策 の 区 分		対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)		
	区 番	区 分 号					区 分 名 称	
							大 区 分	中 区 分
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	環境組織を構築、第三計画期間も継続	R1以前	R2	5.0	
2	110300	一般管理事項	11_計測及び記録の管理	デマンド監視装置の導入により本社及びホームセンター店舗の数値を分析し削減対策を実施。第三計画期間も継続	R1以前	R2	5.0	
3	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	最新型LED照明器具を導入、運用面でも営業外時間の使用を管理しています。第三計画期間も継続	R1以前	R2	1.0	
4	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	毎月の使用料の見える化（本社6F、7F）により全従業員に使用量削減を指導しています。	R1以前	R2	2.0	
5	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	GHP空調のみえる化を推進します（本社）週管理の実施により啓発活動を強化します。	R1以前	R2	3.0	
6	150200	受変電設備、照明設備、電気設備	15_照明設備の運用管理	開店前、営業中、閉店後の照明設備の運用見直し（使用量10%削減）	R4		290.0	
7	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	空調機の稼働時間（電源ON/OFF）の見直し（使用量10%削減）	R4		25.0	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								



5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄



令和 4 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	医療法人徳洲会			
所在地	東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階			
事業者番号	0637			
燃料等使用量の 原油換算の合計量 (前年度)	3,511	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床 面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	83 医療業			
分類番号 (中分類)	83			
事業活動の 概要	事業内容	医療業		
	区分	その他		
	前年度	資本金		百万円
		従業員数	1,100	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所 種別	事業所 番号	事業所名	前年度の原油換算 エネルギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所			
A	063700	医療法人徳洲会 皆野病院	1,013
B、C事業所			
C	063701	医療法人徳洲会 羽生総合病院	2,498
合 計			3,511

## (4) 公表方法

	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合 は別様としてください)	閲覧場所 1	羽生総合病院 総務課
		所在地 1	埼玉県羽生市下岩瀬446
		閲覧可能 時間 1	AM9:00~PM:17:00
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

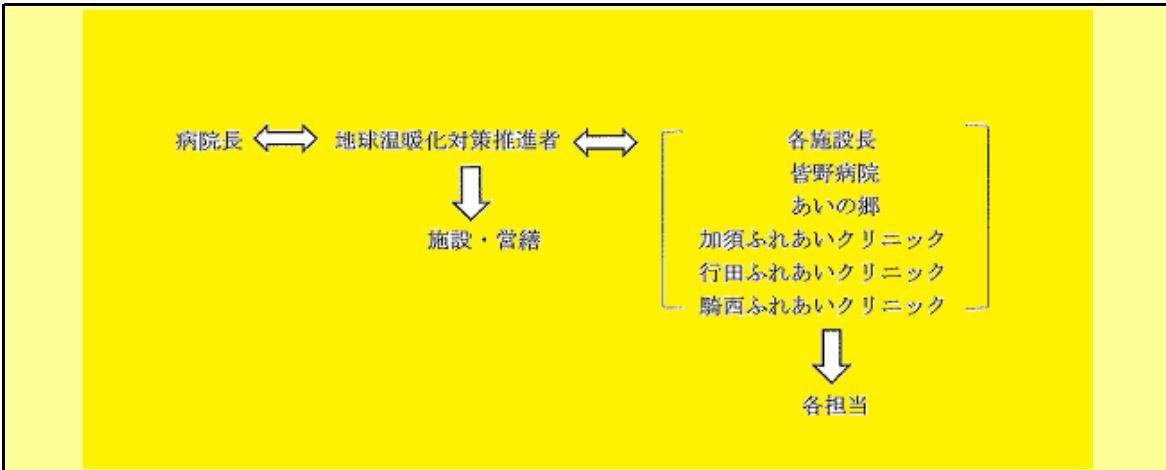
	名 称 (複数可)	連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	施設・営繕	048-501-6533	setubi@fureaihosp.or.jp
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

不必要なエネルギー消費を無くし、最適で高効率なエネルギーの使用を目指す。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	6,806	7,862			
その他ガス					
温室効果ガスの計	6,806	7,862			

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 4 年度

事業者番号	0637	事業所番号	063700
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	医療法人徳洲会 皆野病院	前年度における事業所数	6
代表事業所所在地	市区町村	秩父郡皆野町	
	字・地番	皆野2031-1	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	医療業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
	温室効果ガス排出を毎年、前年比で0.2%削減				
	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	医療法人徳洲会 皆野病院	秩父郡皆野町皆野2031-1
2	介護老人保健施設あいの郷	羽生市桑崎196-1
3	騎西ふれあいクリニック	加須市騎西1352-3
4	加須ふれあいクリニック	加須市下三俣1790-1
5	行田ふれあいクリニック	行田市持田3-15-23
6	須影ほのぼのホーム	羽生市下川崎八幡前394-1395
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	586	1,013			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	基準	1,292	2,217			
	前年度比 (%)	—	71.6			
	基準となる排出量に対する削減率 (%)					
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温室効果ガスの合計		1,292	2,217			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	基準	0.1138	0.1076			
	前年度比 (%)	—	-5.5			
	基準となる原単位に対する削減率 (%)					
活動規模の指標	単 位	11,354.00	20,606.75			
	延べ床面積 m <sup>2</sup>					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	高効率設備に更新したことによる省エネルギー効果で排出量が減少した。
令和3年度 (2021年度)	新型コロナウイルス感染患者増加に伴い入院患者も増加した為。
令和4年度 (2022年度)	
令和5年度 (2023年度)	
令和6年度 (2024年度)	



4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

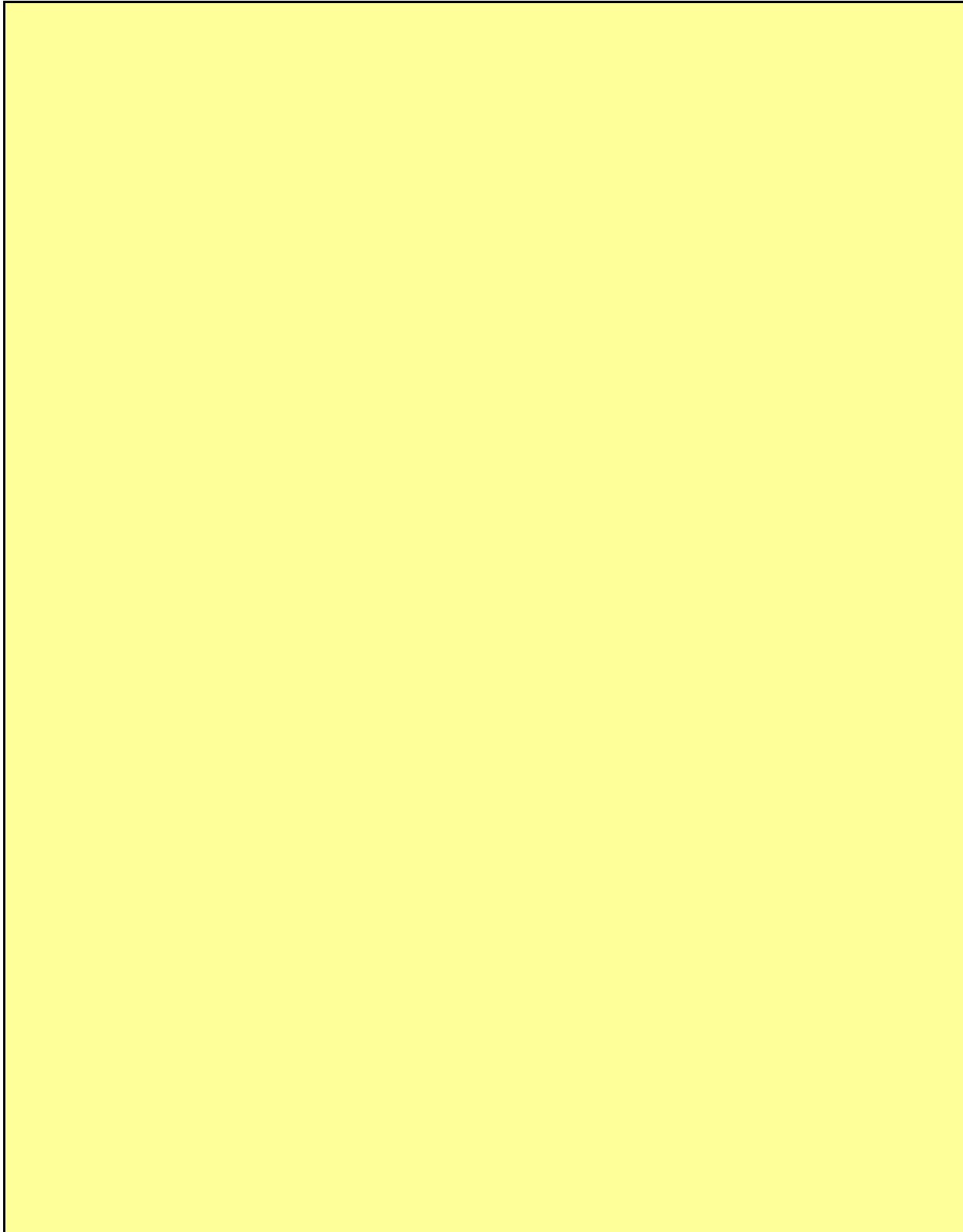
No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	150200	受変電設備、 照明設備、 電気設備	15_照明設備の運用 管理	照明設備をLEDに変更【継続実施】	R3	R3	
2	130100	空気調和設 備・換気設備	13_空気調和の運転 管理	エアコンの買換えを行う際には省エネ対応の 商品を	R2	R2	
3	110200	一般管理事 項	11_主要設備等の保 全管理	老朽した設備の修理、点検回数を増やす。	R2	R2	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄



令和 4 年度

事業者番号	0637	事業所番号	063701
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	医療法人徳洲会 羽生総合病院		
事業所所在地	市区町村	羽生市	
	字・地番	下岩瀬446	
産業分類名(中分類)	83 医療業		
分類番号(中分類)	83		
事業活動の概要	事業内容	病床数311床	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	平成31年度排出量を基準として削減計画期間の平均削減率を8%を目標とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)		t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,426	2,498			

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO <sub>2</sub>	5,514	5,645			
前 年 度 比 ( % )	—	2.4			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
	三 ぶ っ 化 窒 素				
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	5,514	5,645			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1778	0.1690			
前 年 度 比 ( % )	—	-4.9			
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
延べ床面積	m <sup>2</sup>	31,021.00	33,409.96		

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無	夏場の気温が高く、多くエアコンを使用した。また、2021年1月から新型コロナウイルス感染症病棟(仮設)80床を増床稼働指せたため増加した。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	新型コロナウイルス蔓延の為、診療行為の増大による排出量増加。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

## 3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

## (1) 基準排出量

基準排出量		t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証		

## (2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

## (3) 目標削減率

目標削減率の区分	
----------	--

## (4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

## (5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)							
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)							
	排出上限量 ( $C = \sum A-D$ )							
	排出削減目標量 ( $D = \sum (A \times B)$ )							
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	5,514	5,645				11,159	
	削減率 ( $F = (A - E) / A$ )						—	
	排出削減量 ( $G = A - E$ )							
各年度の排出量の検証								

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	110400	一般管理事項	11_エネルギー使用量の管理	デマンドでのエネルギー管理【毎年度継続実施】	R3	R3	
2	130100	空気調和設備・換気設備	13_空気調和の運転管理	エアコンの温度管理 夏季28℃【毎年度継続実施】	R3	R3	
3	130200	空気調和設備・換気設備	13_空気調和設備の効率管理	エアコンの間欠運転を行い、稼働時間を削減する。	R3	R3	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

